

始

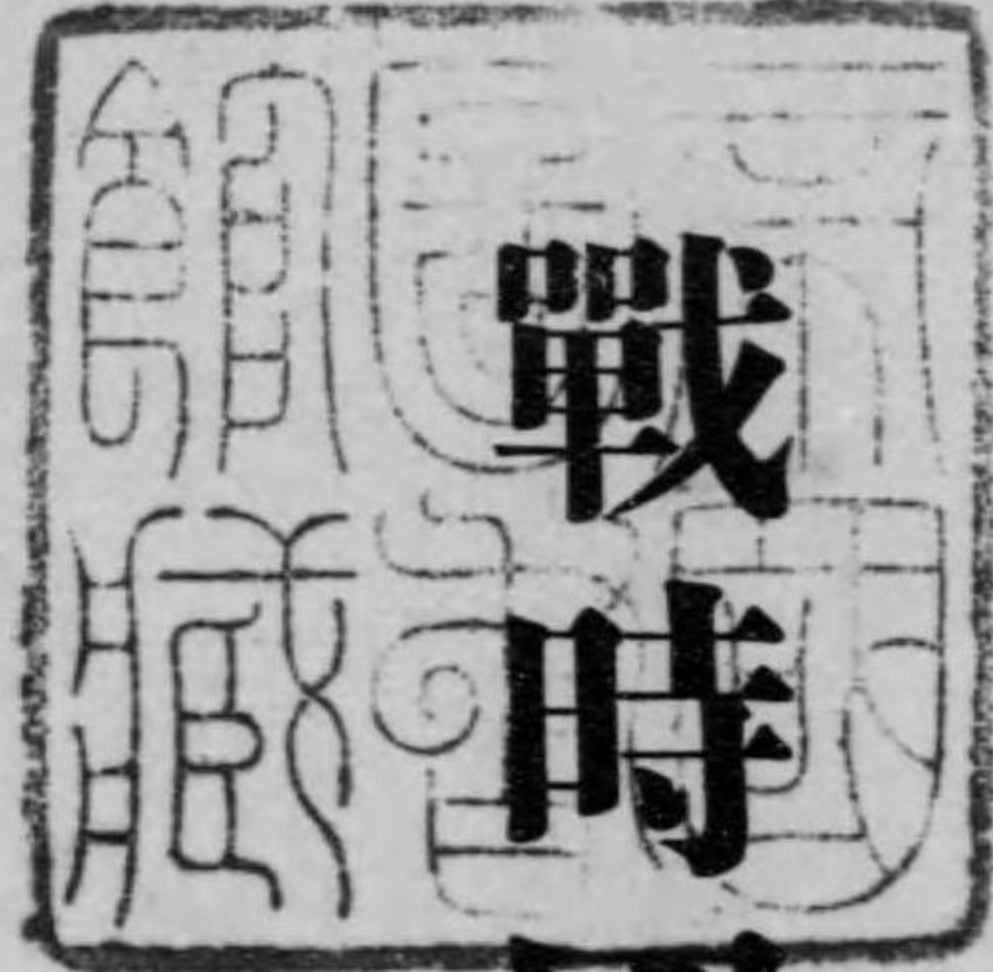


立博士講述

(非賣品)

戰時國際公法 完

東京帝國大學講義



戰時國際公法

完

立博士講述

(非賣品)

東京帝國大學講義



戰時國際公法 目次

第一編 交戰法規

第一部 交戰法規通論

第一章 戰爭之概念及概說

戰爭之定義、戰爭之原因及目的、

第二章 交戰國際法規概說

戰爭之國際法、交戰法規之起源、

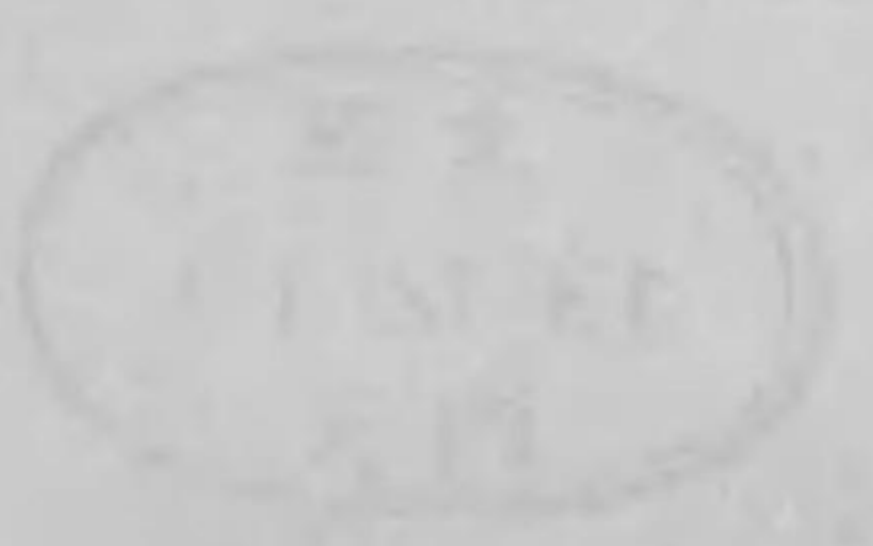
交戰法規之基本觀念、戰、

交戰法規之效力、交戰法規違反、制

裁、戰時復仇、戰時重罪、

交戰之主体及其兵力

交戰之主体、交戰之主体之兵力、



14-908

第四章

人及物、敵性

概說、人、敵性、物、敵性

船舶、敵性、船籍、移載

交戰區域

戰爭、開始

概說、敵對行為、依戰爭、開始

宣戰、依戰爭、開始

同戰、結果

緒言、交戰國間、外交關係、中立

內戰、予スル條約、實施、或種、條

約、效力、喪失又ハ停止、領域内ニ

在ル敵國人、取扱、而交戰國ノ一般

人民間ノ交通及貿易、中止並ニ敵人

ノ訴訟能力、停止、領域内ニ在ル敵

國ノ公私財産、取扱、內戰、際、敵

四八

六五

六六

七一

第八章

商船、取扱

交戰國間、準平和關係

概說、軍使、旅行券、安葬

券、護衛、カカ、カ、カ

カ、カ、カ、戰時規約

降伏規約

降伏規約、性質、締結、權限運降伏

規約、方式、降伏規約、內容及遵守

降伏規約、違反及失效

休戰規約

休戰、性質及種類、規約締結、權限

休戰、方式、休戰、內容、休戰、

開始、休戰、違反、休戰、終了、

戰爭、終了概說、一方ノ交戰國ノ征

八二

九一

九六

一〇五

第十一章

第十二章

假借合、單純ナル戦争行為、終了
講和條約
講和條約ノ性質及其締結ノ手續、
講和條約締結ノ权限、講和條約ノ
方式、講和條約ノ效果、講和條
約ノ執行

第二部

陸戰法規

第一章

陸戰ニ於ケル敵人ニ對スル害敵手段
陸戰ニ於ケル害敵手段概説、敵ノ
戦闘員ニ對スル害敵手段、敵ノ非
戦闘員ニ對スル害敵手段、敵ノ非
交戦者ニ對スル害敵手段、敵ノ非
陸戰ニ於ケル俘虏
俘虏トナルハ
人、俘虏ノ逃走、俘虏ノ身分

第二章

陸戰ニ於ケル傷者病者ノ救護及軍隊衛
生上ノ機關
概説、傷者及病者ノ救護、衛生
機關、衛生機關所屬人員、衛生機
関ノ材料、後送機關、赤十字ノ記
章、死者ノ保護
陸戰ニ於ケル突撃攻圍及砲撃
概説、攻圍、突撃、砲
撃

第三章

陸戰ニ於ケル奇計
奇計ト陸戰條規、奇計及背信ノ行為、
奇計ト國旗、軍用標章及敵ノ制服ノ使
用、奇計ト赤十字條約ノ記章及軍使
旗ノ使用、背信行為ヲ含マサル奇計

第四章

陸戰ニ於ケル突撃攻圍及砲撃
概説、攻圍、突撃、砲
撃

第五章

陸戰ニ於ケル奇計
奇計ト陸戰條規、奇計及背信ノ行為、
奇計ト國旗、軍用標章及敵ノ制服ノ使
用、奇計ト赤十字條約ノ記章及軍使
旗ノ使用、背信行為ヲ含マサル奇計

第六章

陸戰ニ於ケル間諜及戰時叛逃ノ利用
儲言、同謀、戰時叛逃

一五七

第七章

敵國領土ノ占領
占領ノ一般の性質、占領ノ開始ノ時期及占領ノ區域、占領者ノ占領地ノ住民ニ對スル权力、占領地ニ於ケル敵國ノ官公吏及裁判官ノ占領ノ終了

一六一

第八章

陸上ニ於ケル敵國公有財産ノ没収及
休用、
儲言、敵國ニ在ル公有ノ不動産
敵國ニ在ル公有ノ動産、戰場ニ於ケル敵ノ動産

一七二

第九章

陸上ニ於ケル敵國私有財産ノ没収及
使用、

一七六

第十章

概説、敵國ニ在ル私有不動産
敵國ニ在ル私有財産、戰場ニ於ケル敵ノ私有財産、開戦後領域内ニ入レル敵ノ私有財産
陸上ニ於ケル取立金及空襲
定義、沿革、取立金、徴

一八〇

第十一章

陸上ニ於ケル敵ノ財産ノ破壊
破壊、一破の荒蕪

一八五

第三部

海戰法規

敵船ノ攻撃及拿捕 (附海上私有財産ノ捕獲ニ對スル主義、沿革)
海戰概説、敵ノ公船ノ攻撃及拿捕、公船ノ拿捕免除、私船ノ攻撃及拿捕、私船ノ拿捕免除、敵ノ私船ノ拿

一八八

一八九

第二章

捕ノ誤ラレ、理由、海上私有財産ノ捕獲ニ付スル主義、沿革、敵ノ私船ノ没収及破壊

二〇九

第三章

捕獲審檢所、拿捕サレタル船舶ノ没収、拿捕サレタル敵國私船ノ破壊、債ノ贖、捕獲物ノ喪失、軍艦内ノ痲痘、中立國ノ軍艦又ハ私船ニ依ル救護、傷者、病者及難船者、死者、衛生救法人員、海戦ニ於ケル徵象取立金及砲撃

二二四

第四章

取立金及徵象、砲撃、突撃、海戦ニ於ケル奇計並ニ间谍及戰時叛逆ノ利用

二二九

第五章

奇計、间谍及戰時叛逆、海底電線ノ破壊

二三〇

第二編 中立法規

第一章

概説、一方ノ交戦國領土向ノ電線、雙方ノ交戦國領土向ノ電線、中立國領土向ノ電線、中立國領土ト交戦國領土トノ向ノ電線

二三五

第二章

中立ノ概念、中立ノ種類、中立ノ時期及終期、中立ノ權利義務概説、中立ノ侵害及中立國ノ責任、中立侵害ニ依ル捕獲ノ交戦國向ノ效力、中立國自身ノ積極的行為ニ関スル中立國ノ權利義務、(禁止、義務及禁止、義務スル權利)

二五七

第三章

中立國領域ニ於ケル交戦國ノ行為又ハ

九

第四章

個人ノ行為ニ関スル中立國ノ權利義務
(禁過ノ義務及之ニ牽連スル權利)
概説、中立領域ノ不可侵、中立
領域ニ依ル庇護、

二九一

第五章

中立國臣民ノ行為ニ関スル中立國ノ
權利義務、(臣民ニ行ハスル禁過義務及監視)
戰時禁制品
戰時禁制品ノ性質及種類、戰時禁制品
輸送ノ結果、

二九七

第六章

封鎖
封鎖ノ性質、封鎖ノ施行、封鎖ノ優
越、封鎖優越ノ結果、封鎖ノ終止、

三〇七

第七章

軍事助助ノ種類、(敵對助助)
軍事助助ノ種類、軍事助助ノ結果、
中立船舶ノ臨檢及拿捕

三四五

三六四

第九章

臨檢、拿捕、
拿捕セラレタル中立船舶ノ審檢
捕獲審檢所、審檢ノ結果、
中立財産

三八一

三八八

第十章

中立財産ニ于スル概説、非帯徴用杖



戰時國際公法 目次終り

戰時國際公法

法學博士 立作太郎 講述

第一編 交戰法規

第一部 交戰法規通論

第一章 戦争ニ関スル概説



第一、戦争ノ定義
 國際法上ニ於ケル戦争トハ一國家カ相手國ノ抵抗カヲ排シ自巳ノ主張ヲ
 貫徹スルニ對シテ相手國ニ對シテ平時ニ於テ許サレサル加害手段ヲ行フコトヲ謂フ
 然レドモ國際法上平時ニ異ル權利義務ノ干渉ヲ生スルコトヲ認メラル、數國
 共同ノ状態トス、而シテ斯ノ如ク状態ニ在ル國家ハ互ニ相敵對スル交
 戰國ニシテ他國家間ニ戰爭ノ存スル際ニ於テ此状態ニ直接ニ干渉セザル國

家ハ中五國ナリトス

上述ノ戦争ノ定義ヲ分析シテ説明ヲ加フヘシ

(一) 戦争トハ国家間ノ状態ナリ。國際法上ニ於ケル戦争トハ国家ノ状態ナリ。マヌハ國家ノ兵力ニ依ル争鬪其ノモノナリ。マヌキ学説令レタリ多数ノ学者ハ國際法上ニ於ケル戦争ヲ以テ兵力ニ依ル國家間ノ争鬪ナリト爲ス。余ハ國際法上ニ於ケル戦争ノ概念ハ戦争ニテスル國際法上ノ現象シ最モ善ク説明スルニ足ルモノヲ採ルヘシト爲ス。マヌキ以テ余ハ現時ノ戦争ニテスル國際法上ノ現象ヲ最モ善ク説明スルト信スル状態説ヲ採リテ行ハル。ニ拘ラス争鬪説ヲ採ラス。國際法ノ父ト稱セラルルグロコフヲウスハ風ニ戦争ハ行爲ニテラスシテ状態ナリトノ説ヲ爲シ戦争ヲ定義シテ「強カニ依リ給テ処理スル者ノ新ノ如ク者タル兵ヨリ見タル状態ナリ」ト爲セルハ私人間ノ争鬪ノ場合ヲモ戦争ノ定義中ニ含マシメタル莫ニ於テ現下ノ國際法ニ於ケル戦争ノ定義トシテハ探ルヘカラスト云モ其ノ戦争ヲ以テ國家ノ状態ナリト爲ス莫ニ於テハ専領ヲ得タルモノナリトシテ之ヲ賞讃スル学者少カラス。

ルソノノ戦争ノ研究

(二) 戦争ハ兼國家間ノ状態ナリ。國際法上ニ於ケル戦争ハ國家間ノ状態ニシテ個人間ノ状態ニテラス唯個人ノ國家ニ対スル緊密ノ干渉ニ基キ一交戦國ハ相手交戦國ノ臣民ヲ以テ敵性ヲ有スルト認メ得ヘキニ至ルノモ昔時ニ於テハ各交戦國ノ臣民ハ相手交戦國ヨリ見テ其敵タルノミナラス相手交戦國ノ臣民ヨリ見ルモ亦敵ナリト看做サレ戦争ハ國家間ノ状態タルノミナラス兼テ個人相互間ノ状態ト認メラレタリ。交戦國ノ臣民相互ヲ以テ總テノ干渉ニ於テ戦争ノ當事者ト爲スノ見解ハ戦争ニ於テ私人殊ニ老幼婦女ニ対シテ慘酷ノ苛虐々行ハルハヲ致セリ。一方ノ交戦國ノ各臣民ノ身体財産ハ他方ノ交戦國ノ各臣民ノ加害シヌハ奪取シ得ヘキモノタラシメタレハナリ。其後戦争ノ慣行ニ於テ改良行ハレタルカ十八世紀ノ中頃ニ至リ昔時ノ戦争ニテスル概念ニ正反對ナル極端ナル説ヲ主張サル。ニ至レリ。ルソノハ其社会契約論中ニ論シテ曰ク「戦争ハ人ト人トノ干渉ニテラスシテ國家ト國家トノ干渉ナリ。戦争ニ於テ個人ハ人間トシテ人ハ一國ノ臣民トシテ敵トナルニテラスシテ兵士トシテ偶然的ニ敵トナルノミ、個人ハ其ノ所屬國ノ組織

自トシテ敵トナルニアラスシテ其防禦者トシテ敵トナルノミ又國家ハ
他ノ國家ヲ敵トナスヲ得ヘキモノ人ヲ敵トスルヲ得ス、國家ト人ト
ハ性質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ其間ニ何等ノ眞實ノ干渉モ成立スル
能ハサルハナリト一八〇一年仏國ノ捕獲審檢所ノ開廷ノ際仏國ノ有
名ナル法律家ニシテ且政治家タルポルメリスカルソーノ説ヲ略其説
ノ終核用シ戦争ハ國家間ノ干渉ニシテ個人間ノ干渉ニアラス故ニ交戦
國ノ臣民ハ軍ニ兵士トシテ敵トナルノミニシテ一國ノ臣民トシテ敵ト
ナルモノニアラスト説ケリ、當時此新説ハ急ニ流行セルニアラサルカ
如クド、マルテンス、クリューバー、ケント、ホイートン、マンニン
グ、諸家カ猶旧説ヲ採レルヲ見レハ十九世紀ノ上半ニ於テハ旧説カ猶
當時ノ國際法規トシテ行ハレタルヲ察スルニ足ル、然レモ十九世紀ノ
後半ニ於テハ歐洲大陸ノ諸國ニ於テ新説盛ニ行ハル、ニ至レリ、英米
ノ學者ハ尚旧説ヲ維持シ兩交戦國ノ個人相互ノ關係ニ亦原則トシテ敵
對ノ干渉ナリト爲ス、

惟フニ現實國際法ノ説論トシテ現實ノ戦争ニ關スル國際法上ノ現象

ヲ最ニ善ク説明シ得ヘキ觀念ヲホムレハ旧説ト新説トノ中間ニ之ヲ兼
見スルヲ得ヘシト云ハサルヘカラス、即チ(一)戦争ハ國家間ノ干渉
ナリト云モ(二)交戦國ト其臣民トノ戦争ニ干スル事實上ノ緊密ノ干
渉ニ基キ一方ノ交戦國ハ他方ノ交戦國ノ臣民ヲ敵トシテ之ニ戦争ノ間
接ノ影響ヲ及ボスノミナラス戦争上必要ナル範圍内ニ於テ直接ノ影響
ヲ及ボスコトヲ得サルヘカラス、即チ戦争ニ必要ナル範圍内ニ於テ
個人カ對テ國ニ對シテ敵性ヲ受クルヲ認メサルヘカラス、現今ノ國家
ニ於テ人民ノ大部分ノ意思ニ反シテ戦争ヲ開始セラル、コト殆ント十
ク戦争中國家ノ抵抗力ノ資源ハ人民ニ依ラサルヲ得ス、而シテ戦争ノ
終了モ人民ノ輿論ニ依リ運送ヲ生シ屢々人民ニ對スル經濟上等ノ圧迫
ニ依リ戦争ノ終了カ早メラル、コトアリ、戦争ニ干スル國家ト個人ト
ノ緊密ノ干渉知ルヘキナリ、恒シ個人ノ受クル戦争ノ影響ハ戦争上必
要ナル程度ニ限ルヘク又人道及其他ノ思想ニ基キ戦争法上認メラレタ
ル制度内ニ於テセサルヘカラス、而シテ必要ト制限トハ臣民カ交戦國
タルト平和的臣民タルトニ依リテ異ルヲ以テ加害ノ方法及程度ニ亦交

戰者ト平和的臣民トノ間ニ差異ナク得ス（此ノハ2）
臣民ニ付テハ新説ノ認メサル所ナリ（3）
ハ戰爭ニ依リ直接ノ敵對關係ヲ生セス、此ノ意味ニ於テ戰爭カ個人間ノ關係ニアラスト云フハ正當ト認メサルヘカラス（此ノハ3）ノ兵ハ
旧説ノ認メサル所ナリ

(三) 戰爭ハ對手國ニ對シテ平時ニ於テ許サレサル加害手段ヲ行フコトヲ認メラレタル狀態ナリ、戰爭狀態ニ於テハ交戰國ハ平時ニ於テ行フヲ得サル加害手段ヲ行フヲ得ルニ至ル、而シテ斯ノ如ク加害手段ノ著シキモノハ兵力ニ依リ敵ニ害ヲ加フルニ在リ、但兵力ニ依ル加害ハ必スシテ戰爭狀態ニ依リテ行フヲ許サル、ト云フヲ得ス、平時ニ於テモ復仇又ハ平時封鎖等ニ於テ兵力ヲ用ヅルコトヲ許サルレハナリ、然レトモ平時ニ於ケル復仇又ハ平時封鎖等ニ於テ行フヲ得ヘク加害手段ハ一定ノ方法及程度ヲ逸スルヲ得ス、戰爭狀態ニ於テハ國際法規及條約ニ依リテ許サレサル加害手段ヲ用フルコトヲ得ヘク對手國ヲ征服シテ之ヲ併合スルニ至ルコトヲ得ヘクナリ、國ヨリ國際法規ニ於

テ戰爭ニ於テ行フヲ得ヘク加害手段ニ于シテ制限ヲ設ケ一方ニ於テ一國ノ正規ノ兵力ニ依リ敵ノ正規ノ兵力ニ對シテ行フコトヲ原則ト爲シ又他方ニ於テ人道及一種ノ武士道の精神及慈悲ヲ示サレテ違フ爲セル利己心ニ依リ種々ノ加害手段ニ對スル制限ヲ認ム是等ノ加害手段ノ國際法上ノ制限ニ于スル研究ニ對シテ國際法ノ研究ノ重要ナル部分ヲナスナリ

(四) 戰爭ハ一國カ對手國ノ抵抗カヲ控メ自己ノ主張ヲ貫ク等、對手國ニ對シテ平時ニ於テ許サレサル加害手段ヲ行フコトヲ認メラレ、數國家間ノ狀態ナリ、對手國ノ抵抗カヲ控メ自己ノ主張ヲ貫クカントスルハ一般的ニ戰爭狀態ニ於テ交戰國カ目的トスル所ナリ

(五) 戰爭ハ國際法上平時ニ與ル權利義務ノ干渉ヲ生スルコトヲ認メラレル狀態ナリ、戰爭狀態ニ至リテ開始セラル、ト云フハ戰時國際法規ノ適用ヲ生シ又戰時ニ依リテ效力アル條約ノ適用ヲ生シ斯ノ如クシテ平時ニ與ル權利義務ノ干渉ヲ生スルニ至ル、而シテ平時ノ經常的權利義務ノ干渉ニ異ル非常的權利義務ノ關係ハ戰爭狀態ノ當事國タル交戰國

相互間ニ於テノミナラス直接ニ戦争状態ニ于存セサル中立国ト交戦国トノ間ニ於テモ生スルモノナリ、故ニ戦時国際法規中更ニ交戦国間ノ干係ニ于スル交戦法規ト交戦国ト中立国トノ干係ニ于スル中立法規トヲ區別スヘキナリ、

或ハ戦争ヲ以テ強カニ依リテ権利ヲ執行スル状態又ハ手段ナリト為ス者アリ(例ヘハツアツテル、フイオン、ブルンチエリ、ブルメリンク)然レトモ戦争ハ必スシモ権利ヲ執行スルカ為ニ行ハル、モノニアラスシテ善ニ利益又ハ思想感情ノ衝突ニ依リテ行ハル、コト多シ、故ニ権利ノ執行ヲ以テ戦争ノ要素ト為スヲ得ス、

第二、戦争ノ原因及目的

戦争ノ原因ハ種々アリ、或ハ一方ノ国家カ他方ノ権利ヲ侵害シ又ハ侵害セリト主張セラル、ニ由リテ起ルコトアリ、或ハ双方ノ国家ノ人民ノ単純ナル利害又ハ思想感情ノ衝突ニ由リテ起ルコトアリ、戦争ノ原因ヲ列挙シテ之ヲススコト難シトス、

△或ハ戦争ノ正当ナル原因ト正当ナラサル原因トヲ區別シ正当ノ原因ニ由リ起レル戦争ヲ正当ナル戦争トナシ然ラサル戦争ヲ不正ナル戦争トナスノ論者アリ、然レトモ正当不正ノ意義ヲ法規上ノ意義ニ限ル場合ニ於テモ現今ノ国際法ノ未タ完成セサル長アルカメ法規上ニ於ケル正当不正ヲ判然決定スル能ハサル許多ノ問題ヲ存シ而シテ依令国際法規ノ備ハレル場合ニ於テモ許多ノ疑ニ于テモ紛々タルコトハ實際上ニ於テ戦争ノ原因ノ法規上ノ正当不正ヲ判別スルコトヲ困難ナラシム且許多ノ戦争ノ原因ハ国際法上ノ正当不正ニ于テ係リ利益又ハ思想感情ノ衝突ニ外ナラサルヲ以テ是等ノ原因ニ于テテ国際道徳上又ハ国際政策上ノ正当不正ノ議論ハ存スルヲ得ヘキモ国際法上ヨリ正当不正ヲ區別スルヲ得ス、故ニ現今ノ国際法ハ戦争ノ諸原因ニ付テ正当不正ノ區別ヲ為シ戦争ノ正当ノ原因ヲ限定スルノカナキナリ、且依令国際法上ノ権利侵害ノ実アリテ之カ救心ヲ得ル為メ戦争ヲ起スコト国際法上正当ナリト云フヲ得ヘキ場合アルモ之ト交戦国ノ一方ヨリ見テ戦争ヲ起スノ原因カ正当ナルモノニシテニ以上ノ国家間ノ状態タル戦争ソノモノ、正当不正ヲ決スルヲ得サルナリ、而

シテ假令國際法上權利侵害ノ實アリテ一方ニ於テ戦争ヲ起スノ國際法上ノ
正当ノ原因アリト云フヲ得ヘキ場合ニ於テモ原因ノ正当ナルヲ否マハ交戦
法規ノ適用上ニ於テ何ノ干渉モナキナリ、假令一方ノ國家カ他方ノ國家ノ
權利ヲ侵害セルニ因リ戦争起レリトスルモ交戦法規ハ戦争開始ノ原因如何
ヲ向ハス交戦國ヲ以テ常ニ法規上對等ノ權利及自由ヲ享有スルモノトシ
其間ニ交戦法規適用上ノ區別ヲ認メサルナリ、交戦法規カ區別ヲ設ケテ戰
争ノ原因ニテシテ他國ノ權利ヲ侵害スルノ實アルモノ、交戦ニテスル權利
若ハ自由ヲ制限マント欲ムルトスルモ國家ノ上ニ立ツ權力者ヲ有セサル理
今ノ國際組織ニ於テハ是レ到底実行シ得サル所ナリ、

國際法カ戦争ノ正当ナル原因ヲ限定シ得サルコトハ決シテ國際法規又ハ
國際條約カ戰爭ヲ以テ戦争ノ原因トナスヲ得サルコトヲ定ムルヲ妨ケサ
ルナリ、一般的ノ國際慣習法規ニ依リ一旦媾和條約ノ明ニ定メタル事項ヲ
以テ更ニ戦争ノ原因ト爲スヲ許サスト爲スノ規則カ確立セリトスル説アリ
而シテ海洋ノ條約ニ於テ一國ノ政府ニ對シテ他ノ一國ノ政府カ其國人ニ支払
ハルヘキモノトシテ請求スル契約上ノ債務ヲ回收スルタメニ兵力ニ訴ヘサ

ルコトヲ約セリ(契約上ノ債務回收ノ爲ニスル兵力使用ノ制限ニテスル海
洋條約)故ニ此ノ條約ニヨリ國人ノ外國政府ニ對スル契約上ノ債務ノ保護
ヲ原因トシテ債務國ニ對シテ開戦スルヲ得サルヘキナリ、

戦争ニ関シテ各交戦國ノ違エメントスル特別ノ政治上ノ目的トスル所ハ各
個ノ戦争各個ノ交戦國ニ付テ各異レテ得ルト云ハサルヘカラス、例ヘハ日
露戦争ニ於テハ我國ハ当初露國ノ勢力ヲ韓國及滿州ヨリ排除スルコトヲ特
別ノ政治上ノ目的ト爲シタリト云フヲ得ヘシ、斯ノ如キ各交戦國ノ各戦争
ニ付テ特別ノ政治上ノ目的トスル所ハ戦争ノ当初ニ於テハ戦争ノ原因ト密
着ノ干渉アルモ戦争ノ經過ニ依リ變更ヲ受クルニ至ルヲ免レズ、然レトモ
總テノ戦争ニ通有スル戦争ニ於ケル交戦國ノ一般的ナル目的ヲ求ムレハ固
已ノ求ムル所ヲ貫徹スル爲ニ對手交戦國ノ抵抗カヲ挫クコトニ在リト云ハ
サルヘカラス、以下戦争ノ目的ノ語ヲ用フルトキハ戦争ニ於ケル交戦國ノ
一般的ナル目的ヲ指スモノトス、

第二章 交戦国際法規概説

第一 戦争と国際法

△ 八現時ノ国際千係ニ於テ戦争ノ時々起ルコトヲ見テ国際間ニ暴力カ行ハル、ヲ以テ国際法ナル法規ノ存在ヲ認メ得ストナス者アリ、△ 或ハ戦争ハ暴力ナルヲ以テ法規ノ思想ト相容レサルモノニシテ戦時法規ナルモノ、存在シ得ストナス者アリ、現今ノ国際關係ニ於テ國家間ノ紛議ヲ裁断シテテ裁定シ其ノ判決ヲ國家ニ對シテ強行スヘキ國際ノ機干ヲ存セサルヲ以テ國家間ノ紛議ニ基キテ強行ノ加害手段ヲ用フル戦争状態ノ生スルハ已ムヲ得サルモノニシテ国際法ハ此事実ヲ認メ戦争ノ起ルニ及ンテ平時ノ經常的約千係ニ累ル所、非常の権利義務、千係ヲ西交戦國間及交戦國ト中立國トノ間ニ認メ此千係ヲ規律スル戦時国際法ハ西交戦國間ニ用ヒ得ヘキ所ノ加害手段ノ制限及其他ノ西交戦國ノ千係ヲ定メ又交戦國ト中立國トノ關係ヲ定ム、而シテ現今ノ戦争ニ於テ国際法ノ定ムル規則ハ交戦國及中立國力之

ヲ遵守スルヲ常トス、故ニ戦争ハ國際法ノ存在ヲ否定スルモノニテラスシテ却テ國際法ニ依テ認メラレ且之ニ支配セラル、所ノ法規上ノ状態ナリ、又戦時國際法ハ一種ノ法規トシテ暴然存在スルモノナリトス、戦時國際法ノ存在ノ基礎ハ一般國際法ノ存在ノ基礎ト同シク國家ノ相集マリ共同生存ヲ為シ國際團體ナル社会ヲナスノ事實ニ之ヲホムルヲ得ヘシ、國際團體内ノ一部分ニ戦争起ルモ國際團體ハ依然存シ交戦國ハ戦争ニ干渉ナキ中立國ニ對シテ依令戦争状態ノ存在ニ由リテ命令ノ變更ヲ受クルモ尚平常ノ法規ニノ千係ヲ持続シ交戦國ト中立國トノ間ニ中立ニ干スル法規關係ヲ生スルナリ、而シテ交戦國相互ノ關係ニ於テモ共ニ國際團體ノ一員タル結果トシテ其行為ノ自由ニ於テ法規上ノ制限ヲ認メラル、ナリ、現今ニ於テハ諸國ハ戦時ニ於テ双方カ交戦國タル場合ニ遵守スヘキ許多ノ條約ヲ約定シ是等ノ條約ニ基キテ戦時ニ於テ交戦國間ニ行為ノ自由ノ法律上ノ制限ノ生スルヲ認ム、

第二 交戦法規ノ發達

現時ノ交戦法規ハ中世ノ終ノ頃ヨリ歐羅巴ニ於テ其萌芽ヲ發シ漸次發達シ殊ニ十九世紀ノ後半ニ於テ著大ナル發達ヲ為セリ、慈惠心（人道）快勇ノ精神（兩軍ニ於ケル一種ノ武士道）並ニ狹隘ナラサル發達ヲ為セル利己心ニ基キ戰爭ノ慘害ヲ緩和スル但マノ實行ヲ生シ同様ナル但マノ實行ヲ斷ルハク行ハル、ニ至リテ交戦慣例（独乙學者ノ所謂 *Kriegsmanier*）ニシテ *non in bello* ト稱スルモノナリ）ヲ生シ而シテ斯ノ如ク慣例カ之ニ遵由セサルヘカラスト為スノ國際団体内ノ社会的庇信ニ伴ハル、ニ至リテ交戦慣習法規ヲ生シ斯ノ如クシテ交戦法規ノ發達ヲ見ルニ至レルナリ、交戦法規ハ当初概シテ慣習法規ヨリ成リ交戦法規ニ干渉アル條約ハ少数ノ國ノ間ニ結ハル、ニ過ラサリシカ最近ニ於テ之レニ干シテ國際団体内ノ總テ、國又ハ多数ノ國カ當事者タル一般ノ條約カ數多締結セラル、ニ至リ交戦國際法規ハ著大ナル發達ヲ為スニ至レリ、
今戰時國際法（交戦法規及中立法規ヲ含ム）ニ關スル主要ナル條約及宣言ヲ締約ノ時日ノ順存ニ從ヒテ列挙セントス、
一八五六年ノ海戰ニ干スル巴黎宣言

此ノ宣言ハ（一）捕獲免許ノ私船ノ禁止、（二）中立船中ノ戰時禁制品以外ノ中立物品以外ノ敵貨ノ捕獲免許、（三）敵船中ノ戰時禁制品以外ノ中立貨ノ捕獲免許、（四）封鎖ノ告知ナルヘキコト等海上捕獲ニ干スル四ノ事項ヲ定ム、此ノ宣言ハ戰時法規ニ干スル一般ノ條約ノ嚆矢ト云フヘク其規定スル事項モ重要ナルヲ以テ後ニ定メタル倫敦宣言ト共ニ戰時海上國際法上最モ注目スヘキ條約ニ爲ス、此ノ宣言ハ歐洲ノクリミマ戰爭ヲ終局スル巴黎列國會議ノ際議定サレ当初之ニ副印セルハ英、仏、露、普、奧、サリデーニヤ（伊）、王ノ七國ニ過キサリシカ其後之ニ加盟セル諸國ヲ併セテ二十五諸國ノ間ニ有效ナリ、而シ之ニ加盟セサル諸國モ實際ニ於テ宣言ニ遵依シ國際団体内ニ於テ巴黎宣言ノ定ムル所ニ遵服セサルヘカラストノ法律的確信カ既ニ生シタリト認メ得ヘキニ以テ今日ニ於テハ巴黎宣言ノ定ムル所ハ（少クトモ捕獲免許私船禁止ニ干スル規定以外ニ就テハ）戰時國際法規ノ一部ヲ成スト認ムルヲ得ヘキナリ、
一八六四年始ノテ結ヒ其後一九〇六年修正セル赤十字條約即チ野戰

軍隊ノ負傷兵ノ状態ヲ改良スルヲ目的トスルジエネヴア條約

一八六四年ノ舊條約ハ九個國ノ間ニ結ハレシカ他ノ諸國漸次加盟シテ實際上面際団体内ノ幾テノ國ヲ網羅スルニ至レリ(國際団体内ノ關係ト認ムヘキモノニシテ之ニ加盟セサルハニテンスタイン・モナコ及コスダリカ等ノ小國ノミ)、一九〇六年ノ新條約ハ三十五箇國ノ間ニ結ハレ其後數多ノ國之ニ加盟セリ。木夕新條約ニ加盟セサル國ニ對シテハ舊條約ノ定ムル所ニヨル。

(三) 一八六八年ノ一定ノ重量(四百グラム)以下ノ爆發性アルカヌハ燃燒物ヲ壞メタル發射物ノ使用ヲ禁止ニキスル聖彼得堡宣言。

此ノ宣言ハ十七箇國ノ調印セル所ナリ。調印國ハ土耳其、波斯ヲ除キテハ皆歐洲ノ國ナリ。後ニ加盟セル國ハ一八八九年ニブラジルノ之ニ加盟セルアルノミ。

(四) 一八九九年ノ海牙第一回平和會議及一九〇七年ノ第二回平和會議ノ陸戰ノ法規慣例ニキスル條約(海牙ノ陸戰法規條約)是ヨリ先一八七四年露國皇帝アレキサンダー二世ノ招請ニ依リ利國全

議ヲブリユツセルニ向カレ露國ノ提出セル原案ヲ議題トシテ陸戰法規ノ法規ヲ議シ所謂比律悉宣言ナルモノ成レリ。然ルニ此ノ宣言ハ諸國ノ批准ヲ得ス海牙ノ第一回平和會議ノ際比律悉宣言ヲ基礎トトシ之ニ修正ヲ加ヘテ第一回平和會議ノ陸戰ノ法規慣例ニキスル條約及之カ附屬ノ規則成リ大多數ノ國ノ批准ヲ得タリ。第二回平和會議ニ於テ此條約ヲ修正シテ新條約成レリ。第二回平和會議ニ代表者ヲ送レル諸國ハ支那及西班牙ヲ除キテハ之ニ調印シ而シテ許多ノ國ハ既ニ之カ批准ヲ了セリ。陸戰ノ法規慣例ニキスル條約其モノハ僅カニ九條ヨリ成リ締約國ハ英陸軍々隊ニ對シ該條約ニ附屬スル陸戰ノ法規慣例ニキスル規則ニ適合スル訓令ヲ發スヘキヲ約ス。(一)其附屬ノ規則ナルモノカ比律悉宣言ヲ基礎トシテ議定セル陸戰ニキスル一ノ法規タリトス。然レトモ陸戰ニキスル該規則ニ規定ヲ欠ケル点多シ該條約ノ前文ニ於テ「實際ニ起ル一切ノ場合ニ普ク適用スヘキ規定ハ此條約ヲ依テシ得クコト命ハザリシト云モ明ク之ノ故ヲ以テ規定セラレサル總テノ場合ヲ軍隊指揮官ノ擅斷ニ委スルハ亦締約國ノ意思ニアラサ

ルナリトナシ又コ一暫克備シタル戦争法規ニ因スル法典ノ制定セラ
ル、ニ至ル迄ハ締約國ハ其採用シタル規則ニ合マレサル場合ニ於テモ
人民及交戦者カ依然文明國ノ間ニ存立スル慣習、人道ノ法則及公共良
心ノ要求ヨリ生ズル國際法ノ原則ノ保護及夫配ノ下ニ立ツコトヲ確認
スルヲ以テ適当ト認ムレト爲ス。而シテ該條約及之ニ所屬スル上述ノ
規則ハ交戦國カ悉ク條約ノ當事者ナルトキニ限り締約國ニノミ之ヲ適
用スト爲ス、(二)而シテ第一回平和會議ノ際ニ定メタル旧條約ハ該
條約ニ加盟セルモ第二回平和會議ノ際ニ定メタル新條約ヲ批准セサル
諸國ノ間ノ干渉ニ於テハ依然效力ヲ有スルモノトス、(四)後文ニ於
テ簡單ヲ求ムル爲メ此條約ヲ海牙ノ陸戦法規條約ト稱シ之ニ所屬スル
規則ヲ海牙ノ陸戦條規ト稱セント欲ス。

(五) 第一回平和會議及第二回平和會議ノジエネヅア條約(赤十字條約)
ノ原則ヲ海牙ノ陸戦條規ニ適用スルノ條約
一八六四年ノジエネヅア條約結ハレテ後幾モナク該條約ノ原則ヲ海
戦ニ適用スヘシトスルノ議ヲ生シ一八六八年十月ジエネヅア條約ノ迄

加條約カ細印サレシモ批准ヲ得スシテ終レリ、然ルモ第一回平和會議
ニ於テ該追加條約ノ海戦ニテスル部分ト大體ノ趣意ヲ至ウスル條約議
定サレ諸國ノ批准ヲ得シカ第ニ回平和會議ニ於テ該條約ニ修正ヲ加ハ
十四ヶ條ヨリ成レル旧條約ヲ改メテ二十八ヶ條ヨリ成ル新條約ヲ作リ
會議ニ代表サレタル諸國ハ皆之ニ加ハルニ至リ(但當條ヲナセル國ア
リ)、多數ノ國ハ已ニ之カ批准ヲ了セリ、

(六) 第一回平和會議ノ「ダムダム」彈ノ使用禁止及有毒瓦斯ノ撤去ヲ唯
一ノ目的トスル毒射物ノ使用禁止ニテスルニノ宣言、
之等ニノ宣言ハ有效期間ノ制限ヲ定メサルモノニシテ「ダムダム」
彈ノ使用禁止ノ宣言ハ二十六箇國ノ締約國トナレル所又有毒瓦斯ノ毒
射物使用禁止ニテスル宣言モ二十六箇國ノ締約國トナレル所ナリ、此
米合衆國ヲ除キ他ノ強國ハ凡テ之ニ加ハレリ、

(七) 第一回平和會議及第二回平和會議ノ輕氣球等ヨリ毒射物又ハ爆藥物
ヲ投下スルコトノ禁止ニテスル宣言、
第一回平和會議ニ於テ五年ヲ有效期間トスル宣言成リシカ日露戰役

中期間不ビテ效力ヲ失ヒタリ、第二回平和會議ニ於テ同意ノ宣言ヲ
 將來期ヲヘテ第三回平和會議ノ終了スルトキヲ有効期限トシテ更メテ
 成立セシメタリ、此第三回平和會議ノ宣言ハ之ニ關シテ二十七年四月
 中盤ニ七國ノミ批准ヲナシ強國中我四、露國、仏國、德國、伊國ノ如
 キハ調印ヲ為サス、埃國ハ調印ヲナセルモ批准ヲ為サス、強國ニシ
 テ批准セルハ英國及北米合衆國ノ二國アルノミ、

(八) 第二回平和會議ノ敵對行為開始ニ于スル條約

(九) 第二回平和會議ノ陸戰ノ場合ニ於ケル中立國及中立人ノ權利義務ニ
 于スル條約

(一〇) 内會議ノ敵對行為開始ノ際ニ於ケル敵國商船ノ取扱ニ于スル條約

(一一) 内會議ノ自動船渠水雷ノ敷設ニ于スル條約

(一二) 内會議ノ商船ヲ軍艦ニ變更スルコトニ于スル條約

(一三) 内會議ノ戰時海軍力ヲ以テスル砲擊ニ于スル條約

(一四) 内會議ノ海戰ニ於ケル捕獲航行儀ノ制限ニ于スル條約

(一五) 内會議ノ海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ于スル條約

(九)以下(一五)ニ至ルマテ諸條約ニ通用ナル規定ハ交戰國カ悉ク
 條約締結國ナルトキニ限り締約國間ニミテ之ヲ適用スルコトニ在リ、
 從テ締約國以外ノ一國カ戰爭ニ加ハル場合ニハ拘束力ヲ有セサルニ至
 ル、而シテ陸海軍ノ間ニ改調アル場合ニハ海戰ニ于スル條約ノ規定ハ

海上ニ在ル者ニミテ適用シ又上陸セル海軍ノ陸戰隊ハ陸

戰ニ于スル條約ノ規定ノ適用ヲ受クルモノトス、

(一六) 一九〇九年ノ海戰ニ于スル倫敦宣言

此宣言ハ一九〇八年ヨリ九年ニ亘リテ倫敦ニ於テ開カレタル英國、
 英國、德國、仏國、埃國、露國、露國、伊國、北米合衆國、西班牙、知
 蘭等ノ主トシテ海上強國ノ代表者ヨリ成レル十箇國ノ代表者ノ會議
 ノ議定セル所ニシテ封鎖、戰時禁制品、軍事的補助、中立船破壞、
 船舶国籍ノ移転、船舶及貨物ノ敵性、軍艦ニ依ル護送、臨檢ニ對ス
 ル抵抗等海上捕獲ニ于スル事項ノ國際法規ヲ定メタルモノナリ、此
 宣言ハ未タ批准ヲ經サルトモナリ、

第三、交戦法規ノ基本觀念

現今ノ交戦法規即チ交戦国間ノ關係ニテスル戰時國際法規ノ基本觀念ヲ求ムルトモハ主トシテ左ノ如クモ、ナリ、

(一) 戦争ニ於テ個人モ亦敵国ヨリ兇レハ敵性ヲ有スルヲ以テ國際法規ノ明ニ禁止セサル場合ハ戦争ノ目的ヲ達スルニ必要ナル個人ノ身体財産ニ対スル加害ヲ行フヲ得ヘシ

(二) 然レトモ現今ニ於テハ個人ニ対スル國際ノ實行ノ緩和ニ依リ交戦国カ戦争状態ニ於テ其目的ノためニ爾ナル加害手段ハ其國ノ正規ノ兵力ニ依リ敵國ノ正規ノ兵力ニ対シテ行フヘキヲ原則トスルニ至レリ (此ノ結果トシテ) 原則トシテハ一國ノ正規ノ兵力ノ一部ヲ為ササル個人ノ身体及自由ニ対シテハ特別ノ原因若ハ事情ナクシテ加害手段ヲ加ヘスニ及等ノ個人ノ私有財産ニ対シテモ一定ノ例外ノ場合ヲ除キテハ加害手段ヲ加ヘサルヘキコトナリ、而シテ(三) 他方ニ於テハ交戦國ハ國際法上又ハ條約上反對ノ規定アル場合ノ外ハ敵國ノ個人ノ

權ニ敵對行為ヲ行フモノヲ戰時重罪トシテ処罰シ得ヘキコト認メラルルニ至レリ

(三) 交戦國ハ敵ノ抵抗カヲ挫クノ目的ヲ達スルニ必要ナル加害手段ハ國際法上反對ノ規定アル場合ノ外ハ之レヲ爾ナルコトヲ認メラル、

(四) 慈悲心(人道)ノ要求上敵ノ抵抗カヲ挫クノ目的ヲ達スルニ必要ナラサル程度又ハ程度ノ加害ハ之ヲ行フヲ得ヌ、又其被害ノ程度カ敵ノ抵抗カヲ挫クノ目的ヲ達スル程度ニ比シテ著シク多クナル加害ハ之ヲ加フヲ得ヌトナスコトヲ特別ノ事項ニ干シテ特別ノ條約又ハ慣例ヲ以テ認ムルノ傾向アリ、

(五) 英勇ノ精神(歐洲ニ於テ中世ニ起レル一種ノ武士道)ニ基キ交戦者ノ間ニ或程度迄相互ヲ尊重スヘク互ニ卑怯的又ハ背信的ノ行為ヲ行フヲ得ヌト為スヨリ交戦國ノ行為ニ対スル制限的ノ法規ヲ生ス、 (六) 又交戦國ノ榮達セル利己心ニ基キテ戦争ノ實行ノ慘害ヲ減スル慣例成リ終ニ國際法規トナルニ至ルコトナリ、

第四、戰 敵

独乙派、學者中ニ戰教ハ或ハ戰爭ノ必教又ハ交戰條理ト稱ス(即チ *belli* -

phases ナル必要法 *pro necessitate*) ヲ認メテ普通ノ交戰法規

ハ戰爭上ノ緊急ノ必要ナル場合ニハ所謂戰教ノ活動ニ依リ其拘束力ヲ大ニ

シテ度外視スルコトヲ得ルト爲ス者アリ、而シテ戰教ナルモノハ普通ノ交

戰法規ニ拘泥スルトキハ緊急ノ危険ヲ免ル、途ニキカ又ハ敵ノ抵抗力ヲ

挫クノ目的ヲ達スルニ途ニキトキニ活動スト爲ス、然レトモ交戰法規ノ拘

束力ニ對スル所ノ如キ範圍ノ區底ニシテ且明確ナラサル例外ヲ認ムルハ法

規違反ニ口実ヲ与フルニ至リ交戰法規ノ拘束力ヲ弱ムルモノニシテ之ヲ是

認スルヲ得ヌ此說ノ最モ批難スヘキ兵ハ戰爭ニ於テ敵ノ抵抗力ヲ挫クノ目

的ヲ達スル爲メ他ニ方法ナキトモハ普通ノ交戰法規ヲ度外視シ得ルト爲ヌ

ノ兵ニ在リ、但軍隊ヲ組織スル個人カ切迫セル緊急ノ生存上ノ危険ヲ免ル

ルノ途ニキ場合ニ於テハ一種ノ緊急狀態ヲ存在スルモノト認ムルヲ得ヘク

國際法ハ此場合ニハ交戰法規ヲ度外視スルノ行爲ヲ以テ普通ノ違法行爲ト

内視スルコトナカルヘキモ是レ戰教ナル特別ノ法理ヲ認メテ初メテ然レニ

第五 交戰法規ノ效力

戰時國際法規ノ一部分タル交戰法規ノ干係ニ干スル交戰法規ハ國家間ノ

規定ニシテ交戰法規ニ依ル 權利義務ノ主体ハ國家ニ外ナラス、然レトモ

國家ノ機關タル軍隊ノ权限内ノ行動ニシテ國際法規ニ違反スルモノニ對シ

テハ政府ノ命令ニ基ケト否トニ拘ラス國家ハ其責任ヲ負ハサルヘカラサル

ハ勿論軍隊ヲ組織スル者ノ國家機干トシテノ权限外ノ行動ニ至リテモ國家

ハ其機干ヲ組成スル個人ニ對スル緊急ノ干係ニ基キテ代位的ノ責任ヲ負ハ

ナルヘカラサルコト認メラル、海軍ノ陸戰法規條約ニ於テ交戰當事國ハ其

軍隊ヲ組成スル人員ノ一切ノ行爲ニ對シテ(損害賠償ニ干スル)責任ヲ負フ

ト爲セルハ(第三條後文)上述ノ干係ヲ明ニセルモノナリ、

第六 交戰法規違反ノ制裁

戰時國際法中立法規違反ノ場合ニ於テ交戰國カ中立國ノ權利ヲ侵害セ

ルトキニ於テハ國際団体内ノ他ノ諸中立國モ利害上全然無干係ニアラサル

ヲ以テ國際団体内ノ諸國ノ輿論ニ依ル間接ノ強制ヲ存スヘキノミナラス
利ヲ侵害サレタル中立國ハ中立法規違反ノ救正ヲ求ムルタメ強力手段ニ出
ツルヲ得ヘク戰爭ヲ起スヲ得ヘキヲ以テ被害國ノ自助的行為ニ依ル直接
ノ強制ヲ存スルト云フヲ得ヘク又中立國カ交戦國ノ権利ヲ侵害セルトキ
於テモ交戦國ハ場合ニ依リ加害中立國ニ對シテソノ自助的行為ニ依ル直接
ノ強制ヲ加フルコトヲ得ヘキナリ、然ルニ交戦法規ノ違反ニ於テハ國際団
体内ノ他ノ諸國間ノ輿論ニ依ル間接ノ強制ハ微弱ナラ免ハス、而シテ交
戦國間ニ於テハ既ニ強力ニ訴フル戦争状態ヲ存セルモノナルヲ以テ交戦國
ノ自助的行為ニ依ル直接ノ強制ニ至リテハ戰爭中ハ實際ニ於テ對手交戦國
ニ對スル戰時復仇及違反ニ干渉アル個人ニ對スル戰爭犯罪ノ処罰ノ外ニ存
セヌ國ヨリ戰勝ヲ得タル交戦國ハ戰爭終了ノ際交戦法規違反ノ故ヲ以テ議
和條約ニ於テ償金ノ額ヲ増サシムルコトヲ得ヘク又第二回平和會議ノ海牙
陸戰法規違反ニ對シテハ戰爭終了後議和條約中ニ交戦國間ノ反對ノ明約
ナキ以上ハ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘントモ（海牙陸戰法規條約第三條）
戰敗國ハ實際上對手國ノ交戦法規違反ノ責任ヲ問フノ途ナキナリ、海牙陸

戰法規違反ノ場合ニ至リテモ戰勝國ハ議和條約ニ於テ戰爭中ノ交戦法規違
反ノ行為ニ對スル損害賠償ノ問題ヲ起サ、リヘキヲ戰敗國ヲシテ給セシム
ルヲ得ヘケレハナリ、但シ交戦法規ノ違反ニ關シテ戰爭中ニ於テ敵ニ抗議
ヲ為シ中立國ニ訴フルコトアリ又中立國カ交戦國ノ訴フルニ由リ又ハ自暴
自棄ニ交戦法規違反ノ問題ニ干シテ爾後、調停又ハ干渉ノ事ニ出ツルコトア
リ得ルナリ中立國カ交戦法規ノ違反ノ行ハレントスルヲ防止シヌハ既ニ行
ハレタル法規違反ノ救正ヲ得セシムル為メ干渉ヲ為スヲ得ヘクハ明白ナリ、

第七 戰時復仇

戰時復仇トハ敵國政府又ハ軍隊ノ交戦法規違反ノ行為又ハ敵國私人ノ不
公正ナル敵對行為ニ對シテ敵國ノ敵軍又ハ私人ニ加フル所ノ惡報ニシテ敵ヲ
シテ將來ニ於テ交戦法規ヲ遵守セシメ若ハ不正ノ敵對行為ヲ行ハサシム
ル目的ヲ以テ又ハ敵ノ既ニ行ヒタル交戦法規違反ノ行為若ハ其他ノ不正ノ
敵對行為ノ結果ヲ復旧シ不正行為ヲ行ヘル者ヲ処罰セシムル目的ヲ以テ行
フモノトス、戰時復仇ニ於テ加フル所ノ惡報ノ手段ハ普通ノ場合ニ於テハ

交戦法規違反ノ行為トナルヘキ種類ノ行為タリトス。

戦時復仇ハ海牙ノ陸戦條規ニ之ヲ掲ケナルモ慣習法上認めラル、所ナリ、
戦時復仇ハ違反ニ対スル刑罰ノ性質ヲ有スルモノニアラス又專擅ナリ復
讐ノ性質ヲ有スルモノニアラスシテ違反ヲ為サ、ラシムルカ又ハ違反ヲ結
果ヲ復旧シ若ハ違反ニ干渉セル者ヲ処罰スルコトヲ強制スル性質ヲ有スル
ノミ、戦時復仇カ現ニ行ハレサルモ交戦法規違反ヲ行ハ、敵ニ戦時復仇ノ手
段ヲ加ヘテハレハキ、恐ニヨリ交戦法規ノ違反ノ行ハレサルコト往々アリ得
ヘキナリ。

戦時復仇ハ多数ノ場合ニ於テハ法規違反又ハ其他ノ不正ノ敵対行為ニ干
渉ナメ者ニ加害スルモノナルヲ以テ已ムヲ得サル場合ニアラサレハ之ヲ行
ハサルヘキナリ、法規違反又ハ其他ノ不正ノ敵対行為ノ行ハル、ニ當リ之ニ
干渉スル者ヲ捕ヘテ之ヲ処罰スルコトノ出来得ヘキ場合ニハ之ヲ戦時復
仇ノ手段ニ出ツヘカラサルナリ。

戦時復仇ハ敵ノ如何ナル交戦法規違反ノ行為又ハ其他ノ如何ナル不正ノ
敵対行為ニ対シテ之ヲ行フヲ得ヘキニ付テ国際法上ノ制限ナシトス、又

戦時復仇其モ、カ如何ナル種類ノ手段ニ限ルヘキニ付テモ国際法上ノ制
限ナシトスモ戦時復仇トシテ行フ手段ノ加害ノ程度カ過度ナルヘカラスシ
テ之カ原因トナレル敵ノ不正行為ヨリモ大ナルヲ得サルナリ、

戦時復仇ハ個々ノ兵士ノ暴意ヲ以テ之ヲ行フヲ得スシテ指揮官ノ命令ニ
基キテ始メテ之ヲ行フヲ得ヘキモノト為サ、ルヘカラス

戦時復仇ハ敵カ原因ト為レル不正行為ヲ止メスハ不正行為ノ結果ヲ復旧
シ若ハ不正行為ヲ行ヘル者ヲ処罰シテ戦時復仇ノ目的トスル所カ實現サル
ルニ至レル場合ニハ最早之ヲ行フヲ得ヌ又既ニ之ヲ行ヒ始メタルトキニ上
述ノ場合ニハ之ヲ止メサルヘカラス

戦時復仇ハ實際ノ慣行ニ於テ行ハレ慣習国際法ノ認めラル所トナレリト云
フヲ得ヘキモ實際ノ慣行ニ於テ之カ弊害多キヲ以テ將來之ニ干スル國際條
約ノ明白ナル規定ヲ設ケ戦時復仇ナル制度ヲ明ニ認めムルト共ニ之カ制限ヲ
明ニ定ムルヲ必要トス。

第八 戦時重罪

戰時重罪トハ戰時ニ於テ兵士又ハ其他ノ者カ交戦國ノ一方ニ對シテ行フ
モノニシテ該交戦國カ犯罪人ヲ捕ヘタルトキハ之ヲ死刑ヲ以テ知罰シ得ヘ
クナリ、戰時重罪ハ之ヲ四種ニ區別スルヲ得、

(甲) 陸海軍ニ屬スル者ニ依ル交戦法規違反ノ行為、交戦法規違反ノ行
為ハ交戦國政府ノ命令ニ依リテ行ハレタル場合ニ於テハ戰時重罪トナ
ラス若シ交戦國ノ政府ノ命令ニ依リテ行ハル、場合ニハ相手國ハ戰時復
仇ヲ為スヲ得ルモ政府ノ命令ヲ奉シテ行ヘル者ヲ戰時重罪人トシテ知
罰シ得ス、陸海軍ニ屬スル者カ指揮官ノ命令ニ依リテ違反ヲ行フトモハ
之ヲ命シタル者ノ外ハ戰時重罪人トシテ知罰ヲ受ケサルモノトス、

(乙) 陸海軍ニ屬セサル者ニ依ル不正ノ敵對行為、私人ニシテ敵軍ニ
對シテ敵對行為ヲ行フハ精確ニ云ハハ國際法規違反行動ニアラサルモ
今日、國際法上戰爭ニ於ケル敵對行為ハ原則トシテ國ノ正規ノ兵力ニ
依リ敵國ノ正規ノ兵力ニ對シテ行ハルヘキモノニシテ私人ハ敵國ノ直
接ノ敵對行為ニ依ル加害ヲ受ケサルト同時ニ自ら直接ノ敵對行為ヲ行
フヲ得ス、之ヲ行ハハ敵軍ハ自己ノ安全ノ必要上之レヲ戰時重罪人ト

シテ知罰シ得ヘキコト現今ノ國際法ノ認ムル所ナリ、既ニ占領セラレ
タル土地ノ人民ニシテ敵對行為ヲ行フトモハ命令公然武器ヲ携帯シ且
戦闘ニ干スル法規慣例ヲ遵守スルモ交戦者ノ特權ヲ認メスシテ戰時重
罪人トシテ取扱ヒ得ヘク又其未ダ占領セラレサル地方ノ人民ニシテ敵
ノ接近スルニ當リ民兵又ハ義勇團ノ普通ノ條件ヲ充テス編成ヲ為スノ
違ナク侵入軍隊ニ敵對スルモノニテ公然武器ヲ携帯セサルカ又ハ戰
闘ノ法規慣例ヲ守ラサルトモハ戰時重罪人トシテ取扱得ルニ至ル(陸
戦法規第一條及第二條參照)、又攻撃ヲ受ケスシテ自暴的ニ敵船ヲ攻
撃スル交戦國ノ商船ハ戰時重罪ヲ犯スト認ムルヲ得故ニ斯ノ如ク船舶
ノ船長、職員及海員ハ陸戦ニ於テ敵對行為ヲ行フ私人ト同様ニ戰時重
罪人トシテ知罰シ得、

(丙) 間諜及戰時叛逆、海牙ノ陸戦法規ハ奇計並ニ敵狀地形探知ノ為
メ必要ナル手段ノ行使ハ適法ト看做スコトヲ定ム(二四)故ニ間諜ヲ
用ヒスハ敵ニ對スル戰時叛逆行為ヲ利用スルコトモ許サル、ト雖モ對
手ノ交戦國ハ自己ノ安全ノ必要上間諜又ハ戰時叛逆ヲ行フ者ヲ戰時重

罪入トシテ知罰スルヲ得ルナリ、间谍ニ付キテハ後文評論スル所アル
ヘシ、國際法上所謂戰時救護ニ付テモ後文詳述スヘキモ交戰國ノ戰時
占領地ニ在在シスハ一時の滞留スル敵國人若ハ中立國人又ハ交戰國
ニ在在シスハ一時の滞留スル敵國人若クハ中立國人ニ依リテ行ハル
ル行為ヲ含ムモノトス、
(ハ丁) 劫掠行為、物ヲ盜取スル目的ヲ以テ戰場ヲ徘徊シ又ハ前進若ハ
退却スル軍隊ニ隨伴シテ傷者落伍者ヲ虐待シ若ハ殺傷シ死人ヲ虐待ス
ル如ク行為ヲナセル者ハ之ヲ戰時重罪人トシテ死刑ニ処スルヲ得、
戰時重罪人ハ軍事裁判所又ハ其他ノ交戰國ノ任意ニ定ムル裁判所ニ於テ
審問スヘキモノトス、然レトモ審問ヲ為サズシテ知罰スルコトヲ得ザル
ヘキナリ、
戰時重罪ハ死テ死刑ヲ以テ論スルヲ得、固ヨリ死刑ヨリ輕キ刑罰ニ処ス
ルヲ得、或ハ軍事重罪人カ一定ノ刑期ノ自由刑ニ処セラレタルトモハ戰
争終了後之ヲ解放セサルヘカラストノ論アルモ之ニ對シテ及對説ナリ、
此類ニ付テ國際法規カ一定セリト云フヲ得ス、

第三章 交戰ノ主体及其兵力

第一、交戰ノ主体

國際法上ノ戰爭ナル以テハ數國家間ニ存スルコトヲ原則トス故ニ交戰ノ
主体即チ交戰法規ノ權利義務ノ主体ハ原則トシテ國家ナリトス、然ルニ戰
争カ國家ト交戰團體トノ間ニ存スルコトヲ認メザル、コトナリ、故ニ例外
トシテ交戰團體ナル特別ノ交戰ノ主体ヲ存スルモノトス、
國家ノ何タルマニ付シテハ平時國際法中ニ於テ之ヲ論スヘキモノナルヲ
以テ此ニ贅セズ、故ニ今ハ交戰團體ニ付シテ述ヘント欲ス、
一國ノ政府ニ敵對スル者カ母國ヨリノ分離若ハ現存領土、新政府設立等
ノ政治上ノ目的ヲ有シ國家ノ領土ノ一部分ニ占據シテ何ヲ事實上ノ政府ヲ
組織シ政府ニ對シ國際戰爭ニ於テ行ハル、争關ニ類似スル程度ノ兵力ニ依
ル争關ヲ行ヒ而シテ其争關ニ於テ戰時法規ニ違反スルカ如ク行為ヲナサハ

ルトハ交戦団体ノ承認ヲ受クルコトアリ、交戦団体ノ承認ハ本国ノ政府
カ之ヲ行フコトアリ外国ノ政府カ之レヲ行フニトアリ、外国政府カ本国政
府ニ先テ承認ヲ行フニハ反乱カ久シキニ且ルノ見込アリテ承認ヲ為サシ
トスル國家カ争鬪ノ行ハル、状態ニ依リ影響ヲ受ケ承認カ該外國ノ正当利
益防禦ノ為メ相当ナル手段ヲ認メ得ヘキニ至レル場合ニ限ルヘキナリ、交
戦団体ノ承認ノ效果ハ承認カ本国政府ニ依リ行ハレタルト外國政府ニ依リ
行ハレタルトニ依リテ差異アリ、

(一) 外國政府ニ依ル交戦団体ノ效果ハ左ノ如シ、

(イ) 承認國ハ交戦団体ニ對シテ(承認ヲナセル外國トノ干係ニ於テ)
兵力ニ依ル争鬪ニ干シ交戦國ノ有スルト同様ノ權利義務ヲ有スルノ
資格ヲ認ム又同時ニ本国政府ニ對シテモ(承認ヲ為セル外國トノ干
係ニ於テ)交戦國ノ有スヘキ權利義務ヲ認ムルニ至ル、語ヲ換ヘテ之
ヲ謂ヘハ承認國ハ交戦団体及其本国ニ對シテ自ラ中立國、權利義務
ヲ認ムトナリ、故ニ例ハ交戦団体又ハ其本国ノ軍艦ハ承認國ノ如
船ニ對シテ交戦國軍艦ノ中立國船舶ニ對シテ行フ所ノ檢査、搜索、

拿捕等ノ權利ヲ行フコトヲ認メラル、ニ至リ又交戦団体又ハ其本国
ノ軍艦ハ承認國ノ港津ニ於テ國際戦争ノ際ニ交戦國軍艦カ中立港ニ
於テ受クルト同様ナル入港、滞在、出航ニ干スル制限ヲ受クルニ至
ル

(ロ) 承認ノ時ヨリ本国ハ承認國ニ對シテ交戦団体ニ屬スル者ノ外國
人ニ損害ヲ及ブル等ノ行為ニ付テ責任ヲ解除セラル

(ハ) 承認國ハ承認ノ時期以後ノ交戦団体ノ行為ニ對シテ交戦団体ニ
責任ヲ負ハシムルコトヲ得ヘキモ若シ本国政府カ叛乱ヲ鎮定シタル
トモハ承認國ハ承認ノ時期以後ノ交戦団体ノ行為ニ對シテ何人ニモ
責任ヲ負ハシムルヲ得サルニ至ル、

(ニ) 外國政府ノ承認ハ承認國、交戦団体及本国政府以外ニハ效果ヲ
及ホサ、ルモノトス、

(三) 本國政府ニ依ル承認ノ效果ハ左ノ如シ

(イ) 兵力ニ依ル争鬪ニ干シテ交戦団体ハ本國政府ニ依リ國家ト同様
ニ戰時國際法上ノ權利義務ヲ有スル資格ヲ認メラル、ニ至リ而シテ

三六
本國政府ハ本國以外ノ諸國ニ對シテ中立國ノ權利ヲ認ムルト同時ニ
中立國ノ義務ヲ負フコトヲ要求スルニ至ル。

(ロ) 兼認ノ時期ヨリ本國政府ハ交戰団体ニ屬スル者ノ外國人ニ損害
ヲ與フル等ノ行為ニ付テ終テノ國ニ對シテ責任ヲ解除セラル、モ、
トス。

(ハ) 本國政府ノ兼認アレハ兼認ノ時期以後、交戰団体ノ行為ニ付シ
テハ交戰団体ノ責任ヲ負フヘク若シ本國政府カ反乱ヲ鎮定シタル
トモハ交戰団体ト結ヘル契約上ノ義務又ハ交戰団体ノ負ヘル責任ハ
本國政府之ヲ負擔セサルモノトス。

(ニ) 政府ニ敵對スルモノニ對シテ國內ノ刑罰法ノ適用ヲ停止シ政府
ニ敵對スル者カ政府軍ニ捕ヘラル、モ罪人ヲ以テ遇セスシテ俘虜ヲ
以テ遇スルニ至ル、但交戰団体ノ既ニ消滅ニ級シタル後、於テ政府
反對者ヲ叛逆罪ヲ以テ論スルヲ妨ケサルナリ。

(ホ) 本國政府ニ依ル承認ハ終テノ國ニ對スル關係ニ於テ政府ニ敵對
スル団体ニ戰時國際法ノ主体タル地位ヲ與フルモノトス。

交戰団体ノ兼認、效果ハ軍ニ兵力ニ係ル争闘ニ付テ國家ノ
有スヘキ權利義務ヲ有スル、資格ヲ政府反對者ニ認ムルニ至ラサルヲ以テ
交戰団体ハ之等ノ事項ノ範圍外ニ置リテ國家ニテラサレハ維持スル能ハサ
ルヲ保テ維持スルコトヲ得ス、故ニ交戰団体ハ(イ)兵力ニ依ル争闘ニ直
接ノ干渉ヲ有セサル條約(通商條約、領土割讓條約等)ヲ他國ト結フコト
ヲ得ス(但兵力ニ依ル争闘ニ付スル兵力的援助ノ取極又ハ俘虜交換、休戰
降伏等ニ付スル戰時ノ規約ハ之ヲ結フコトヲ得ヘキナリ)(ロ)正規ノ外
交官ヲ差遣差ハ接受スルヲ得ス(交戰団体ト他國トノ間、談判ハ且ニ外交
官ノ資格ヲ有セサル代表者ヲ派遣シテ之ヲ行フ)(ハ)交戰団体ノ旗章ハ
國家ノ旗章ト同等ノ禮遇ヲ受ケサルヲ常トス、
交戰団体ノ旗章ヲ掲ケル軍艦ハ今日ニ於テ一定ノ資格ヲ認メラレ他國ハ
直ニニ斯ノ如キ軍艦ヲ海賊ト看做スカ如キコトナキハ言フ猶タガル所ニシ
テ兼認ヲ為セル國家ハ交戰団体ノ軍艦ノ戰爭行為(捕獲ヲ含ム)ヲ行フヲ
認メ他國ノ軍艦ト全シク帯在國法權ノ下ニ立タサルノ特權即チ所謂治外法
權ヲ認ムルニ至ル。

第二 交戦ノ主体ノ兵力

交戦ノ主体ノ兵力ノ主要ナル部分ハ其ノ正規ノ陸軍及海軍ナリ、如何ナル軍隊スハ艦船カ正規ノ陸軍又ハ海軍ニ属スルマハ其国内法上ノ向意ナリ、國ニ依リ民兵又ハ義勇兵團ノ名ヲ有スル者カ正規ノ軍ノ全部又ハ一部ヲ成スコトアリ、

交戦國ノ陸上ノ兵力ハ主トシテ正規ノ陸軍ヨリ成ル陸軍ハ主トシテ戦闘員ヨリ成レトモ非戦闘員モ亦之レニ附属ス、例ヘハ会計経理部員、法官部員其也、軍内属ノ文官若ハ外交官、衛生部員、薬剤師、看護婦、野戦郵便部員、将校ノ馬卒及従卒及軍ノ諸種ノ被服ニ服スル人夫等是レナリ、之等ノ者ハ戦闘員ニアラサルモ正規ノ兵力タル軍ノ一部ヲ成ス海軍ノ陸戦条規(三)ニ於テ交戦國ノ兵力ハ戦闘員及非戦闘員ヲ以テ編成スルコトヲ得ト規定シ敵ニ捕ハラレタルトモ此ニ種ノ者カ共ニ俘虏ノ取扱ヲ受クル権利ヲ有ストス正規ノ陸軍ヲ組成スルモノハ戦闘員ト非戦闘員トヲ別タス義勇兵ナルト義勇兵ナルトヲ向ハス又交戦國入ト中立國入タルトヲ別タス、又

常備兵タルト戦時徵集セル兵タルトヲ論セス皆交戦者タル特権ヲ認メラル、但衛生部員、軍医、薬剤師、看護婦等ハ赤十字條約ノ保護ヲ受クルモノニシテ軍ニ属スル非戦闘員ナルモ該條約ニ依リテ攻撃ヲ加フル能ハサルノミナラズ俘虏ト為スコトゾモ得サルモノトス、直接ニ軍ノ一部ヲ為サハル従軍者即チ例ハ新聞社ノ通信員及探訪者並ニ酒保用遣人等ノ如クモノハ間接ニ軍ニ附属セルモノトモフヲ得ヘク陸軍條規ハ其敵ノ叔内ニ陥リ敵ニ於テ之ヲ却却スルヲ有益ト認メタル者ハ其所屬陸軍官憲ノ証明書ヲ携帶スル場合ニ依リ俘虏ノ取扱ヲ受クル権利ヲ有スト為ス、

交戦國ノ陸上ノ兵力ハ現今ニ於テハ主トシテ正規ノ陸軍ヨリ成レトモ不正規ノ兵力モ亦戦闘ニ干係スルコトアリ、普仏戦争、露普國ハ仏國ノ不正規兵ニ就テ各人カ仏國政府ノ特別ノ公許ヲ得テ戦闘ニ從事スルコトヲ証明スルニアラサルハ交戦者タル特権ヲ認メスシテ其行ヲ敵対行爲ヲ戦時重罪ト看做シテ統制ノ刑ニ如シタリ、然ルニ海軍ノ陸戦条規ハ此点ニ於テ改良ヲ加ヘタリ、

海軍ノ陸戦条規(一)及(二)ハ不正規ノ兵力ニシテ交戦者タル特権ヲ認ム

ハモノニ種ヲ定メタリ、其第一種ハ民兵又ハ義勇兵團ニシテ第二種ハ群
民敵対ノ場合ニ於ケル未タ占領セラレサル地方ノ人民ナリトス、

元来民兵トハ事変ニ際シ人民ヲ召集シテ敵ニ當ラシムルモノニシテ又義
勇兵團トハ事変ニ臨ミテ有志人民カ自奉的ニ団体ヲ作り敵闘ヲナスモノナ
リ、陸戦条規(一)ハ斯ノ如キ民兵又ハ義勇兵團方一定ノ条件ヲ具備スル
トモハ之ニ戦闘ノ法規及権利義務ヲ適用スヘキヲ定ム、是レ交戦國ノ兵力
ノ一部タルヲ認メタルナリ、従テ次ニ述フヘキ四ノ条件ヲ具備スルトモハ
其各貴カ政府ノ公許ヲ受ケテ戦闘ニ従事スルコトヲ証明スルヲ要セスシテ
交戦者タル特権ヲ認メラルヘキナリ、而シテ四ノ条件トハ左ノ如シ、

- (一) 部下ノ為ニ責任ヲ負フ者其頭ニアルコト
- (二) 遠方ヨリ認識シ得ヘキ國若クハ國若ノ特殊徽章ヲ有スルコト
- (三) 公然兵器ヲ携帯スルコト
- (四) 其動作ニ付キ戦争ノ法規慣例ヲ遵守スルコト

但此規則ハ人数ノ多少ニ拘ラス団体ヲ組織シテ戦闘スル不正規兵ニ適用
アルモノニシテ皆々ニ敵対行為ヲ行フ個人ニハ適用ナク斯ノ如キ個人ハ戦

時重罪人トシテ殺セラル、ニ至ル、

海牙ノ陸戦法規ノ交戦者トシテ認メタル不正規兵ノ第一種ハ未タ占領マ
ラレサル地方ノ人民ニシテ敵ノ接近ニ際シテ上述セル四ノ条件ヲ具マ
ル編成ヲ為ス、違テ投入軍隊ニ混入スル為メ自ラ兵器ヲ標ル者ニシテ所
謂群民敵対ノ場合ナリトス、是レ政府ニ依リ組織ヲ持タズシテ自奉的ニ敵
対行為ニ出ツルモノナリ、陸戦條規ハ之等ノ若カ公然兵器ヲ携ヘ且戦争ノ
法規慣例ヲ遵守スルトモハ依令部下ノ為ニ責任ヲ負フ者其頭ニ在ルコトナ
ク又遠方ヨリ認識シ得ヘキ國若クハ國若ノ特殊徽章ヲ有スルコトナクモ之ニ交戦者
タル特権ヲ認ムルコトセリ、(二)是レ一方ニ於テ戦闘ノ直接ノ利害ヲ
受クル者ヲ成ルヘク交戦國ノ正規ノ兵力ニ限ルコトノ代リニ他方ニ於テ正
規ノ兵力ノ一部ヲ組織セサル個人ハ直接ノ敵対行為ヲ行フヲ得スト為ス現
今ノ交戦法規ノ原則ニ対スル一ノ例外ヲ認メタルモノニシテ之ヲ認メタル
主タル理由ハ眼前ニ敵兵ノ近ツクヲ見テ地方ノ人民カ自奉的ニ兵器ヲ操リ
テ祖國ノタメ家郷ノタメニ防戦スルハ人情ノ自然ニ出テ之ヲ戦時重罪トナ
スハ人情ニ度ルト為スカタメナリ、然レトモ既ニ占領セラレタル地方ノ住

氏ニシテ占領軍ニ対シテ敵対ヲナスハ戦時重罪人ヲ以テ論シ銃殺スルヲ得
ルナリ、其理由ハ占領軍ハ既ニ占領シタル地方ニ於テハ自己ノ安全ニ必要
ナル知分ヲ行ヒ得ルノ权限ヲ認メラレサルヘカラスシテ此占領軍ノ安全ノ
必要ノ觀念ハ之ヲ個人ニ對スル人情ノ觀念ニ勝タシメサルヲ得サレハナリ、
上述ノ二種ノ不正規兵中ニ付テモ戰闘員ト非戰闘員トヲ別ツテ得ヘキモ
戰闘員モ非戰闘員モ共ニ交戦者タルノ利益ヲ享ケ均シク俘虏ノ取扱ヲ受ク
ルノ利益ヲ有スヘキモノトス（陸戰條規三）

或ハ文明國間ノ戰爭ニ於テ野蠻人ヲ使用シテ戰闘ニ從事セシムルハ不法
ナリト爲シ野蠻人ニ交戦者タルノ特权ヲ認メサルヲ得ルトナス者アリ、然
レトモ戰爭ニ於テ野蠻人ヲ使用シ得スト爲スノ國際法規ノ確立セルコトヲ
認ムルヲ得ス、而シテ文明國間ノ戰爭ニ於テ戰闘ニ使用サレタル野蠻人ニ
交戦者トシテ特权ヲ認ムヘキモ否ヤノ向蹊ニ付テモ遂ニ之ニ交戦者トシ
テノ特权ヲ認メサルヲ得ルト斷言シ得ス、野蠻人タリトモ交戦法規ヲ遵守
セハ之ニ交戦者ノ利益ヲ認メサルノ理由ナカカ如シ、蓋シ戰爭ニ於テ野蠻
人ヲ使用スル場合ヲ區別シテ論ヤサルヘカラス、野蠻人種ノ中ヨリ兵士ヲ

四二

幕リテ訓練ヲ并ヘテ文明的ナル軍隊ノ全部若ハ一部ヲ組織スル如キハ不法
ニアラザル明白ニシテ斯ノ如キ軍隊ニ屬スル歐米人ノ所謂野蠻人種ニ屬ス
ル兵士ニモ交戦者タルノ特权ヲ認メラルヘキナリ、然レトモ戰爭ニ當リテ
野蠻人ヲ軍ノ補助トシテ其酋長ノ指揮ノ下ニ獨立ニ動作セシメテ使用スル
如キハ依令國際法上明白ニ不法ナリト斷言シ得サルモ交戦法規違反ノ場合
ニ付テモ其ノ虞大ナルヲ以テ之ヲ使用スルコトヲ批准セサルヲ得スシテ現実
ニ交戦法規違反ノ行ハルヘキ重大ノ虞ヲ存セハ使用サレタル野蠻人ニ交戦
者ノ資格ヲ認メサル等ノ処置ヲ執リ得ヘキモノナルヘシ、
交戦國ノ海上ノ兵力ハ現今ニ於テハ主トシテ正規ノ海軍ヨリ成リ正規ノ
海軍ハ主トシテ海上ニ於ケル軍艦及其乗員ヨリ成ル、
軍艦ノ乗員其他ノ海軍ニ屬スル者ニ付シテハ陸軍ニ屬スル者トシテ戰
闘員タルトモ戰闘員タルトモ向ハス交戦者ノ資格ニ伴フ特殊利益（所謂交
戦者ノ特权）ヲ認メラレ敷ニ捕ヘラレタル場合ニ於テハ俘虏ノ取扱ヲ受ク
ルノ利益ヲ認メラルヘキモノトス、
正規ノ海軍ハ軍艦以外ニ所屬ノ船舶ヲ有シ之ヲ其ノ一部ト爲ス現今ニ於

四三

テ許多ノ國ハ内國ノ或汽船會社ト約シテ會社ノ船舶ヲ戰時ニ於テ海軍所屬ノ船舶トシテ使用スルノ準備ヲ為ス

戰時ニ際シ船舶ヲ軍艦ニ變更スルコトナリ之ニ干シテ第二回ノ平和會議ニ於テ商船ノ軍艦ニ變更シタルモノハ其獨ク英國ノ所屬國ノ或艦ノ管轄直接ノ監督及責任ノ下ニ置カレハ軍艦ニ屬スル權利及義務ヲ有スルコトヲ得ストシ商船ノ軍艦ニ變更シタルモノハ其國ノ軍艦ノ外部ノ特殊條章ヲ所スルコトヲ要ストシ指揮官ハ國家ノ勳章ニ服シ且當該官ニ依テ正式ニ任命セラレ其氏名ハ艦隊ノ將校名簿中ニ記載セラレ、要シ架員ハ軍紀ニ服スヘキモノトス（商船ノ軍艦ニ變更スルコトニ干スル條約一乃至四）若シ上述ノ諸條件ヲ具フレハ武裝ノ有無又ハ程度如何ニ拘ラス所謂軍艦ニ屬スル權利義務ヲ認ムラレ、而シテ商船ノ軍艦ニ變更シタルモノハ總テ其行動ニ付テ戰時ノ法規慣例ヲ遵守スヘキモノトス（同條約五）又商船ヲ軍艦ニ變更シタルモノハ或ルヘク速ニ變更ヲ其軍艦表中ニ記中スルコトヲ要スルト為ス、然ルニ公海ニ於ケル變更ニ關シ之ヲ得シ得ルト為スノ説ト為シ得スト為ス説トアリ、第二回平和會議及倫敦海軍法規定會議ノ

際ニ於テモ此兵一ナスル規定ヲ設クルヲ得ス、變更ノ向致ノ異シキヲ致セル原因ハ日露戰爭ノ際ノベテルブルグ及スモーレンスク等ノ事件ニ在リ戰時前ナルト戰時中ナルトニ拘ラス正規ノ海軍ノ一許ヲ成スニ至レル艦船ハ一國ノ海上ニ於ケル正規ノ兵力ナリトス、海上ニ於テモ不正規ノ兵力ニ存シ得ルナリ、海上ノ不正規ノ兵力ノ第一種ハ現今ニ於テハ殆ント廢止セラレタリト認ムヘキ捕獲免許私船ニシテ其第一種ハ敵ノ攻撃ヲ被リタル商船ナリトス、

捕獲免許私船ハ昔時ニ於テ交戰國ノ海上ニ於ケル不正規ノ兵力トシテ密ニ活動セリ、捕獲免許私船トハ捕獲免許狀ヲ交戰國ヨリ得テ敵對行為ニ參加シ殊ニ敵國ノ商船ノ會捕ニ從事スル私船ナリ、捕獲免許私船ノ滋賜ハ十五世紀中ニ在リ、十八世紀ニ至ルマテ盛ニ行ハレタリ、当初交戰國ハ自國船トミナラス中立船ニ對シテモ捕獲免許狀ヲ與ヘタルモノ十八世紀ニ至リ交戰國カ其臣民ノ有スル私船ノミニ捕獲免許狀ヲ與フルノ慣例ヲ立セリ一八五六年ノ巴黎宣言ニ依リ捕獲免許私船ノ廢止カ四年ノ巴黎列國會議ニ代表者ヲ出セル英、仏、露、普、墺、サーデーニマ（伊）、土ノ七國ノ商

一約定セラレ其後國際団体内ノ大多數ノ因ハ此宣言ニ加盟スルニ至リ加盟
セサル諸國ニ實際ニ於テ私船ニ捕獲免許状ヲ与フルコトヲ今日ニ於テハ
捕獲免許私船ノ廢止ハ殆ント國際法ノ一ノ規則ヲ成スト認ムルヲ得ヘキナ
リ、

所謂義勇艦隊^{フリガ}交戦國ノ海軍ノ一部ト認ムヘキヤ否ヤニ干シテ區別ヲ立
テ、答フルヲ要ス、一八七〇年ノ普仏戦争ノ際ニ當リ普國ハ北狄乙殊邦
カ編成シタル所謂義勇艦隊ハ戦争ニ際シテ私人カ艦裝シ私人カ其資ヲ編
成シ各節的ニ行動シ功績ニ依リ賞金ヲ与ヘラルヘキ船隻ニ北狄乙海軍ノ一
部タル資格ヲ与ヘタルモノニシテ其巴里宣言ノ捕獲免許私船ノ廢止ノ條款
ニ抵触セザルヤ否ヤニ就テ學者間ニ議論多シ、巴里宣言カ捕獲免許私船ヲ
禁スルノ趣旨タルニ畢竟私費ヲ以テ維持シ私益ヲ以テ目的ノ一部トシ私人
カ其資ヲ編成シ而シテ國家ノ正規ノ海軍ノ直接ノ管轄又ハ監督ヲ與レテ
行動スヘキ武裝船ハ到底適當ノ監督ヲ施スコト能ハサルモノト爲シ此種ノ
武裝船ヲシテ戦争行為(捕獲ヲ含ム)ヲ行ハシムルコトヲ禁止シ以テ海上
ニ於ケル戦争行為ノ不正、不法ヲ期セントセルニ在ルモノナルヲ以テ

普仏戦争ノ際普國ノ編成セル如キ私人カ艦裝シ私人カ其資ヲ編成シ正規
ノ海軍ノ直接ノ管轄、監督ヲ與レテ各節的ニ行動シ功績如何ニ依リ賞金ヲ
与ヘラルヘキ船隻ハ其實ニ於テ巴里宣言ノ捕獲免許私船禁止ノ條款ニ抵触
ルモノト解スヘキカ如シ、

露國ハ一八七七年以來所謂義勇艦隊ヲ有シ其船隻ハ私費ヲ以テ建造シ平
時商船旗ヲ掲ク、然レトモ其船長及少クトモ他ノ一名ノ乗員ハ官ノ任命ヲ
受ケテ海軍ノ軍紀ノ下ニ立ツ、而シテ戦時ニ至レハ船隻ハ軍艦又ハ其他ノ
國家ノ用船トシテ之ヲ依用ス、戦時ニ於テ是等ノ船隻カ露國ノ正規ノ海軍
ノ一部ニ編入セラル、コトアルハ漢ヲ容レサル所ナルニ其未ク正式ニ海軍
ノ一部ニ編入セラレスシテ商船旗ヲ掲クル際ニ於テハ異論アルモ余ハ海軍
ノ一部ニ屬セサルノミナラス多少勝負カ曖昧ナルモ其利益ニ干シテハ軍艦
以外ノ公船タルノ利益ヲ専有スルノ資格ナキモノト信ス、而シテ露國ノ
義勇艦隊ノ如クハ巴里宣言ト抵触スル兵艦モ存セスシテ適法ナリト云ハサ
ルヘカラス、

海上ノ不正規ノ兵力ノ第一種ハ敵ノ攻撃ヲ受ケタル私船ナリトス、純粋

ノ商船等ノ私船ヲ敵ノ攻撃ニ対シテ防禦ヲ為スヲ得ヘク先ツ敵ノ攻撃ヲ受ケタル場合ニ敵ト戦フテ之ヲ拿捕スルコトヲ得是等ノ場合ニ於テ私船ノ船員モ交戦者トナルモノニシテ一國ノ兵力ヲ組織スル各員ノ有スヘキ所謂特權ヲ認メラルヘキモノトス、私船ニシテ攻撃ヲ受ケサルニ進テ敵対行爲ヲ行フトモハ其船員ハ敵ニ依リ戦時重罪人ヲ以テ目セラル、ニ至ル

四八

第四章 人及物ノ敵性

第一 概説

交戦國ハ戦争ノ目的ヲ達スルタメニ敵性ヲ有スル人及物ニ対シテ種々ノ加害手段ヲ採ルヲ得ルヲ以テ敵性ヲ有スル人及物ノ何タルヤヲ定ムルノ必要アリ、

第二 人ノ敵性

戦争ニ於ケル個人ノ地位ニキリテ或ハ戦争ハ國家間ノ干渉ナルヲ以テ個人ハ個人トシテ敵性ヲ有セス單ニ國家ノ兵力ノ一部ヲ組織スル場合ニ於テ対手國ヨリ見テ敵トナルノミナリトノ説ヲ為ス者アルコト尙ニ前ニ述ヘタル所ナリ、然レトモ國家ト之ニ属スル個人トハ其間ニ緊密ナル事實上ノ干渉ヲ有スルヲ以テ個人ハ其ノ属スル國家ノ戦争ト急交渉ナルヲ得ス、從テ個人モ対手國ヨリ見レハ敵國ノ臣民トシテ戦争ノ目的ニ必要ナル範圍内ニ於テ敵性ヲ有スルト看做シ之ニ対シテ國際法規ノ禁止セザル必要ナル加害ヲ行フヲ妨ケス、故ニ戦争ハ國家間ニ存在スル狀態ナリト雖モ一方ノ交戦國ハ敵國ノ臣民ニ対シテ戦争上必要ナル範圍ニ於テ敵性ヲ認ムルヲ得ルナリ、但英米等ニ於テハ交戦國ノ臣民相互ノ間ニミダ然敵對ノ干渉ヲ生スルノ思想尙ホ行ハル、モ現今國際團體内ノ一般ノ思想ヨリ云ヘハ斯ノ如キ思想ハ時代後レト云フヲ得ヘシ、固ヨリ國內法上斯ノ如キ思想ニ基ク主義ヲ採ルコトハ其結果ニシテ既ニ確立セル特別ノ國際法上ノ規定ニ反セザルニ於テハ國際法ノ禁スル所ニアラサルナリ、現今ノ國際法上個人ハ其所屬國トノ緊密ノ干渉ニ基キ敵國ニ依リ戦争

四九

ノ必要ノ範圍内ニ於テ敵性ヲ認メラル、ト為スヲ國際慣行ノ實際ニ合スルノ見解ト為スモ今日ニ於テハ各交戦國カ原則トシテ各其正規ノ陸海軍ニ依リ敵ノ正規ノ陸海軍ニ對シテ直接ノ加害手段ヲ加フルコトニ依リ戰爭ニ於ケル交戦國ノ目的ヲ達スヘキコトヲ認メラル、ヲ以テ個人ハ特別ノ場合ヲ除キテハ戰爭ニ於ケル直接ノ加害手段ヲ加ヘラル、コトナシモナリ、

2. 現今ノ國際法上敵國ノ臣民ハ敵性ヲ有シ自國及中立國ノ臣民ハ敵性ヲ有セザルヲ原則トス、然レトモ之ニ干シテハ例外認メラル、

上述ノ原則ノ例外ノ一ハ戰爭中交戦國ノ兵力ニ加ハリ又ハ其ノ為メニ敵對行為ヲ為ス等ノ交戦國ト特ニ緊密ノ干渉ヲ作ルヘキ行為ヲ為セル中立國臣民ニ干ス等、中立國臣民ハ對手國ヨリ見レハ敵性ヲ有シ中立國タルノ利益ヲ主張スル能ハサルニ至ル、戰爭中敵國臣民ニシテ是等ノ行為ヲナス者ニ對シテ行フヲ得ヘキ手段ハ攻撃シ又ハ俘虜ト為ス等一ハ斯ノ如ク敵性ヲ有スル中立國臣民ニ對シテモ行フヲ得ルニ至ル、海牙ノ陸戰ノ場合ニ於ケル中立國及中立人ノ權利義務ニ干スル條約ハ中立人カヘ

甲) 交戦者ニ對シ敵對行為ヲ為ストキ又ハ(乙) 交戦者ノ利益トナルハ其行為ヲ為ストキ殊ニ任意ニ交戦國ノ一方ノ軍ニ入り服務スルトキハ其中立ノ利益ヲ享クル能ハストス、但シ一方ノ交戦國ニ對シ中立ヲ守ラザリシ中立人ハ該交戦國ヨリ内一ノ行為ヲナシタル地方ノ交戦國ノ臣民ニ比シテ一層嚴酷ナル取扱ヲ受クルコトナシトス(一七)、而シテ(乙)ニ所屬交戦者ノ一方ノ利益トナルハ其行為中ニハ次ニ舉グルモノヲ含マストス、曰ク(一) 交戦者ノ一方ニ供給ヲ為シ又ハ其公債ニ添スルコト(但シ供給者又ハ債主カ他方ノ交戦國ノ領土又ハ其占領地ニ住居セス且供給品カ是等地方ヨリ来ラサルモノナルトモニ限ル)(二) 警察又ハ民政ニ干スル勤務ニ服スルコト是ナリト(一八)

中立國臣民カ其中立性ヲ失ヒ敵性ヲ得ルニ至ルハ其行為ハ必スシモ戰爭開始後ニ至リテ始メテ之ヲ行フヲ要セス、中立國臣民カ漸戰前ニ行ヘル行為ニ依リ外國ト緊密ノ干渉ヲ有シ該外國ノ交戦國トナルヘキ戰爭ノ開始ト同時ニ當然敵性ヲ有スルニ至ルコトアリ(例ハ中立國臣民カ平時ヨリ外國ノ軍務ニ服スルトキ)此場合ニ敵性ヲ脱セント欲セハ直チニ外

國トノ緊密ノ干係ヲ絶ツノ行爲ヲ爲サ、ルヘカラス、

五二

上述ノ原則ノ例外ノ第二ハ敵國ニ在在スル中立國臣民ニ關ス、此場合
ハ例外ノ第一ノ場合ト異ニシテ等シク敵性ト称スルモ例外ノ第一ノ場合
カ能動的ノ敵タル資格ノ意義ニ於ケル敵性ニ干スルニ反シテ受動的ノ敵
タル資格ノ意義ニ於ケル敵性ニ干スルモノナリ、敵國ニ在在スル中立國
臣民ハ昔時ヨリ一般敵國臣民ト同様ノ取扱ヲ受ケタリ、今日ニ於テモ英
國主義ハ中立國臣民タルト交戦國臣民タルトヲ向ハス敵國ニ在在スルト
モハ敵性ヲ受ケヘキヲ認ム英國主義ノ理由トスル所ハ敵國ニ在在スル者
ハ租税、徵稅又ハ其他ノ賦課ヲ払フ等ノ事ニ依リ敵國ノ抵抗カヲ維持ス
ルコトヲ補助シ敵國ト緊密ノ關係ヲ有スルニ至ルト云フニ在リ、此理由
ニ依リ敵國ノ國籍ヲ有スル平和的住民及其財產ニ對シテ國權法上行ヒ得
ヘキ所ハ敵國ニ在在スル中立國臣民及其財產ニ對シテモ等シク行ヒ得ヘ
キト爲ス、即チ是等ノ中立國臣民トモ徵稅及取立金ヲ課セラルヘク占
領軍カ其安全及作戦動作ノ爲ニ住民ニ負ハス制限ヲ負ハセラルヘク占
領シテ敵對行爲ヲ行ヘハ戰時重罪人トシテ知罰セラレ特ニ心與ナル事情

アル場合ニ於テハ停廢トシテ抑留セララル、ニ至ル、但シ敵國ニ在在ス
ルモ中立國臣民ハ交戦國ノ戰時法規違反ノ知照ニ對シテ其本國ノ保護ヲ
失フコトナシ、他國主義ハ理論上ニ於テハ敵國ニ在在スル中立國臣民ノ
敵性ヲ廢クルコトヲ認メサルモ此實ニ干スル英國主義ノ結果ハ實際ニ於
テ普ク認メラル、所ナリ、第二回平和會議ノ際獨乙ハ敵國ニ在在ル中立國
臣民ニ對シテ之ヲ一般ノ住民ト區別シテ之ヲ特別ノ地位ヲ認ムルノ提案
ヲ爲シ其他國主義ノ當然ノ結果トシテ生スヘキ所ナルニ拘ラス會議ノ委
員會ニ於ケル多數ノ國ノ委員ハ日英露他ノ委員ヲ含ム、ニ反對スル所ト
ナリ否決サレタリ、

人ノ敵性ニ干スル上述ノ原則ニ對スル例外ノ第一ハ海上捕獲ニ於ケル
船舶及貨物ノ敵性ヲ定ムルノ前提トシテ定ムヘキ人ノ敵性ノ向致ニ關ス、
英米主義ニ依レハ敵國ノ臣民カ中立國又ハ自國ニ在在スルトモハ敵
性ヲ有セスト看做シ從テ其所有スル財產ハ原則トシテ敵性ヲ有セスト看
做シ又中立國臣民ハ又ハ自國臣民ニカ敵國ノ爲メニ勞務ニ從事シ援助ヲ
敵國ニ与フル等敵國ト特ニ緊密ノ關係ヲ有スルニ至ル場合(例外ノ第一

五三

相当スル場合ノ以外ニ於テ敵國ニ住所ヲ有スルトキハ敵性ヲ有スルト見做シ從テ其所有スル財産ハ原則トシテ敵性ヲ有スルト看做スト或モ他國主義ニ於テハ中立國人ニシテ上述ノ例外第一ニ依リ敵性ヲ有スルモノヲ除キテハ敵國ノ臣民ノミカ敵性ヲ有シ從テ敵國臣民ノ所有スル貨物ノミカ海上捕獲ニ付シ敵性ヲ有スルト爲シ而シテ敵國臣民ハ住所ノ如何ニ拘ラス帝ニ敵性ヲ有シ從テ其所有スル貨物ハ帝ニ敵性ヲ有スト爲ス、英國主義カ物ノ敵性ヲ定ムルニ付テ概シテ持主ノ住所ヲ標準トスルニ及シテ他國主義ハ專ラ持主ノ国籍ヲ標準トスルナリ、我國モ在米英國主義ヲ採レルモハ捕獲規程三、四ノ日独戰役ニ於テ他國主義ヲ採ルニ至レリ此矣ニ付シテ一九〇八年開會ノ倫敦海戰法規會議ニ於テ議論アリシモ決定ヲ見ス倫敦宣言ハ敵船内ニ在ル貨物ノ中立性ヲ有スルマ敵性ヲ有スルマハ其持主ノ中立性ヲ有スルマ敵性ヲ有スルマ依リテ定マルヲ規定スレトモ(五)国籍又ハ住所ノ何レノ標準ニ依リア持主ノ中立性ナルマ又ハ敵性ナルマヲ定ムヘキヲ規定セス、日独戰爭ノ際ニ出テタル我國ノ軍令海戰法規ニ於テ敵船内ニ在ル貨物ノ中立性ヲ有スルマ又ハ敵性ヲ有

スルマハ其所有者ノ国籍ノ中立ナルマ又ハ敵ナルマニ依リテ定ムトシ所有者カニ重ノ国籍ヲ有スル場合ニ於テハ其住所ノ中立國ニ在ルマ又ハ敵國ニ在ルマニ依リテ定ムトハ海戰法規一九一

第三 物ノ敵性

原則トシテ敵性ヲ有スル人ニ屬スル物(船舶ニ付テハ別ニ第四ニ於テ説クヘキモノトス)ハ敵性ヲ有シ、敵性ヲ有セサル人ニ屬スル物ハ敵性ヲ有セス、從テ陸上及海上ノ干渉ニ於テ敵國ノ陸海軍ニ加ハリ又ハ敵國ノ爲メニ敵對行為ヲ行フ等ノ交戦國ト特別ナル緊密ノ干渉ヲ作ルヘキ行為ヲ爲セル中立人一人ノ敵性ニ付スル例外ノ第一ノ場合ニ當ル)ニ屬スル物ハ現今ノ國際法上敵性ヲ有スルヲ認メ得ヘク又陸上ノ干渉ニ於テ中立人ニシテ敵國ニ在依スル人一人ノ敵性ニ關スル原則ノ例外ノ第二ノ場合ニ當ル)ニ屬スル人ハ英國主義ノ理論ニ於テ及理論ノ如何ニ拘ラス現今ノ國際ノ實行ニ於テ敵性ヲ有スルト認メラレズ便令所有者ヲ敵國ニ在住セサルモ中立人ニ屬スル敵國ニ存在スル物ニ付シテモ亦全シトス又海

上捕獲ノ干係ニ於テハ英米主義及大陸主義カ共ニ所有者ノ敵性ヲ有スル
ト否トニ依リテ海上ニ於ケル貨物ノ敵性ヲ有スルヤ否マヲ定ムルノ原則
ハ倫敦宣言五ハ参照)ヲ採ルモノノ敵性ヲ有スルヤ否マヲ定ムル標準カ
英米主義ト大陸主義トニ依リテ異リテ英米主義ハ概シテ住所ヲ標準トシ
大陸主義ハ專ラ国籍ヲ標準トスルニ依リテ海上ニ於ケル貨物ノ敵性ヲ有ス
ルヤ否マハ英米主義ヲ採ル國ト大陸主義ニ依ル國トノ間ニ實際ノ履行ニ
於テ差異アルヲ免レズ、我國ハ在米英米主義ヲ採レルモ日独戦役ノ際出
セル軍令治戦法規ニ於テ大陸主義ヲ採レリ(海戦法規一九)、英米主義
及大陸主義ニ於ケル海上捕獲ニ干スルモノノ敵性ニ付キ已ニ詳述セルヲ以
テ敵性ヲ有スルヤ否マハ所有者ノ資格ニ基ク物ノ敵性ト否トノ標準ニ付
キ蓋ニ更ニ詳述スルヲ要セサルナリ、

大陸主義ニ於テハ海上ニ於ケル貨物ノ敵性ノ有無ハ專ラ持主ノ敵性ノ
有無ニ依リテ定マルト云フヲ得ヘキニ英米主義ニ於テハ持主ノ敵性以外
ニ貨物ヲシテ敵性ヲ有セシムヘキ原因ヲ存スルモノトス、

(一) 敵國又ハ確定的ニ敵軍ノ兵力ニ歸シタル敵軍ノ占領地ニ在ル七

地ノ生産物ハ假令該土地ノ所有者カ敵國ニ住所ヲ有セサル中立國人
又ハ自國人タルトモニ於テモ(即チ敵性ヲ有セサル又タルトモニ於
テモ)該地ヨリ出ツル航海中ニ於テ之ヲ敵貨ト看做ス(ストローウニ
ル卿ノ「フエニツクス」号事件ノ判決)

(二) 敵國ニ住所ヲ有セサルモ敵國ニ商店ヲ有スル者ニ屬スル該商店ノ
商業上ノ取引ニ干係アル財產ハ所有者カ商業上ノ住所ヲ敵國ニ有ス
ルノ故ヲ以テ敵性ヲ受ク、

(三) 敵國軍艦又ハ武装セル敵國ノ私船ハ捕獲免許私船タル場合アリ
ニ積載スル場合ニ於テ中立貨物ヲ敵貨ト為セル英國ノ判決例アリ(ハ
ストローウニル卿ノ「フアンニール」号事件ノ判決)、然ルニ合衆國ニ
ハ一見反對ナル判決例アリ「ネリード」号事件)

海上ノ貨物ノ敵性ニ干シテ敵船中ニ在ルモノニシテ中立性ヲ有スルコ
トヲ立証シ得サルトモハ其貨物ハ敵性ヲ有スト推定スヘキコトハ慣例ノ
認めル所ナリ、倫敦宣言モ亦明ニ之レヲ認メタリ、(五九) 我國ノ軍令海
船法規モ同様ノ規定ヲ置ケリ(二〇)

航海中ノ貨物ノ敵人ヨリ中立人ニ所有權ヲ移轉スルコトニ于テ在米
英米主義ト从國主義トノ間ニ差異アリ、从國主義ニ於テハ航海中ノ所有
權移轉カ善意ニ行ハレタルトキハ有效トナスモ英米主義ニ於テハ買主タ
ル中立人カ貨物ヲ占有スル前ニ船舶力拿捕サル、トキハ航海中ノ貨物ノ
所有權ノ移轉ヲ認メス、倫敦宣言ハ英米主義ヲ採リ敵船内ニ搭載セル貨
物ノ敵性ハ戰爭開始後航海中ニ所有權ノ移轉ヲ行フトモ其仕向地ニ到着
スルマテハ依然存続スト定メ而シテ此原則ニ對シテ極メテ稀ナル場合ニ
於テ起ルヘキ例外ヲ定ム、即チ敵船内ニ在ル貨物ノ現時主タル敵人カ破
産シタル場合ニ前持主タル中立人ニシテ拿捕以前ニ其貨物ニ對シ合法ノ
取戻權ヲ行使シタルトモ、其貨物ハ再ヒ中立性ヲ取得スルモノト爲スハ
大ニ我國ノ軍令海戦法規モ同様ノ規定ヲ置ケリ(一一)

第四、船舶ノ敵性

船舶ノ敵性ノ向駐ニ于シテ英米主義ニ於テハ先ツ敵ノ國旗ヲ掲ケ又ハ
敵國ノ國籍證書ノ下ニ航行スル船舶ハ敵船トシテ其以外ノ船舶ニテモ其

船舶又ハ一部ヲ所有スルモノカ敵國又ハ敵國人ナルトモハ之ヲ敵船トナ
ス(一)敵國捕獲規程大第ニ項及第ニ項)敵一英米主義ニ於テハ船舶ノ敵性
ノ向駐ハ亦人ノ敵性ノ向駐ト干渉スルモノナリ、大連宣言ニ於テハ專ラ
船舶ノ國籍ヲ掲ケルノ權利ヲ有スル國ノ何タルヤ(即チ船舶ノ國籍ノ何
タルヤ)ニ重ク置ケリ、一九〇九年ノ倫敦宣言ハ大陸主義ヲ認メ船舶
ノ中立性ヲ有スルヤ又ハ敵性ヲ有スルヤハ其掲揚ノ權利ヲ有スル國旗如
何ニ依リテ之ヲ定ムルト爲マリ(宣言五七第一項)我軍令海戦法規ハ此
矣ニ於テ倫敦宣言ト同シメ規定ヲ置ケリ(一八第一項)、英國ニ於テハ
所第ニ七五六年ノ規則ニ依リテ戰時ニ至リ平時ニ於テ禁止セラル、所ノ
航海ニ從事スルヲ許サル、中立國船ハ敵ノ航海高業ニ從事スルモノトシ
テ敵船ト看做ス、主義ヲ採リ倫敦宣言ニ於テモ此主義ヲ海保セリ、所謂
一七五六年ノ規則トハ當時英仏兩國ノ間戰ニ際シ仏國カ其ノ平素禁止セ
ル本國港ト仏國ノ植民地トノ間ノ航海通商ヲ特ニ和蘭船ニ對シ許セルト
ス英國人ハ和蘭船カ之ヲ行ハサレハ仏國ノ島嶼ハ必然的ニ英國ノ手ニ落
ツ、レト爲シ、英航海通商ニ從事スル和蘭船ヲ敵ノ通商航海ニ從事スルモ

ノト看倣シ是等ノ和蘭船ハ敵船ト見倣スヘシト基セルニ基テ、我軍令海
戦法規ハ此矣ニ於テ英國ノ如ク中立船ニシテ敵国政府ノ特許ヲ得テ敵国
カ平時ニ於テ他國船ヲ禁止スル航海ニ從事スルモノハ之ヲ敵船ト看倣ス
ト定ム（一ハ茶葉ニ項）

第五 船籍ノ移転

船舶ノ敵性ノ問題ニ于シ船舶ノ所有權移転ノ場合ニ付テ複雑ナル干渉
ヲ生ス、若シ戰爭中敵船ノ中立船トナルノ所有權移転ヲ自由トラシムル
トキハ敵船所有者ハ其所有船ヲ中立船トナシテ拿捕ヲ免ル、ヲ求ムヘキ
ナリ、且戰爭開始前ニ於テモ開戦ニ事及テ予メ知リテ拿捕ヲ免ル、ナキ
ニ所有權ヲ移転スルコトヲ制限スヘシト爲スノ說アリ、戰爭中敵船ノ所
有權ヲ中立人ニ移転スルコトニ關シテ自由主義ハ絶対的ニ移転ヲ無効ト
看倣スモノトス、英米主義ニ於テハ之ニ及シテ絶対的ニ移転ヲ無効ト看
倣スコトナキモ敵船ノ中立船トナルノ所有權移転ニ付テテ制限ヲ設ケ、
敵船ヨリ中立船ニ資格ヲ變スルヲ有効ト認ムルニハ所有權ノ移転ニ關シ

bona fide

其ノ善意 *bona fide* 且完全ナルコトノ証明アルヲ要スヘ我國捕獲規
程七第一項第三号ニ而シテ船舶ニシテ英航行中所有權ヲ移転セラレ未ダ
現実ノ引渡ナキ場合ニ於テハ移転ヲ有効ト認メス（我國捕獲規程七第二
項）又英國ニ於テ移転カ封鎖ヲ受クル港内ニ於テ行ハレタルトキニ於
テモ移転ヲ有効ト認メス、又戰爭開始前ニ行ハル、敵船ノ中立船トナル
ノ所有權移転ニ于シ自由主義ハ移転カ正当ノ証各ヲ以テ証明セラルレハ
移転ヲ有効ト認ムルニ英國及我國ノ主義ニ於テハ戰爭開始前ニ於テ開戦
ヲ予期シテ行ヘル敵船ノ中立船トナルノ移転ハ恰モ戰爭中ニ於テ行ヘル
敵船ノ中立船トナルノ移転ノ如ク取扱フモノトスハ我國捕獲規程七第三
項）

倫敦宣言ハ戰爭開始後敵船ヲ中立國籍ニ移転シタル場合ニ於テハ該移
転ニシテ敵船タル性質ヨリ生スヘキ拿捕沒收等ノ結果ニ免レシカ爲メ行
ハレタルモノニ非サルコトヲ船舶ヨリ証明スル場合ヲ除ク、外之ヲ無効
トス、然レトモ（イ）移転ニシテ船舶ノ航行中又ハ其封鎖港内ニ在ル間
ニ行ハレタル場合、（ロ）移転ニシテ買戻スハ返還ノ條件ヲ有スル場合

又ハ(ハ) 國旗掲揚ノ権利ニ干シ其本國法ニ規定セル條件ヲ遵守セサル
場合ニ於テハ戰爭開始後ノ移転ハ前記ノ証明ノ有無ヲ論セス無効ナリト
看做ス。

大ニ

開戦前ノ移転ニ關シ倫敦宣言ハ原則トシテハ敵船ヲ中立船ト爲スノ移
転ニシテ敵船ナル性質ヨリ生スル結果ヲ免レンカタメニ行ハレタルモノ
ナルコトヲ拿捕者ヨリ証明スル場合ヲ除クノ外ハ有效ナリト定ム。但船
船ニシテ戰爭開始前六十日以内ニ交戦國ノ國籍ヲ喪失セル場合ニ於テ該
船内ニ移転証書ヲ有セサルトキハ嫌疑ノ爲メ該移転ハ無効ナリト推定ス。
而シテ船舶ヨリ反証ヲ舉クルコトヲ許シ敵船タル性質ヨリ生スル結果ヲ
免レンカタメニ行ハレタルモノニアラサルコトヲ証明セハ有效トセラル
此特別ノ場合ノ上述ノ原則ノ場合ト異ルハ開戦前ノ移転ハ原則トシテハ
有效ニシテ拿捕者ヨリ無効ノ証明ヲナスヘキモノナルニ上述ノ特別ノ場
合ノ移転ハ無効ト推定スヘク船舶ヨリ有效ノ証明ヲナハヘキモノナルニ
アリ。上述ノ開戦前ノ移転ノ移転ノ移転ニ於テ移転ハ有效ト認メラル。
ニハ干保國ノ國內法上ノ普通ノ有效ノ條件ヲ備ハルヲ要スルコト言フ須

タス(五五第一項) 開戦前ノ移転ニ干スル上述ノ原則ヲ逆リテ無制限
ニ開戦前ノ移転ニ及ホシ拿捕者ニ於テ敵性ヨリ生スル結果ヲ免レンカタ
メニ行ハレタルコトヲ証明セハ如何ニ開戦ヨリ永キ以前ニ行ヘル移転モ
無効トナスヲ得ルトナスハ取引ノ安全ヲ保護スル所以ニアラスト爲シ倫
敦宣言ハ戰爭開始前三十日以前ニ行ハレタル移転ニ付テハ其絶対且完
全ニシテ干保國ノ國法ニ遵テ爲サレ且移転ノ結果該船舶ノ監督及其使用
ヨリ生スル利益ニシテ移転前ニ於ケル内一人ニ屬セサルニ至リタルトキ
ハ該移転ハ有效ナリト看做スコト、セリ、但シ船舶ニシテ戰爭開始前六
十日以内ニ交戦國ノ國籍ヲ喪失シ且船内ニ移転証書ヲ有セサルトキハ嫌疑
ノ充分ノ理由アリトシテ該船舶ノ拿捕ヲ行フモ損害賠償ノ理由トナル
コトナシトス(五五条第二項)

倫敦宣言ハ中立船ノ軍事的幫助ノ或場合ニ於テ中立船ヲ一般ニ敵商船
ノ如ク取扱フヘキヲ定ム(倫敦宣言四三) 中立船船中一般ニ敵商船ノ如
ク取扱ハルノ場合ニハ次ノ結果ヲ生ス。(イ) 船中ニ在ル船主ノ貨物ハ
敵貨ト推定サル(倫敦宣言五九) 船中ニ在ル中立貨ノ持主ハ其貨物ノ中

大ニ

止性ヲ証明セサルヘカラス（ロ）船中ニ在ル敵貨ハ没收ヲ得ハマニ至ル
（巴里宣言第三則）（ハ）倫敦宣言ノ中文船舶ノ破壊ノ制限ニ干スル規
定（四八、四九）ハ適用ナキニ至ル（ニ）船員ノ停虜トナルヘキハ否
マニ干シテ敵ノ商船ニ干スル海牙ノ捕獲權行使ノ制限ニ干スル條約第三
章ノ準用アリト認ムヘキカ如シ又（ホ）交戦國ノ捕獲權檢所ノ檢定ニ対
シテ船主カ國際捕獲權檢所ニ和訴ヲ為スヲ得ルハ單ニ船舶カ正当ニ敵船
ト等シク取扱ハルヘキ性質ヲ得タリト認ムヘキ乎否乎ノ向題ニ干スルノ
トトナル（國際捕獲權檢所設置ニ干スル海牙條約三）但此ノ最後ノ國
際捕獲權檢所ニ和訴シ得ル兵ハ敵船ノ取扱ヲ受クル中立船舶ノ單純ナル
敵船ト異ル矣アリ

倫敦宣言ハ又停船檢査及拿捕ノ權利ノ合法ナル行使ニ対シ強カテ以テ
抵抗スル船舶ハ一切ノ場合ニ没收シ其載貨ハ敵船内ニ在ル載貨ノ度ケル
ト公一ノ処分ヲ受ケ船長又ハ該船舶ノ持主ニ屬スル貨物ハ之ヲ敵貨ト看
做スヘキヲ定ム（宣言六三）此場合ニハ載貨ニ関スル干渉ニ於テ敵船
ト同様ニ取扱フモノトス、從テ軍事的補助ノ場合ニ於テ敵商船ノ取扱ヲ

ヲ受クル結果トシテ速ヘタル中ノ（イ）及（ロ）ハ此場合ニ適用アリ、
曰独戦後ノ際我國ノ軍令海戦法規ハ船籍ノ移転ニ干シテ倫敦宣言ニ依
リテ規定ヲ設ケタリ（二ニ乃至ニ三）

第五章 交戦區域

此ニ所謂交戦區域トハ交戦國ノ兵力カ相互ニ敵對行為ヲ行ヒ得ヘキ陸地
水域及空中ヲ指スナリ、交戦區域ハ兩交戦國ノ領土、領水及空中領域並ニ
公海（及無主ノ土地）及其上ニ在スル空中ヲ含ミ中立國ノ領土、領水及空
中領域ヲ含マサルヲ原則トス、然レトモ之ニハ例外アリトス、一、名義上
中立國ニ屬スルモ交戦國ノ國權ヲ行フ租借地（例ヘハ旅順口、威海衛）及
其永続的ニ占領及行政ヲ行フ權利ヲ有スル土地（例ヘハ英國カ占領及行政
ヲ為スサイプレス、澳匈カ其併合前占領及行政ヲ為セルボスニマ、ハルツ
エゴグイナ）ハ交戦區域内ニ入ルモノトス、（二）名義上交戦國ニ屬スル

大五

中立國ノ國權ヲ行フ租借地及中立國ノ永統的ニ占領行政スル權利ヲ有スル土地ハ交戦區域ニ入ラサルモノトス、(三)中立領土ニシテ例ハ戦争ニ干スル一方交戦國ノ特別ノ政治上ノ目的トスル所ニ干渉アル場合又ハ一方交戦國ノ軍隊カ中立領土ニ入り為ニ他方交戦國ノ軍隊カ自衛上攻撃スハ防禦ノ為メ中立領土ニ入ルヲ必要トスル場合等ノ特別ノ事情ニ基キテ交戦區域トナルコトアリ、(四)交戦國ノ領土、領水ニシテ多數國間又ハ千條數國間ノ條約ニ依リテ永統的ニ交戦區域ヨリ除外セラレテ所謂中立區域トナルコトアリ、(五)交戦國ノ領土、領水ニシテ戰爭中交戦國間ノ特別ノ條約ニ依リテ一時的ニ交戦區域ヨリ除外セラル、コトアリ、(六)交戦國ハ其ノ交戦區域ト為シ得ヘキ領土、領水又ハ公海ニ對シテ交戦國ノ一方の行為又ハ中立國トノ條約ニ依リテ敵對行為ヲ及ボサ、ルコトアリ、

第六章 戦争ノ開始

第一、概説

現今ノ國際法ニ於テ國家ハ外交談判ヲ行ヒ又ハ他ノ國際紛争処理方法ヲ行ヒテ其主張ヲ貫ク能ハサル場合ニ於テハ戦争ヲ開始スルヲ得ヘキモ國際ノ紛争ヲ存セス國際ノ紛争ヲ存スルモ之ニ干シテ外交談判ヲモ行ハス之ヲ行ヒテ對手カ他ノ手段ヲ用アルヲ待タスシテ直チニ主張ヲ容ル、セ否セ未タ明ナラサル際ニ於テ不意ニ戦争ヲ開始スルハ蓋ズ法ヲ以テ目シ得ヘキモノナルヘシ、但シ同盟國ノ如ハレル戦争ニ参加スルニ先チテ外交談判ニ付スノ必要ナキハ言フ領タス、

第一ニ平和會議ノ際條約セル條約ニ依レハ諸國ハ兵力ニ訴フルニ先チ事情ノ許ス限リ其交戦國中、一國又ハ數國ノ周旋スハ調停ニ依頼スルコトヲ約定セリ(國際紛争平和的處理條約ニ)

平時ニ於テ行フ許サレタル強カ手段タル復仇(復仇トシテ行ヘル平時封鎖、船舶抑留ヲ含ム)ヲ行フモ直ニ戦争開始スト云フヲ得ス、但是等ノ強カ手段ハ對手國々之ニ反抗スルコトニ依リ戦争ヲ開始スル直接ノ

原因トナルコトアルノミナラス若シ復仇トシテ行フモノナルコトヲ充分ニ明ニセスシテ之ヲ行フトキハ相手國ハ之ヲ戦争行為ト認ムルコトヲ得ハキナリ又外交官ノ召還ニ依リ外交断絶スルモ戦争開始アリト云フヲ得ス、

従来戦争ノ開始ハ一方ノ國ノ相手國ニ対スル南戦ノ宣言ニ依ルコトアリ、或ハ一方ノ國ヨリシテ結局ノ要求ヲ明示シ若干ノ時期（例ハ二十四時間又ハ四十八時間）内ニ該要求ヲ容レサルトキハ敵対行為ヲ開始スヘキヲ相手國ニ通告スル条件附ナル南戦ノ宣言ヲ含メル最後ノ通牒ヲ發シ相手國カ其要求ヲ容レシテ所定ノ時期ヲ経過シタルニ依ルコトアリ、或ハ一方ノ國ヨリ他方ニ對シ敵対行為ヲ行フニ依ルコトアリ、

第二、敵対行為ニ依ル戦争ノ開始

海牙ノ第二回平和會議ニ於テ南戦ニキスル條約ニ依リ一定ノ予告ナクシテ敵対行為ヲ行ヒ得サルコト、ナレリ、然レニ此條約實施以前ニ於テ戦争ノ開始ニ際シ先ツ宣戰ヲ行ハサレハ敵対行為ヲ行フ能ハスシテ敵対

行為其ノモノニ依リ戦争ヲ開始スルヲ得スト然レトモ實際ニ於テ敵対行為ニ依リ戦争ノ開始セル事例許多ニシテ上述ノ條約實施以前ニ於テハ國際法上戦争ノ開始カ必ス宣戰ニ依ラサルヘカラスシテ敵対行為ニ依ルヲ得ストスルノ規則ノ確立セシコトヲ否認セサルヲ得ス、只如何ナル敵対行為ニ依リ戦争ヲ開始シ得ヘキニ對シ議論アリ得ヘカリシノミ、但シ國際紛争ヲモ存マヌ又國際紛争アリトスルニ之ニテシテ談判^{若ハ談判}開始メテ未ダ相手カ直ニ主張ヲ容ルヘキ否キ不明ナルニ當リ突如敵対行為ニ出スルカ如クハ往時ニ於テモ慣習國際法違反ト云フヲ得ヘカリシナルハシ、然レトモ談判結果ナキニ當リ宣戰ヲ為サスシテ敵対行為ニ出ツルモ遠法ト云フヲ得ナリシナリ、殊ニ外交干係ヲ断絶シ若クハ外交干係ノ断絶ヲ宣言シ自由行動ノ権利ヲ放棄スルノ宣言（例ハ八日露戦争ノ際ノ二月六日ノ文書）ヲ為シテ後敵対行為ニ出ツルモ遠法ヲ以テ目スルヲ得ナリシ所ナリ、然ルニ第二回平和會議ニ於テ締約諸國ハ其間ニ明瞭ナル予告ヲ為サスシテ敵対行為ヲ開始セサルヘキヲ約スルニ至レリ、

第三 宣戦ニ依ル戦争開始

第二回平和會議ノ開戦ニ于スル約条ハ先ツ理由ヲ附セル宣戦即チ戦争開始ノ宣言ヲ爲シスハ條件附宣戦ヲ含ム最後通牒ヲ送り以テ予告ヲ爲スニアラサレハ敵対行為ヲ行ヒ得ナルヲ定ム、然レトモ予告ト敵対行為ノ開始トノ間ニ經過スヘキ期間ニ開シテ定ムル所ナシ、

平和會議ニ於テ和議及露國ハ二十四時間ノ期間ヲ定ムヘキヲ主張セシカ成立セス、其結果トシテ未ダ戦争ノ準備ヲ爲サ、ル敵ヲ不意打スルコトヲ全然防クヲ得サルニ至レリ、又上述ノ條約アルニ拘ラス實際ニ於テ宣戦又ハ條件附宣戦ヲ含ム最後通牒ヲ爲セサルニ戰爭開始スル場合ヲ生スルヲ免レス、或ハ(イ)一方カ開戦ニ開スル條約ヲ無視シテ宣戦ヲ爲サスシテ先ツ敵対行為ヲ行フコトアルヘク、或ハ(ロ)切迫セル自衛上ノ緊急ノ必要ニ依リ宣戦ヲ爲ス、違ナクシテ敵対行為ニ出ツルコトアルヘク、(ハ)二回ノ兵力ノ間ニ衝突起リテ終ニ戰爭ヲ生スルコトアルヘク(ニ)復仇ノ手段トシテ行ヘル強カ手段又ハ干渉ノ際ニ行ヘル強カ

手段又ハ平時封鎖カ対手國ニ依リ強カヲ以テ抵抗サル、ニ依リ敵対行為行ハレ戦争ノ生スルニ至ルコトアルヘキナリ、是等ノ場合ニ於テ國際法違反ナルコト明白ナル場合ト否トヲ問ハス宣戦又ハ條件附宣戦ヲ含ム最後通牒ヲ爲スルコトナクモ一タヒ敵対行為行ハル、ニ至ラハ戦争ノ起レルヲ認め戦争ニ于スル國際法規ノ適用ヲ認めサルヲ得サルニ至ルヘキナリ又上述ノ第二回平和會議ノ開戦ニ于スル締約國ト非締約國トノ間ノ關係ニ於テハ該條約ノ規定ハ適用ナクテ以テ該條約所定ノ予告ヲ行フコトナクシテ先ツ敵対行為ヲ行フコトニ依リテ戦争ヲ開始シ得ヘキモノト云フヘシ、

第七章 開戦ノ結果

第一 緒言

戦争開始ノ結果ハ交戦國間ニ及フニ止マラスシテ中立國ニ対シテモ中

立國ノ權利義務ヲ生セシムルニ至ルトモ中立干渉ハ之ヲ別ニ第二編ニ
於テ述フヘキヲ以テ此ニハ主トシテ交戦國間ニ於ケル前戦ノ直接ノ結果
ニ付テ述ヘントス、

第二、交戦國間ノ外交關係ノ中絶

戦争ハ交戦國間ノ平和干渉ヲ終止セシムルモノナルヲ以テ若シ前戦ノ
際未ダ外交ノ断絶即チ外交干渉ノ中止ナキトモハ前戦ニ依リ外交干渉カ
中止スルモノトス、敵國ニ在ル外交官ハ駐劄外務省ニ寄託セル旅券ヲ受
取リテ帰國ス、前戦ノ後ハ虽モ敵國ヲ去ルニ必要ナル期間ハ身体、榮譽
ノ不可侵及治外法權ノ特權ヲ認メラル、敵國ニ在ル交戦國ノ領事ハ前戦
ニ依リテ認可力効方ヲ失フヲ以テ其職務ヲ行フ能ハサルニ至ル、公使館
及領事館ノ建物及存積ノ保護並ニ敵國ニ於ケル國人ノ保護ハ或中立國ノ
外交使節及領事ニ依頼スルヲ常トス、

第三、前戦ニ于スル條約ノ實施

前交戦國間ニミ結ハレタルモノナルト第三國ノ之ニ加ハレルトテ向
ハス戰時法規ニ干渉スル條約(例ハ海牙ノ陸戰法規條約)又ハ其他ノ戰
争ニ於ケル特別ノ行為モ行ハ不行爲ニ關スル條約(例ハ交戦國ノ領土々
ル或地方ノ交戦地域ノ外ニ置カルヘキヲ定ムル所謂中立地ニ關スル條約)
ハ前戦ニ依リ其實施力ヲ發生ス、

第四、或種ノ條約ノ效力ノ喪失又ハ停止

殊ニ戰時ニ于スル條約以外ノ交戦國間ノ條約ハ總テ前戦ニ依リ其ノ效
力ヲ失フト爲スノ說往時ニ行ハレタリシモ今日ニ於テハ衰ヘタリ、然レ
トモ今日ニ於テ如何ナル條約カ效力ヲ失ヒ如何ナル條約カ存続スヘキマ
ニ于シテ學說ノ一致ヲ欠ケリ、最モ穩當ナル說ト信スル所ノモノヲ舉グ
レハ左ノ如シ

- (一) 永久的ノ狀態ヲ定ムルコトヲ目的トスル條約(例ハ土地割讓條約)
- 境界條約、独立承認條約、如キ所謂 *Pacta Transitoria*
- 屬スルモノ)
- (二) 他國ノ加ハレルモノナルト前交戦國ノミノ間ノ條約

ナルトヲ向ハス南戦ニ依リ当然其効力ヲ失フコトナシ 七四

(2) 西交戦国間ノ政治上ノ条約ニシテ將來ノ作爲又ハ不作爲ヲ約スルモノ(例ハ同盟条約、保護条約、担保条約、勢力範圍確定條約)ハ南戦ニ依リ其効力ヲ失フ。

(3) 西交戦国以外ノ国ノ加ハレル國際行政上ノ条約(例ハ万国郵便聯合条約及國際法規ヲ定ムル条約)ハ條約ノ拘束力ニ干スル一ハ七一年ノ宣言)其他ノ西交戦国以外ノ国ノ加ハレル條約ノ効力ハ西交戦国以外ノ国家ニ對シテハ變更ナク西交戦国ニ於テモ條約自身カ全ク効力ヲ失フコトナク戦争ノ狀態ニ由リ實施力不可能ナル其ニ付又効力ヲ停止スルト爲スヲ原則トス。然レトモ政治上ノ条約中國際大條約(例ハ八一八年ノ維納條約、一八五六年ノ巴黎條約、一八七八年ノ柏林條約ノ類)ニアラザル少數ノ國ノ間ノ條約(例ハ同盟條約又ハ担保條約)ハ其締結國中ノ二國カ交戦國トナレル際ニハ條約ノ内容ニ依リ交戦國間ノ干係ニ於テ條約カ効力ヲ失ヘリト認ムヘキコトアリ。

(4) 上ニ述ヘタル(1)(2)(3)ニ含まレザル西交戦國ノ條約中開稅通商ニ干スル條約ハ實例上南戦ニ依リ効力ヲ失フト爲ス場合多ク郵便條約、犯罪ハ引渡條約國際私法ニ干スル條約(如キハ單ニ効力ヲ停止スルトナス場合多シトス、然レトモ近時ニ於テ(4)ニ屬スル條約ハ南戦ニ依リ当然其効力ヲ失フモノニアラサシテ戦争開始ナルレハ當事者ノ一方ヨリ之ヲ廢棄シ得ヘク又特ニ廢棄セラレ、コトナクハ戦争中効力ヲ停止スルニ適マスト爲スノ學說漸ク勢ヲ占メントス。

(5) 其辭釈又ハ適用カ戦争ノ原因トナレル西交戦國間ノ條約ハ原則トシテ消滅スルモノトス。第三國ノ加ハレル條約ノ辭釈又ハ適用カ戦争ノ原因トナレル場合ニハ條約ハ交戦國間ニハ少クトモ争負ニ付キ効力ヲ失フト認メラル、如キモ締約國中ノ二國ノ交戦ニ依リ当然ニ條約カ他ノ締約國ニ對シテモ効力ヲ失フモノニアラス。此ノ場合ニ實際ニ於テ交戦國以外ノ締約國カ條約全体ノ効力ノ喪失ヲ認ムルニ至ルコトアリ得ヘキナリ。

第五 領域内ニ在ル敵国人ノ取扱

昔時前戦ノ際領域内ニ在ル敵国人ハ重ニ之ヲ俘虏トシテ抑留スルヲ得
 タルモ十八世紀ノ頃斯ノ如キ敵国人ハ相当ノ期限内ニ領域外ニ返去スル
 ヲ許スヘキコト國際慣例トナレリ、奈破倫戦争ノ時（一八〇三年）前戦
 ノ際仏國ニ在リタル一万人英人ヲ俘虏トシテ一八一四年ノ議和ノ際迄抑
 留セルコトアルモ奈破倫ハ英國ガ正式ノ宣戦ヲ為サスシテ仏國ノニ商船
 ヲ拿捕スルコトニ依リ敵對行為ヲ開始セル國際法違反ノ行為ニ對スル復
 仇ノ手段トシテ英國人ヲ抑留セルモノトシテ自ラ屈服セルヲ見レハ國際
 法上敵国人ヲ俘虏トシテ抑留スルノ権利アリト主張セルモノニアラスト
 云フヘシ、十九世紀中他ニ抑留ノ事例ヲ存セス、或學者（トラヴィアース、
 トウイウス、リウイエ、リッスト等）ハ今日ニ於テモ純粹ナル法理論ト
 レテハ敵国人抑留ノ権利カ尚ホ存スト論スト雖モ今日ノ慣習國際法上ニ
 於テハ敵国人ニシテ其國内法上敵ノ兵力ニ加ハルヘキモノニアラサル以
 上ハ相当ノ期間ニ返去スルヲ許サ、ルヘカラストアルモ之ヲ許サ、ルヘキ
 カラテトコトナク敵国人ノ返去ヲ命シ得ヘシ、只緊急ノ公安上ノ必要ア
 ル場合ノ外ハ返去ノ爲メ相当ノ猶予期間ヲ与ヘサルヘカラサルノミ、現
 今ニ於テハ實際ニ於テ戦争上ノ必要又ハ其他ノ重大ナル理由ナケレハ返
 去ヲ迫ルコトナキヲ例トス又敵国人ノ滞在ヲ許スニ當リテ滞在ノ区域ヲ
 限リ又ハ敵對行為ヲ行ハサルヲ宣誓スル等ノ条件ヲ附シテ之ヲ許スコト
 ヲ得、

第六 兩交戰國ノ一般ノ人民間ノ交通及貿易ノ中止並敵人ノ訴訟能力ノ停
止

英米主義ノ學者ハ前戦ニ依リ西交戰國ノ一般人民間ノ交通及貿易カ國
 際法上当然禁止セラレ、モノトシ例外トシテ戦争ノ慣例ニ依リ認メラル
 ルモノ（例ハ償贖証券）又ハ特別ノ特許ノ下ニ許サル、モノ、禁止セ
 ラレストシ戦争前ニ人民間ニ結ハレタル契約カ效力ヲ喪失又ハ停止スル
 ト為シ敵人ハ法廷ニ於テ原告トナルノ能カラズト為ス昔時ニ於テ諸國
 ノ國內法上斯ノ如キ主義ノ採ラレ今日ニ於テモ英米等ノ諸國ニ於テハ其

国内法上上述ノ如キ主義ヲ採ラル、コトハ疑ヲ容レサルモ此主義カ今日
ノ國際法上ノ原則ナリト云フヲ得ス、今日ノ國際法上ノ議論トシテハ戰
争ハ國家間ニ於テ生スル狀態ニシテ私人相互ハ當然相互ニ敵ノ資格ヲ
得ルモノニアラサルヲ以テ國際法上ニ於テ交戰國ノ人民間ノ私ノ交通及
貿易カ當然禁止セラルヘキモノト定マレルコトナキナリ、但國家ト其國
人トノ間ノ國內法上ノ關係ニ於テ國家ハ其人民ノ敵國トノ交通通商ヲナ
スコトヲ或ハ一般的ニ或ハ物品、地方若クハ人ヲ限リテ禁止シ禁ヲ犯シ
タル國人ヲ処罰スルヲ得ヘク又國際法ノ特別ノ制限ヲ存セサル以上ハ敵
國人ノ契約上ノ權利ヲ認メサルヲ得ヘク敵國人ノ內國法廷ニ於ケル訴訟
能力ノ停止ヲ認ムルヲ得ヘキモノトス、海牙ノ陸戰法規ノ第二十二條(4)
等ノ對手當事國人ノ權利及訴權ノ消滅、停止又ハ裁判上不受理ヲ宣言ス
ルコトノ禁止ノ規定ハ此長ニキスル禁米主義ノ在来ノ國內法上ノ主義ヲ
廢止セサルヲ得サラシムヘキモノナルモ否ニ付テ就テ分レタリ、交通
商ニ付テ最近ノ普通ノ慣例ニ於テハ戰爭ノ必要ニ基テテ特別ノ交通
商ニ付テ禁止ヲ設ケルコトアルモ一般ニ敵國トノ交通通商ヲ禁スルコト

七八

ナシ、

第七 領域内ニ在ル敵國ノ公私財産ノ取扱

昔時ニ於テハ領域内ニ在ル敵國及敵國人ノ公産、財産ハ開戦ニ依リ之
ヲ没收シ得ヘキニ至リ又領域内ノ敵國及敵國人ノ債權ヲ没收スルヲ得
ヘキニ至ルコト認メラレタリ、然ルモ漸ク敵國人ノ私有財産及敵國人ノ
債權ノミナラス敵國政府ノ債權ヲモ没收セサルノ慣例成ルニ至レリ、敵
國人ノ私有財産ノ没收ヲ行ヘル慣例ノ实例ハ一七九三年英仏ノ間ニ戰争
起レル時ニ在リ、十九世紀中没收ノ事例アルコトナク今日ニ於テハ(反
對說アルモ)開戦ニ依リ領域内ノ私有財産ヲ没收シ又ハ領域内ノ敵國人
又ハ敵國政府ノ債權ヲ没收スルコトハ國際法上違法ナリト云フヲ得ヘシ
ト信ス、但シ交戰國ハ敵ノ資源ノ増加ヲ妨ケル為メ敵ノ債權ニ對スル
没收ヲ停止シ得ヘク又領域内ニ在ル敵國政府ノ公有財産ニシテ直接又ハ間
接ニ軍用上ノ用途ニ充テ得ヘキモノ(即チ資金及有価証券、食料品、飲
道ノ車輛、輸送又ハ通信ノ材料、兵器彈藥其他總テ作戰動作ニ供スルヲ

八九

子孫傳

押收

得ハモモノヲ押收スルヲ得ヘク又敵国人ノ私有財産ニシテ直接ニ攻撃
又ハ防禦ノ軍事上ノ用途ニ充テ得ヘキモノ（即チ兵器彈藥スハ其他ノ軍
用物件ニシテ輸送又ハ通信ノ材料ヲ含ム）ノ国外ニ出ツルヲ防ケ且是等
ノ直接ニ軍事上ノ用途ニ充テ得ヘキモノヲ自ラ押收シテ使用スルコトヲ
得ヘキナリ但敵国ノ私有財産ハ平和先復ニ至リ之ヲ還付シ且之ヲ賠償
ノ決定ヲナスヘキナリ

第八、開戦ノ際ノ敵商船ノ取扱

此時ニ於テハ昔時ノ如ク開戦ノ際領域内ニ在ル敵船ニ船舶抑留ヲ行ヒ
之ヲ没收スルコトナク相当ノ猶豫期間ヲ与ヘテ之ヲ退去ヲ許スヲ慣例ト
スルニ至レリ、第二回平和會議ニ於テ（一）開戦ノ際交戦国ノ一方ノ港
内ニ在ル敵國商船及開戦前ニ最後ノ乗船港ヲ出港シ開戦ノ事實ヲ知ラス
シテ交戦国ノ一方ノ港内ニ入りタル敵國商船ハ即刻又ハ交戦国ノ一方ノ
定ムヘキ相當ノ猶予期間内ニ自由ニ交戦国ノ一方ノ港ヲ出航シ且ツ通航
券ノ付与ヲ得テ其目的港又ハ交戦国ノ一方ニ於テ指定スヘキ他ノ港ニ直航

スルコトヲ許サルヘキヲ希望ストシ（海牙ノ開戦ノ際ニ於ケル敵商船取
扱ニ干スル條約一）又（二）不可抗力ニ基ク事情ノ為メ猶豫期間内ニ交
戦国ノ一方ノ港ヲ去ルコト敵ハサリシ敵國商船又ハ出港ヲ許サレサリシ
敵國商船ハ（抑留セラル、コトアリ得ヘキモノ）没收ヲ為スヲ得ス
トシ交戦国ノ一方ハ軍ニ戰爭終了後賠償ナクシテ之ヲ還付スルノ義務ヲ
負ヒテ該船舶ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ取ヒテ之ヲ徵収スルヲ得ルトス（四條
約ニ）（三）開戦前ニ於テ最後ノ乗船地ヲ出航シ海上ニテ遭遇セル開
戦ノ事實ヲ知ラザリシ敵國商船ハ（拿捕抑留セラル、コトアリ得ヘキモノ）
之ヲ没收スルコトヲ得ストス、是等ノ商船ハ軍ニ戰爭終了後賠償ナクシ
テ之ヲ還付スルノ義務ヲ負ヒテ之ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ取ヒテ之ヲ徵収
スルヲ得ルモノトス（四條約三）（四）上述ノ船舶内ニ在ル敵貨ハ之ヲ
抑留シタル上戰爭終了後賠償ナクシテ還付シ又ハ賠償ヲ為シテ船舶ト共
ニ若クハ船舶ト共ニ之ヲ徵収スルコトヲ得ルトス（四條約四）又（五）
抑留及没收ノ免除ニ干スル上述ノ規定ハ其構造上軍艦ニ変更セラレヘキ
モノナルコト明ナル商船ニハ之ヲ適用セストス、故ニ是等ノ船舶ハ徵令

戦争開始ノ事實ヲ知ラサルモ交戦国ノ港又ハ海上ニ於テ拿捕、押留及没収等ノ処分ヲ受ケタルニ至ル、同独戦役ニ於テ我國ハ独乙ノ上述べ条約中尚保サル兵アルニ拘ハラヌ大正三年八月ノ勅令第百六十三号ヲ以テ全派ニ述ノ條約ノ規定ヲ実行セントセリ、

第八章 交戦国間ノ準平和關係

第一 概説

戦争ノ開始ニ依リ交戦国ノ間ニ平和ノ關係ハ終了シ交戦国ハ原則トシテ敵国及敵人ニ對シテ敵對關係ヲ有スルニ至ルモ特別ノ事項ニテシテ敵国又ハ敵人ニ對シテ準平和ノ關係ヲ維持セラル、コトアリ、準平和ノ關係ノ基ク所ハ或ハ交戦国間ニ結ヘル特別ノ合意又ハ一方交戦国ノ認許ニ在ルコトアリ或ハ一般國際法ノ規定ニ在ルコトアリ、一般國際法ノ規定ニ基ク

準平和ノ關係ハ各特別事項ニ干渉シテ説クハ、セラ以テ此ニハ軍使及コカール船ニテスル外主トシテ特別ノ合意又ハ認許ニ基キテ生スル準平和ノ關係ニ付テ述ヘント欲ス、此種ノ準平和ノ關係ノ普通ノモノヲ奉クレハ旅行券、安導券、護衛停留交換規約、降伏規約、休戦規約等ニ関スルモノナリ、

準平和ノ關係ニ於テハ双方カ信義ヲ守リ之ヲ濫用スルコトナカルヘキモノトス、

第二、軍使

戦争中準平和的交渉ノ機關タル軍使ハ敵ト交渉スル爲メ白旗ヲ掲ケテ敵ニ近ツクコトヲ得ルナリ、軍使ハ自ラ談判ヲ爲ス任務ヲ有シテ敵軍ニ赴クヲ常トスルモ時ニ軍ニ文告又ハ口頭ノ使命ヲ敵軍ニ伝達スル任務ヲ有スルニ適マサルコトアリ、

海陸戰條規ニ於テハ交戦国ノ一方ノ命ヲ帯ヒ他ノ一方ト交渉スル爲メ白旗ヲ掲ケテ来ル者ハ之ヲ軍使トストナス(一三二)、陸戰ニ於テハ軍

兵自身又ハ旗手カ白旗ヲ掲ケ鼓手又ハ喇叭手及必要ナレハ通訳者カ之ニ
隨從シテ赴クモノナリ、海戦ニ於テハ軍使ハ白旗ヲ掲クル軍使船ニ乘リ
テ敵ニ近クナリ、

海牙ノ陸戦條規ハ軍使及之ニ隨從スル者カ不可侵權ヲ有スルコトヲ認
ム(三三)、故ニ之ヲ攻撃シ又ハ之ヲ俘虜トナスラ得サルナリ、但軍使
ヲ差向ケラレタル部隊長ハ軍使カ其特權ヲ濫用セシ場合ハ一時之ヲ抑留
スルコトヲ得(三三第三項)軍使カ特權ヲ利用シテ背信ノ行為ヲナシス
ハ他ヲ教唆シテ背信行為ヲナシメンカ為メ其特權アル地位ヲ利用セル
証跡明確ナル時ハ其ノ不可侵權ヲ失フモノトス(三四)

往時ハ予メ軍使ヲ接受セサルコトヲ予告スルコトヲ認メラレ予告ノ場
合ニ於テハ白旗ヲ掲ケテ來ル軍使ハ不可侵權ヲ有セストセラレタリ、然
レトモ今日ニ於テハ復仇ノ場合ニアラサレハ予メ軍使ヲ接受セサルコト
ヲ宣言スルヲ得スト認ムヘキナリ、但部隊長ハ予メ一定ノ條件ニ依リ一
定ノ時及一定ノ場所ニ於テ軍使ヲ接受スヘキヲ宣言スルヲ得ヘキナリ、
又軍使ヲ差向ケラレタル軍ノ部隊長ハ必スシテ軍使ヲ接受スルノ義務ナ

シ(三三第一項)、海牙ヲ欲セサル場合ニハ必要ナレハ合同ヲ以テ直ニ
軍使ニ退去ヲ促スヘキモノトス、但此場合ニハ退去ニ必要ナル時ノ間ハ
不可侵トス、然レトモ戰鬪中ノ軍隊ハ退去ヲ促サレシムル敵ノ軍使ノ近寄
ルカ為メニ其作戰動作ヲ止ムルノ義務ナシトシテ接受サレタル軍使ハ不可侵
ナルモ部隊長ハ軍使カ其使命ヲ利用シテ軍情ヲ探知スルヲ防クニ必要ナ
ル一切ノ手段ヲトルコトヲ得(三三第二項)又軍使ノ見聞シ又ハ察知シ
得ヘキ情報カ有害ナルヘキ作戰動作ノ遂行サル、マテ一時之ヲ抑留スル
コトヲ為シ得サルヘカラスト

軍使ハ交戦國ノ一方ノ命ヲ帶ビ敵ト交渉スル任務ヲ有スルコトヲ認明
スル文書(軍指令官ノ署名ヲ要ス)ヲ携ヘサルトモハ軍使ヲ以テ過セス
シテ之ヲ俘虜ト為シ得又軍ノ逃走者カ敵ノ軍使又ハ其隨從者トシテ來ル
トモハ軍使又ハ其隨從者ノ特權ヲ認メスシテ之ヲ抑留シ軍法會議ノ審判
ニ付シテ知照スルコトヲ得但シ敵ニ知照ノ理由ヲ通告スヘキモノトス
海戦ニ付シテハ軍使ニ付テ条約ノ規定ヲ存セサルモ海牙ノ陸戦條規ノ
軍使ニ付スル規定ハ新規ナル規定ヲ立テタルニアラスシテ慣習國際法ヲ

標録セルモノナルヲ以テ海戦ニ付テモ軍使ニ付テ海牙ノ陸戦条規ノ定
ムル所ト全様ノ規定カ行ハル、ト認ムヘキナリ、

敵カ軍使ヲ保護スルノ義務アルコトヲ其軍事上ノ目的ニ利用スルカ属
ニ軍使ヲ送り又ハ白旗ヲ下シテ恰モ軍使ヲ送レルカ如ク外觀ヲナシ安全
ニ退却スル時間ノ餘裕ヲ得ル等ノ軍事上ノ目的ノ為メニ之ヲ利用スル如
クハ白旗ノ濫用ニシテ國際法ノ違反ナリトス、敵ハ之ニ對シテ復仇ノ如
ク出ツルニトテ得ヘク長官ノ命ニ依ラスシテ自衛的ニ之ヲ行ヒタル者
カ敵ノ叔内ニ陥レルトモハ戰時重罪人トシテ処罰ヲ受ケサルヘカラス、

第三、旅行券、安導券及護衛

旅行券ハ又ハ通行券トモ称ス、トハ交戦國カ敵入若クハ其他ノ者ニ其
領域内又ハ其占領地域内ヲ旅行スルヲ許ス旨面ナリ、安導券ハ又ハ護
照若クハ護送券トモ称ス、トハ交戦國カ敵入若クハ其他ノ者ニ一定ノ目
的ノ為メニ一定ノ場所ニ行クコトヲ許ス旨面ナリ、例ハ、談判ヲ行フメ
ノ政團サレタル都市ヨリ出テ談判ノ後更ニ之ニ入ルヲ敵入ニ許ス場合等

ニ其アルモノナリ、安導券ハ物件ニ對シテ毎ヘアル、コトナリ、此ノ場
合ニハ安導券ヲ附セラレタル物件ハ一定ノ地長ヨリ又ハ一定ノ地長ニ向
テ(例ハ攻國中ノ都市ヨリ又ハ攻國中ノ都市ニ向フ)妨害ヲ受クルコト
ナク輸送シ得ルニ至ル、旅行券及安導券ハ之ヲ許年サレタル者カ許可ノ
条件ノ範圍ヲ違セザルトモハ許年サレタル者ヲ不可侵ナラシム、二者共
ニ他人ニ移致スルヲ得ス(物件ニ對シテ与ヘラル、安導券ニ付テハ許年
ノ條件中ニ明言ナキトモ之ヲ輸送スル人カ変スルモ有效ナリトス)之
ヲ許スニ有効期間ヲ限ルコトアリ然ラサルコトアリ、有効期間ヲ限ル場
合ニ於テモ已ムヲ得サル運送ハ之ヲ酌量宥恕スヘキモノトス、旅行券及
安導券ハ之ヲ許年サレタル者カ許可ノ条件ニ違背シ若ハ許年ヲ濫用スル
場合ノミナラス又軍事上必要アル場合ニ於テハ之ヲ許年セル官憲又ハ其
上級ノ官憲ニ於テ之ヲ無効ト爲シ得ル、又凡テ旅行券及安導券ハ之ヲ許年
セル補捕官ノ管轄區域内ニ於テノミ有效ナルヲ原則トス、旅行券及安導
券ハ交戦國間ノ決定又ハ交戦國中立國トノ間ノ決定ニ基キテ与ヘラル
ル場合ニ於テノミ國際法上ノ事實トナルナリ、

第四、護衛

八八

護衛ハ人又ハ物ニ対シテ与ルモノニシテ二種アリ、其一種ハ敵人又ハ敵ノ財産等ヲ保護スル為ニ自國ノ兵士ノ加害ヲ禁スル目的ヲ以テ与ル所ノ文書ニシテ此文書ハ護衛ヲ受クル物件ノ傍ニ揭示シ又ハ護衛ヲ受クル人ニ交付ス、他一種ハ敵人又ハ敵ノ財産等ヲ保護スル為ニ付スル護衛兵ナリ、護衛兵ハ交戦國ノ決定ニ基キテ与ヘラル、トモハ他方ノ交戦國ノ軍隊カ之ヲ侵スヲ得ス、從テ護衛兵ヲ攻撃シ又ハ俘虜トスルヲ得ス他方交戦國ノ板内ニ陥ルトモハ他方交戦國ハ之ヲ安全ニ其所屬軍ニ送り級スノ措置ヲトラサルヘカラス、西交戦國間、特別ノ決定ニ基カサル護衛ノ場合ニ於テモ衛生上ノ移転機關及固定營造物ヲ守衛スル形式ノ命令ヲ携帶スル歩哨又ハ衛兵ノ不可侵ナル（ジエネヴア条約九及一二参照）ハ勿論ニシテ其以外ノ場合ニ於テモ護衛ノ形式ノ命令ヲ携帶スルトモハ現今ニ於テハ實際上特別ノ決定ニ基ケル場合ト同様ニ取扱フヲ常トス、

第五、フカーテルレ及フカーテルレ船

戦争ヲ予期シズハ戦争船中特別ノ事項ニ干シ西交戦國ニ於テ軍中干係ヲ定ムル条約又ハ規約ヲ衣義ノ「フカーテルレ」ト呼フコトナリ、俘虜交換、傷者ノ一定ノ取扱、軍使接見ノ方法、通商、交通、通信等ノ事項ニ干シテ終ハル「フカーテルレ」ノ諸ハ其ノ意義ニ於テハ俘虜交換規約ヲ指スニ用ヒラル「フカーテルレ」ハ戦争状態ニ在リテモ之ヲ遵守セサルヘカラス、

「フカーテルレ」船トハ主トシテ俘虜交換船即チ交換シタル俘虜ヲ敵國ヨリ本国ニ送ルタメニ使用セラル、船舶ヲ指スモノナリ、又敵ニ宛ツル公ノ通信又ハ敵ヨリノ公ノ通信ヲ輸送スルタメニ用ヒラル、船舶ヲ指スコトアリ「フカーテルレ」船ニ干シテハ一方ニ於テ之ヲ保護シ他方ニ於テハ其濫用ヲ防ク為ニ慣習國際法上ノ規則成レリ、「フカーテルレ」船ハ不可侵ニシテ攻撃會捕又ハ没収ヲ為スヲ得ス、交換シタル俘虜又ハ公ノ通信ヲ現ニ輸送スル間ノミナラス之ヲ受取ルタメニ航行スル途上ニ於テモ亦輸送

ハル

ヲ終リテ其所屬港ニ帰ル途上ニ於テモ保護ヲ受クルモノトス。「カトテ
ルレ船」ニ干スル一級ノ条件ヲ守ラスハ各場合ノ特定條件ヲ守ラサルト
モハ直ニ保護ヲ失ヒ拿捕没収シ得ヘキニ至ル。「カトテ」ハ一級ノ
條件トシテ商業ヲ行ヒ得ヌ又航行ノ目的タル公ノ通信以外ニ各信又ハ載
貨ヲ運送スルヲ得ヌ。信号砲トシテ一門ノ大砲ヲ有スル以外ニハ兵器彈
藥又ハ其他ノ軍用材料ヲ載スルヲ得ヌ。又相当ノ官憲ハ停虜交換船ノ場
合ニハ敵國ニ在ル本國ノ官吏等「ヨリ」「カトテ」ルレ船トシテ命令ヲ付セ
ラレタルコトヲ宣言スル吾面ヲ得テ之ヲ船中ニ備ヘサルハカラス。

第六 戰時規約

戰時規約中軍隊指揮官ノ其當然ノ权限内ニ於テ結フ合意ハ之ハ戰時規
約ト稱シテ他ノ合意ト區別スルヲ可トス。前節ニ所謂「カトテ」ルレ場
合ニ依リ戰時規約ニ屬ス。
戰時規約ハ普通ノ條約ニ比スレハ左ノ諸点ニ於テ差違アリ。
(一) 合意ノ目的 戰時規約ニ於テハ合意ノ目的單純ナル點上ノ事

- 要ハ例ハ戰闘中止、休戰、降伏、停虜交換等ニ限ル故ニ軍事上ノ
 - 事項ハ例ハ土地ノ割讓、國家ノ組織ノ変更等ヲ約スル能ハス。
 - (二) 合意ヲ結ブ時 戰時規約ハ戰時ニ限リテ之ヲ結フヲ得
 - (三) 合意ノ締結ニ當ル者 軍隊ノ指揮官ヲ戰時規約ノ締結ニ當ルモ
ノトス。指揮官ハ特別ノ委任ヲ符タスシテ當然戰時規約ヲ締結スル
ノ权限アリト推定スヘキナリ。
 - (四) 合意締結ノ手續 戰時規約ハ原則トシテ其效力ノ確定スル迄ニ
條約ノ如ク批准ヲ要スルコトナシ。
- 戰時規約中降伏規約及休戰規約ニ付テハ別章ニ於テ之レヲ説クヘキナ
リ。

第九章 降伏規約

第一 降伏規約ノ性質

降伏規約トハ一部ノ軍隊カ勝利ノ望ミナキ戦鬪及抵抗ヲ止メテ其ノ防
守セル城砦若ハ其他ノ防禦地帯、軍艦又ハ兵員ヲ敵ノ収内ニ墜ク場合ニ
於ケル條件ヲ約定スル交戦国軍隊指揮官ノ間ノ規約ナリトス、無條件ニ
テ降ヲ乞フ場合ハ所謂降伏規約トハ全く干係ナクナリ、降伏規約ハ降伏
スル場所、授受及軍隊ニ属スル者ノ運命ニ干係アル單純ナル地方的ノ軍
事上ノ約束以外、約束ヲ含マサルヘキモノニシテ命令之ヲ含ムモ双方ノ
交戦国ノ政府ニ依ル追認ヲ得ルニテラサレハ有效ナラサルナリ、

第二 締結ノ権限

降伏ヲ結フ権限ハ西軍ノ指揮官之ヲ有ス、但シ若キ又ハ政府ノ認可ヲ
得テ始メテ有效ナルヘキノ條件ヲ特ニ附スルコトアリ得ヘキナリ、権限
ナク一ノ下級將校カ降伏規約ヲ結ヘルトモハ指揮官ハ之ヲ否認スルコトヲ
得、指揮官トモ其委任サレタル権限ニ依リテ約シ得サル條件ヲ約定シ
又ハ其指揮ノ下ニ在ラサル軍隊ニ依ラサレハ履行シ得ス又ハ其長官ニ依
ラサレハ履行シ得サル條件ヲ約定セル場合ニハ斯ノ如ク降伏規約ハ之ヲ

否認シ得、指揮官ノ降伏規約ノ条件ヲ約定スル権限ハ其指揮ノ下ニ在ル
軍隊ニ干スル事項ニ限ラル、指揮官カ其権限内ニテ結ヘル所カ機宜ニ適
セサルモ規約カ無効トナルコトナク只指揮官カ其本国政府ニ対シテ責ヲ
負フノミ、

第三 降伏規約ノ方式

降伏規約ノ方式ニ干シテハ國際法上一定セル規則ヲ存セス、故ニ吾面
又ハ口頭ヲ以テ締結スルヲ得、然レトモ普通ハ吾面ニ依ルモノトス、
降伏ノ談判ハ白旗ノ下ニ軍隊ヲ送りテ開始スルヲ常トス、時ニ一方ノ
軍隊カ先ツ白旗ヲ掲ケテ降伏ノ意思ヲ表シ而シテ後其軍隊ヨリ又ハ相手
ノ軍隊ヨリ軍使ヲ送りテ降伏規約ノ談判ヲナスコトアリ、然レトモ許多
ノ場合ニ於テ部隊カ白旗ヲ掲ケテ戦鬪ヲ中止セスシテ軍使ニ依リ談判ヲ
行ヒ按定成リテ後降伏ノ託号トシテ白旗ヲ掲ケタルコトアリ、敵カ白旗
ヲ掲ケタルトモ降伏ノ意ヲ表スルト認ムヘキ場合トモ直ニ棄絶ヲ止ム
ルヲ要セス、

第四、降伏規約ノ内容及遵守

若シ降伏規約ニ於テ特別ノ条件ヲ約定セザルトモハ降伏スル將校兵士ハ降虜トナリス軍隊ノ有シ又ハ降伏ノ場所、軍艦等ニ在ル總テノ軍事用ノ物件及是他ノ公ノ財産ハ降伏規約ノ調印ノ時ニ於テハ狀態ニ於テ之ヲ引渡スヘキモノトス、時ニ降伏セントスル軍隊カ其糧食兵器彈藥其他ノ軍用ノ物件ノ敵ノ手ニ落ツルコトヲ妨クルタメニ破壊ヲナスコトアリ、其既ニ降伏ノ談判ヲ始メタル後ニ於テモ斯ノ如キ破壊ヲナスコトアリ、然レトモ降伏規約カ一度調印セラレタル後ハ斯ノ如キ破壊ヲナスヲ得ス若シ之ヲ行ヘハ背信ノ行為ニシテ相手交戦國ノ軍ハ斯ノ如キ破壊ヲ行ヒタル者ヲ戰時重罪人トシテ処罰スルヲ得、降伏規約中ニ於テ定ムル重ナル事項ハ降伏スル軍人ノ取扱物件ノ引渡、地雷ヲ設ケタル場所ノ指示、傷病者ノ取扱等ナリ、一定ノ時期間ニ於テ降伏スル軍隊ノ味方ノ東撤ナキ場合ニ於テ始メテ降伏規約カ有效ナルヘキヲ定ムルコトアリ得ヘキナリ、降伏規約中ニ履行ノ担保トシテ直ニ或城砦ヲ引渡スコトヲ定ムル

コトアリ、又住民アル地方ノ取扱ニ當リテハ行政上ノ引渡ニ付キ此處ヲ為スノ必要アリ、

降伏規約中ニ於テ規定サル、所ハ之ヲ忠實ニ守テサルヘカラス、海軍ノ陸軍條規ニハ降伏規約ノ一旦確定シタル上ハ締結当事國双方ニ於テ嚴密ニ之ヲ遵守スヘキモノトシ當事者間ニ決定セラル、降伏規約ニハ軍人ノ各營一干スル例規ヲ參酌スヘキモノトスルノ規定アリハ陸軍條規ニ主ニ

第五、降伏規約ノ違反及失効

降伏規約ニ約定セル所ニ對シテ交戦國ノ政府又ハ軍隊カ違反ヲ為セハ國際法上ノ違法行為ニシテ重大ナル違反アリタルトモハ相手國ハ規約ヲ廢棄シ得ヘク緊急ノ場合ニハ直ニ戰鬪ヲ開始シ得ヘキナリ、又相手國ハ降伏規約ノ違反ニ對シテ復仇ノ行差ニ出ツルコトヲ得ヘシ、又個人カ自條約ニ違反ヲ為セル場合ニ對テ相手國ノ管内ニ陷レハ戰時重罪人トシテ処罰セラル、

規約ノ規定ニ對シテ重大ナル違反アルトモハ相手國ハ規約ヲ廢棄シ得

ハク又一方、当事者カ其中ニ約セル所ノ履行ヲ公然ニ拒ムトキハ相手國
ハ廢棄ヲ為シ得ヘク又背信ノ行為ニ基キ結ハレタルトキハ之ヲ取消シ得
ヘキナリ、
全般の休戦ノ約定セラレタル後ハ降伏規約ヲ結ヘル当事者ク此事実ヲ
知ラサルモ其後結ハル降伏規約ハ無効トナル、

第十章 休戦規約

第一 休戦ノ性質及其種類

休戦トハ其意義ニ於テハ一時敵對行為ヲ停止スルノ合意ナリ、休戦ハ
而テ戰國ノ間ニ敵對行為ヲ停止スルモノナルモ戰争ノ状態ヲ終止セシム
ルモノニアラス、
意義ノ休戦ヲ分チテ次ノ三種ト為スヲ得、

(一) 戦闘停止又ハ休闘 戦闘停止 (Suspension)

ハ右ニ述フル意義ノ全般の又ハ部分的休戦ト異ニシテ相敵對スル陸
海軍ノ兵力ノ間ニ極メテ短カキ期間ノ間敵對行為ヲ停止スルモノナ
リ、即チ一時の且一部分の、軍事上ノ必要ノ為メニ兩軍ノ間ニ行ハ
ル、敵對行為ノ停止ナリトス、例ヘハ傷者ノ收容、死者ノ埋葬、降
伏又ハ休戦ノ談判、政府又ハ上級指揮官ニ請訓ノ通信等ノ必要ノ為
メニ之ヲ行フ、

戦闘停止ハ政治上ノ目的ト干渉スル所ナク又戰争ノ全体ニ影響セ
サルヲ常トス、海牙ノ陸戦条規(三七)中ニ所謂部分的休戦 (armistice local) 中ニハ戦闘停止ヲ含ムモノト解スヘキナリ、戰
闘停止ノ效力ハ之ヲ結フ指揮官ノ部下ノ軍隊ノ動作ノミヲ拘束ス、
(二) 全般の休戦 全般の休戦 (armistice general) ハ一時
的且一部分のナル軍事上ノ必要ノ為メニスル戦闘停止ト異ニシテ双
方ノ交戦國ノ陸海軍ノ全部及休戦區域ノ全部ニ干シテ設定サル、所
ノ敵對行為ノ停止ナリ、全般の休戦ノ規約ハ戰争ノ全体ニ影響スル

重大ナル政治上ノ意味ヲ有スル決定ニシテ例ハ議和談判カ進行シテ
 敵対行為ヲ行フコト無益ナルニ至レルカ議和ヲ決スルカ爲メニ國民
 議會ヲ開クノ必要アル等ノ場合ニ結ハル。全般の休戦ハ全軍及全局
 ニ亘ルヲ常トスルモ時ニ準又ハ戦局ノ一小部分ヲ除外スルコトアリ。
 (三) 部分の休戦 部分の休戦 (*armistice partial*) トハ全
 般の休戦ノ如ク全軍全局ニ亘ルモノニアラス又戦局停止ノ如ク一時
 的及一部分的ノ軍事上ノ必要ノ爲メニ結フモノニアラス。部分的ノ
 休戦ハ交戦者カ軍ノ大部分、戦局ノ大部分ニ干シテ結フモノニシテ
 戦局ノ一部分ニ於ケル双方ノ交戦者ノ極度ノ疲勞、流行病ノ發生、
 洪水其他全般の休戦ヲ爲スヲ要セザルモ戦局停止ニ依リテハ充タス
 能ハサル必要ノ爲メニ結フ所ナリ。部分的休戦ハ或ハ陸軍ノミニ対
 シテ有效トシ或ハ海軍ノミニ対シテ有效トスルコトアリ。植民地ノ
 ミニ対シテ有效ナリトスルコトアリ同盟國中ノ一ニ対シテノミ有效
 ナリトスルコトモアリ得ルナリ。海牙ノ陸戦条規(一三七)ノ所謂地
 方の休戦中ニハ部分の休戦及戦局停止ヲ含ムモノト認ムヘキナリ。

第二 規約締結ノ权限

休戦規約締結ノ权限ニ干シテ區別ヲ立テ、論セザルヘカラス。

(一) 戦局停止ハ一部分の一時の、軍事上ノ必要ノ爲ニ結フモノナルヲ
 以テ小部隊ノ指揮官タリトモ其部下ノ軍隊ノ爲ニ結フヲ得ル所ニシ
 テ國際法上ニ於テハ上級指揮官又ハ他ノ官憲ノ批准又ハ認可ヲ待タ
 スシテ效力ヲ發ス。

(二) 全般の休戦ハ重大ナル政治上ノ意味ヲ有シ單ニ交戦國ノ政府又ハ
 軍隊總指揮官ノミ之ヲ締結スルヲ得ルモノトス。全般の休戦ハ多ク
 ノ場合ニ於テハ戰時規約ヲ以テ締ハスシテ條約ヲ以テ結フモノナリ。
 全般の条約又ハ規約ハ仮令明約トモモ批准ヲ須クテ始メテ其效力ヲ
 確定ス。總指揮官カ全般の休戦規約ヲ結フニ批准ヲ得サレハ敵ニ相
 當ノ予告ヲ与ヘテ後直ニ敵対行為ニ出ツルモ背信ノ行為ニアラス。

(三) 部分の休戦ハ軍ノ總指揮官ノ結フヲ得ハモ所ニシテ特ニ反對ノ約
 定トモ以上ハ其效力ノ確定ニ批准ヲ必要トセス但特ニ規約中ニ批准

ヲ待チテ有效ナルコトヲ定ムルコトナリ。

第三 休戦ノ方式

休戦ノ方式ニテハ一定スル所ナシ、故ニ休戦ハ各面又ハ口頭ヲ以テ結フコトヲ得、然レトモ全般的及部分的ノ休戦ハ重要ノ事項ナルヲ以テ各面ヲ以テ結フヲ常トス、或爾停止ニ至リテハ口頭ヲ以テ結ハル、コトナキニアラス。

第四 休戦ノ内容

總テ休戦ニ於テ戰爭状態ハ継続シ軍ニ約定セル範圍内ニ於テ敵對行為ヲ停止スルモノナリ、軍ノ指揮官カ結フ休戦規約ハ軍事上ノ目的ニ約定事項ヲ限ルヘキナリ。

休戦ニ於テ特別ノ条件ニ付テ明確ナル約定ヲ為ストキハ其ノ明約スル所ヲ守ルヘキハ勿論ナルモ約定ヲ存セサル莫キ付テ議論ヲ生スルヲ免レシメ、休戦ノ際トモモ規約中ニ特ニ禁セサル以上ハ戰線ノ背後ニ於テ攻撃

及防禦ノ準備ニテ如何ナルコトヲモ得シ得ヘキハ何人モ争ハサル所ナリ、然レトモ戰線ニテスル行為不行爲ニ關シテ議論アリ、許多ノ論者ハ特別ノ約定ナキトモハ休戦ナシト限定セハ對手ノ軍力強カテ以テ妨ケ得ヘキ現状ノ変更ヲ行フ敵ハストモ、是等ノ論者ハ休戦規約ノ保護ノ下ニ新ノ如キ変更ヲ行フハ信義ニ背クトナス、然レトモ或論者ハ休戦ノ效果トシテ当然含マルヘキハ實際ノ敵對行為即チ作戰動作ノ停止並ニ實際ノ敵對行為ト分處シテ考フル能ハサル軍ノ前進若ハ展開ノミニシテ其以外ニ於テハ例ハ現場ニ軍隊ヲ集メテ地位ヲ強メ防禦工事ヲ作り、既存ノ防禦工事ヲ強メ、城砦ノ損所ヲ修繕シ、一部ノ軍隊ヲ後方ニ退却シシメハ前進ヲ強サスシテ新砲台ヲ作ル如キハ特ニ規約ニ於テ禁止ヲ明約セザル以上ハ為シ得ヘキ所ナリトナス、是等ノ長ニ付テ海牙ノ陸戰条規ハ明ニ定ムル所ナク國際慣習法ノ定ムル所モ明確トナラサルナリ、余ハ理論トシテハ後説ヲ當レリト信ス、休戦ハ元來實際ノ敵對行為ノ停止ヲ約スルニ外ナラスシテ休戦ノ當然ノ效果トシテ一方ノ交戦者ノ抵抗カラ増加スルヲ禁スヘキモノニアラス、實際ノ敵對行為ノ停止及實際ノ敵對行

102
為ト命前シテ考フル能ハサル前途及展開ノ以外ニ於テ特別ノ事項ニ付シテ約定セント欲セハ特ニ休戦規約中ニ明約スヘキノミレ休戦中ノ攻圍地内ノ糧食供給ノ問題ニ付テモ同一ノ理論ヲ以テ解決スルヲ得ヘキナリ。或ハ休戦ノ際攻圍ヲ受クル軍ニ糧食ヲ供給セサルトモハ攻圍ヲ受クル軍ハ休戦中糧食ヲ減シ抵抗カヲ弱メラル、ヲ以テ当然糧食ノ供給ヲ許スヘシト為ス、然レトモ休戦ハ元來軍ノ敵対行為ノ停止ヲ約スルニ外ナラサルヲ以テ決シテ休戦ノ当然ノ效果トシテ休戦中ニ於ケル交戦者ノ一方ノ抵抗カノ減少ヲ禁スヘキモノニアラス、攻圍ヲ受クル軍ニシテ糧食ノ休戦中ノ供給ヲ得ント欲スレハ之ヲ休戦規約中ニ約定セサルヘカラス。

戦地ニ於ケル交戦者ト人民トノ間及人民相互間ノ干渉ヲ休戦規約ノ条項中ニ規定スルコトハ当事者ニ一任スルモノトス（海牙ノ陸戦条規三九）

休戦規約ニ於テ休戦中ノ兩軍ノ衝突ヲ避クルタメ兩軍ノ間ニ双方ノ入ルコトヲ得サル所謂離隔地帯（又所謂中立地帯）ヲ定ムルヲ例トスルモ此種ノ特別ノ約定ノ約定ヲスレハ離隔地帯ハ存セサルナリ。

第五 休戦ノ開始

休戦規約ハ特別ノ約定ヲケレハ調印ノ時ヨリ實施力ヲ發生ス、然レトモ休戦ノ實際始マルヘキ時期ヲ定メ約定スルコトアリ、戦局カ広キハ且リ軍隊カ隔リテ存スルトモハ互ニ軍ノ全体ニ休戦ヲ通告シ得サルヲ以テ要場所ニ依リ異レル休戦開始ノ時期ヲ定ムルコトアリ、海牙ノ陸戦条規ニ於テ休戦ハ公式ニ且適當ノ時期ニ於テ之ヲ當該官憲及軍隊ニ通知スヘク通知ノ後直ニ又ハ所定ノ時期ニ至リ戦闘ヲ停止ストナス（三八）

時ニ休戦ノ開始ヲ知テサル軍隊カ休戦後敵対行為ヲ為スコトアリ、此ノ如キ場合ニ於テ休戦ノ開始期ニ於ケル状態ヲ出来得ヘキタケ回復スヘキナリ。

第六 休戦ノ違反

休戦ノ規約ヲ破レル場合ニ於テ若シ違反カ政府又ハ权限アル指揮官ニヨリ命セラレテ行ハル、トモハ國際法上ノ違法行為ナリ、海牙ノ陸戦条

103

規ニヨレハ休戦規約者ノ一方ニ於テ重大ナル規約違反アリタルトモハ他ノ一方ハ規約廢棄ノ権利ヲ有スルノミナラズ緊急ノ場合ニ於テハハ縱令休戦規約ニ於テ休戦終了ノ通告ト敵對行為ノ開始トノ間ニ經過スヘキ期間ニツキテ特ニ約スル所アリシトスルモ此期間ニ拘ラス直ニ戰鬪ヲ開始シ得ルトナス(四〇)。一個人カ自己ノ帝意ヲ以テ休戦ノ規約ノ條款ニ違反シタルトモハ對手ノ交戰者ハ唯其違反者ノ知罰ヲ要求シ且損害ヲ受ケタルトモハ其賠償ヲ要求シ得ルニ止マルモノトス(四一)。

第七 休戦ノ終了

休戦カ若シ其期間ノ約定ナク敵對行為ノ開始ノ通知ニ關シテモ何等ノ規定ヲ定メサル場合ニハ交戰者ハ何時ニテモ敵對行為ノ開始ノ通告ヲ為シテ後直ニ休戦動作ヲ開始スルヲ得。而シテ休戦期間ノ定ナキモ通告ニ可シテ規定ヲ設クルトモハ該條件ニ遵守シテ所定ノ時期ニ於テ休戦動作ノ開始ノ旨ヲ敵ニ通告スヘキモノトス(三六)。上述ノ場合ニ及シテ休戦ノ多数ノ場合ニ於ケルカ如ク期間ヲ定メタルトモハ期間内クレハ特約ナ

キ以上ハ特別ノ通告ヲ与ヘ又シテ休戦ハ終了ス、休戦カ解除條件付ニテ約セラレタルトモハ條件トナレル事實起レハ休戦ハ終了ス。

第十一章 戦争ノ終了

第一 戦争ノ終了概説

戦争ノ終了ハ交戰國間ノ講和条約ノ締結ニヨリテ生スルヲ普通トス。又一方ノ交戰國カ他方ノ交戰國ノ征服的併合ヲ為スニ依リ生スルコトアリ又双方ノ交戰國カ講和條約ヲ結ハサルニ自然ニ戦争行為ヲ止メテ平和ノ關係ニ復スルニ至ルコト稀ニ生スヘキナリ。

第二 一方ノ交戰國ノ征服的併合

征服的併合ハ戰時占領(第二部第七章参照)ト異リ一方ノ交戰國カ他

第三 單純ナル戦争行為ノ終了

方ノ交戦國ノ全体ノ領土人民ヲ其権力ノ下ニ置キ且所謂保合ノ行為ニ依リ地方ノ交戦國ヲ消滅セシメ其領土人民ヲ自國ノ領土人民ノ一部分トナス場合ニ於テ始メテ生ス。保合ニ依リ相手國消滅スルニ至レハ最早國家間ニ於テ存スヘキ國際戦争ヲ存セサルニ至ル。近時ニ於テ征服の保合ニヨリ戦争ノ終了セル一例ハ一九〇〇年ニ於テ英國カトランズガール及オレンヂ自由國ノ征服の保合ヲ行ヘル是ナリ。征服の保合ノ效果ニ付テハ他ノ國家ノ保合ノ場合ト共ニ之ヲ平時國際法ニ於テ研究スヘキナリ。

講和条約ノ締結スハ一方交戦國ノ征服の保合ニヨリ終了スルヲ戦争ノ正規ノ終了方法ト認ムルヲ得ヘキニ講和条約ヲ結ハスシテ單純ナル戦争行為ノ終止ニ依リ兩交戦國間ニ自然ニ平和ノ條カ回復スルヲ稀ニ生スヘキナリ。

單純ナル戦争行為ノ終止ニ依リ戦争ヲ終了スルニ場合ニハ交戦國タリシ國ノ間ニ講和ノ条件ヲ定ムル講和条約ヲ存セラルヲ以テ戦争前ノ状態ニ依リ法律上ノ干係ヲ定ムヘキニ又ハ戦争終了ノ際ノ現有狀態ニ依リ法律上ノ干係ヲ定ムヘキニ問題又生スルモノトス。蓋此場合ニ於テハ双方ノ國カ戦争終了ノ時ノ現有狀態ヲ承認シテ戦争行為ヲ止メタルモノト見做スヘク現有狀態ヲ以テ兩國ノ法律上ノ關係ヲ定ムルノ基礎トナスヘキナリ。一方ノ國カ戦争終了ノ後占領セル他方ノ領土ハ領土ヲ有シタル國カ單純ナル戦争行為ノ終止ニ依リ占領國ノ領有ニ取テタルヲ認メ其國ヲ有セル權利ヲ放棄セルモノト看做スヘキナリ。然レトモ單純ナル戦争行為ノ終止ニ依リ戦争ノ終了スル場合ニハ戦争行為ノ終止ノ際ノ現有狀態ニ依リ決スルヲ得サル兩國ノ主張ニ干シテハ何等決定スル所ナキヲ以テ或ハ後ニ是リ特別ノ規定ニ依リテ之ヲ解決スルカスヘキヲ未決定ノ状態ニ放低スルノ外ナキナリ。

第十二章 講和條約

第一 議和條約ノ性質及其締結ノ手續

議和條約ノ締結ハ戰爭ヲ終了スル最モ普通ノ方法ナリ、議和條約ヲ締結スル議和談判ノ開始ハ第三國ノ肩代ニ依ルコトアリ又議和談判ニ於テ第三國ノ干渉シテ調停ヲナスコトアリ、又第三國カ議和談判ノ際ハスハ議和條約ノ締結後ニ干渉ヲ行フコトアリ、議和談判ハ文書ノ交換ヲ以テ之ヲ行フコトアリ得ヘキモ普通ノ場合ニハ談判ヲナスノ委任ヲ受ケタル全權委員カ中立地又ハ交戰國ノ一方ノ土地ニ會シテ之ヲ行フモノトス、交戰國ノ一方ノ土地ニ會シテ談判カ行ハル、トキハ敵ノ使節ハ恰モ單使ノ如ク不可侵ナルモノトス、敵ノ議和ノ使節ニ對シテハ外交官ノ資格及特權ヲ認ムルコトアリ得ヘキナリ、

議和談判ニ於テ先ツ議和條件ノ大綱ヲ約定スル所謂予定條約ヲ結フコトアリ、予定條約モ亦一ノ條約ナルヲ以テ批准交換ヲ竣テ其拘束カヲ確定ス、予定和約カ批准ヲ條件トシテ調印ニ依リ戰爭ノ終了ヲ生スルモノト認ムヘキ又ハ單ニ議和條件ノ大綱ノ予定ニ過マスシテ確定和約ノ締結ニ依リ始メテ戰爭ノ終了ヲ生スヘキモノト認ムヘキ又ハ當事者ノ意思ニ依リテ決スヘク當事者ノ意思ハ各場合ノ事實ニ依リテ判セサルヘカラス、予定和約カ批准ヲ得サルトモ、敵對行為ヲ開始シ得ルニ至ル、此場合ニ調印ヲ終タル予定和約ハ逆テ無効トナリ又反對規定ナキ以上ハ休戰ノ效果ヲ生スルヲ認メラル、予定和約ノ結ハルトモハ之ニ對シテ議和ニ干シ後ニ結フ條約ヲ確定和約ト稱ス、

第二 議和條約締結ノ权限

議和條約ハ軍事上ノ規約ト異リテ一種ノ條約ナルヲ以テ降伏規約又ハ休戰規約ノ如ク軍ノ指揮官ノ权限ヲ以テ結フコトナシ、如何ナル機關カ條約締結權ヲ有スルマハ國內法ノ規定ニ依リテ定マル所ナルモ普通國家ノ元首カ條約締結權ヲ有ス、而シテ國ニ依リテ議和條約ニ付マテハ元首ノ締結權ニ對シテ特ニ制限ヲ設クルコトアリ、國家ノ元首ハ軍ノ指揮官ヲ全權委員トナシ議和條約ノ談判ニ當ラシムルヲ得ヘシ、

第三 講和條約ノ方式

國際法上講和條約ノ方式一定セス故ニ理論上ニ於テハ口頭書面何レナ
リトモ端若スルヲ得、然レトモ講和ハ國家ノ生活上重要ナル事項タルヲ
以テ實際ニ於テ吾國ヲ以テ締結セサルコトナシ、

第四 講和條約ノ效果

(一) 戰爭終了ノ時期 講和條約ニ於テ及テ、規定ナキトモハ條約ノ
全權委員ニ依ル調印ト共ニ戰爭カ終了シ一般ノ平和ヲ恢復シ戰
時ノ非常關係ヲ支配スル戰時國際法規及時ニ戰時ニ於テ有效ナル條
約ハ行ハレサルニ至リ經營關係ヲ支配スル平時國際法規ヲ交戰國々
リシ向國ノ間ニ行ハル、ニ至ル、講和條約カ批准ヲ得ザルトモハ一般
對行為ヲ開始シ得、而シテ批准ヲ得ザリシ講和條約ハ逆ツテ無効ト
ナリ只及テノ規定ナキ以上ハ休戰ノ效力ヲ認メザル、講和條約中ニ
戰爭ノ終了スル時期ニテ一定ノ將來ノ時日ヲ明定スルコトナリ、

是レ戰爭ノ及テ範圍カ極メテ立キニ至リ互ニ講和ヲ欲テノ軍隊ニ通
知スルヲ得サル場合等ニ於テ生ス時ニ莫ル場所ニ付テ敵對行為ノ終
止ニテシ莫ル時期ヲ約定スルコトナリ、講和條約カ將來ノ期日ヲ以
テ敵對行為終止ノ時期トシテ定ムル場合ニ於テモ此期日前ニ軍隊カ
講和條約成立ノ事實ヲ知ルニ於テハ直ニ敵對行為ヲ終止セザルヘカ
ラス、

(二) 平和關係ノ回復

講和條約ノ主要ニシテ且一般のナル結果ハ交
戰國ニ平和關係ヲ回復スルコトニ在リ、講和條約カ調印セラレ、又
否マ將來ノ特別ノ行為ニテセザル一般の平和關係ハ批准ヲ條件ト
シテ回復セラル、ニ至リ講和條約カ批准交換ヲ了スルトモハ平和
關係カ確定的ニ回復セラル、ニ至ルト平和關係ノ回復ハ(一)戰時
關係ノ終了(又)外交關係ノ回復(三)人民間ノ交通關係ノ回復ヲ含
ム、(一)戰時關係ノ終了ニヨリ戰時ニ於テノミ適法ナル行為ハ以
後適法ナラサルニ至リ軍隊又ハ城砦ニ對スル攻撃、艦船ノ捕獲、土
地ノ占領、取立金及徵收、徵收等ハナシ得サルニ至ル、若シ軍隊カ

講和条約ノ締結ヲ知ラスシテ斯ノ如キ戦争行為ヲ行フトキハ戦争終了シ一般的ノ平時干係ノ回復セル際ニ於ケル事態ヲ回復セサルヘカラス、故ニ戦争終了後ニ行ヘル場合ニハ拿捕セル船舶ハ之ヲ解放シ占領セル土地ハ之ヲ撤退シ俘虜ハ之ヲ解放シ取立金ハ之ヲ返還セサルヘカラス、(ハ)外交干係ノ回復ニ依リ相互ノ間ニ外交依節カ差遣接受サレ領事モ認可ヲ受ケテ其職務ノ執行ヲ始ムルニ至リ(三)人民間ノ交通ノ回復ハ通商条約ノ更新又ハ復活ニヨリテ確メラル、ニ至ル、

(三) 戦争ノ原因ノ消滅 講和条約ニ依リ定メラレタル状態ハ交戦国タリシ國家ノ消滅ノ干係ノ基礎ヲ為ス、而シテ講和条約ニ依リ明カニ定メラレタル事項ヲ以テモニ戦争ノ原因ト為スヲ得サルノ説及ク行ハル

(四) 現有状態ノ維持 交戦国間ニ講和条約ニ於テ反对ノ規定ヲ為ササル以上ハ講和条約ノ效果ハ戦争終了シ一般ノ平和干係ノ回復セル際ニ於ケル現在ノ状態ノ維持ヲ認ムルモノト看做スヘキナリ、即チ

現有状態ニ依リ法律干係カ定マルモノト看做スヘキナリ、故ニ戦争中侵入軍ノ押収、没収セル兵器、彈藥、糧食、馬匹運搬機關及金銀等ノ如キ固有ノ動産又ハ其取得セル占領地不動産ノ果實ノ如キハ依然侵入軍所屬國ノ有ニ屬ス占領地ニ于テハ今日ノ國際法ノ觀念上占領カ戰時ニ於テ一時的ニ存スル現象ト認メラレ領土權ノ所屬ヲ交セサルモノトナサル、ヲ以テ講和条約ヲ結ビ之ニ依テ割譲ヲ明細セサルトキハ占領ヲナセル國ハ占領地ヲ領土權所屬國ニ回復スヘキモノト認ムルヲ可トスヘキカ如シ、然テ領土權所屬國ニ復帰セル占領地ニ付テ原状回復行ハル

(五) 時ニ戰時ニ于スル條約ノ實施力ノ喪失、戰時ニ於テ時ニ實施セラ

ルヘキ條約ハ戦争終了ト共ニ實施セラレサルニ至ル、
 (六) 條約ノ效力ノ回復 講和条約ニ依ル平和回復カ如何ナル條約ノシテ效力ヲ回復セシムヘキニ于テ議論余レタリ、而戰ニ依リテ消滅スヘキ條約カ当然效力ヲ復活セズ而戰ニ依リ單ニ效力ヲ停止セラレタル條約カ平和克復ニ依リ当然效力ヲ回復スヘキハ言フ俟タズ、然

レトモ如何ナル條約カ開戦ニヨリ消失シ如何ナル條約カ開戦ニ依リ
効カテ停止セラル、ベニテシ慣例學識共ニ一致セサル兵多クテ以テ
講和條約ニ於テ此兵ニテスル明白ナル規定ヲ立ツルヲ可トス、

(七) 大赦

講和條約中ニ大赦ニテスル規定ヲ設クルヲ普通トナスモ特
ニ約定ヲナサ、ルモ講和條約ハ当然ニ一定ノ範圍ノ大赦ノ效果ヲ生
ス講和條約ニテシテ戦時法上所謂大赦トハ戦争中戦争ノ目的ノ為ニ

交戦國自身、其兵力ヲ組織スル者及其臣民ノ行ヒテモリ諸種ノ不法行

フハ不正行為ニシテ講和條約中特ニ反對ノ規定ヲ設ケザルモノニ對
スル責任解除ナリトス、大赦ノ結果トシテ所謂戦時重罪ニシテ平和

回復前ニ知罪セラルナリシ者ハ最早知罪シ得サルニ至ル、戦争中交

戦國ノ政府又ハ軍隊ノ行ヘル國際法上ノ違反行為モ特別ノ規定ナケ

レハ講和條約ニヨリ戦争ノ終了後ハ之ヲ不問ニ付スヘク之ニヨリテ

生シタル損害ニ對スル救済ノ要求モ講和條約ニ反對ノ規定ナキトス

ハ之ヲ提出シ得サルニ至ル、然ルニ此兵ニテシテ第一回平和會議ノ陸
戦法規條約第三條ニ於テ該條約及該條約ニ所屬セル陸戦條規ノ違反

ニテシテ損害賠償ノ責任ヲ定ムルニ至レルヲ以テ此兵ニ付テハ講
和條約ニ於テ反對ノ明言ヲナサ、ル以上ハ大赦ノ效果ハ國際法上制

限サル、ト認メサルヘカラス、又大赦ハ普通ノ犯罪及戦争中ノ負債

ノ如キモノトハ何等ノ干係ナキモノトス、故ニ停戦ニシテ普通ノ赦

人罪等ノ犯罪ヲ犯シタル者ハ平和回復後モ之ヲ許さズ知罪シ得ヘク

又停戦トシテ抑留中負傷セル者ハ平和回復後モ之ニ對シテ民事訴訟

ヲ提起シ得ヘキナリ、大赦ハ又一方ノ交戦國入カ他方ノ交戦國ニ對

シテ行ヘル行為ニ付テ責任解除ヲ与アルモノニシテ一方ノ交戦國人

カ自國政府ニ對シテ行ヘル行為ニ當然及フヘキニアラサルモノナリ、
但條約中ニ特ニ此種ノ一定ノ行為ヲ知罪セサルヲ約スルコトアリ得

ヘキナリ、

(八) 停戦ノ身分ノ終了 講和條約ノ效果トシテ停戦ノ身分ハ當然終

了ス、但シ平和回復ト共ニ直ニ停戦ヲ解放スルヲ要セス、海牙ノ陸
戦法規條モ平和回復ノ后ハ成ルヘク速ニ停戦ヲ其本國ニ返還セシムヘ
シトナセルノミ(八二〇) 普通ノ犯罪ヲ犯セル停戦ヲ解放スルノ必要

ナキハ明白ナルモ規條ヲ犯シタルノ故ヲ以テ懲罰サレ刑罰中ニアル
停罰ヲ平和回復後マ抑留シ得ヘキヤ否ヤニ干シテ説令レタリ。

(九) 講和条約ノ偶存の規定 講和条約ニ於テ土地ノ割讓、償金ノ授
受、権利利益ノ設定讓渡ニ干シテ規定ヲ設クルコトアルモ是レ講和
條約ノ必然の規定ニアラスシテ偶存の規定ニ外ナラサルナリ。

第五、講和條約ノ執行

講和條約ハ其ノ條ノ所項多大ナルヲ以テ現時ニ於テハ講和條約ノ執
行ノタノ更ニ許多ノ莫ニ干スル規定ヲナスコトヲ必要トス

講和條約ノ履行ヲ確ムル担保トシテ土地ノ占領ヲ行フコトアリ
講和條約ノ效力、適用及解散ニ干シテハ條約ニ干スル一撤ノ規定カ適
用アルヘキナリ。

第二部 陸戰法規

第一章 陸戰ニ於ケル敵人ニ対スル害敵手段

第一、陸戰ニ於ケル害敵手段概説

戰爭、一般的ナル軍事上ノ目的ハ敵ノ抵抗カヲ挫クニ在リテ此目的ヲ
到達スルニ必要ナル害敵手段ハ條約又ハ國際慣習法ニ基テ所ノ特別ノ禁
止ナキ以上ハ之ヲ行ヒ得ヘキナリ、害敵手段ノ著シキモノハ敵軍ヲ攻撃
又ハ砲撃シ敵兵ヲ殺傷シスハ停戦トスルコト、城塞又ハ防守セル都市ノ
攻圍、砲撃及突撃、敵地ノ占領、敵ノ財産ノ押収及破壊、奇襲、間諜及
戰時叛逆ノ利用等ナリ。

然レトモ交戦者ハ害敵手段ノ選択ニ付テ無制限ノ自由ヲ有スルモノニ
アラス(海牙ノ陸戰法規ニ二)、慈悲心發育ノ精神及狹隘ナラサル榮達

ヲ為セル利己心ニ基キテ國際法上害敵手段ニテ許多ノ制限認メワルルニ至レリ、陸戦ニ於ケル害敵手段ノ主要ナルモノハ敵人ニ対スル害敵手段ナリトス、

第二 敵ノ戦闘員ニ対スル害敵手段

戦争カ一面的ナル軍事上ノ目的ハ敵ノ抵抗カヲ挫クニ在ルヲ以テ敵討行爲ヲ爲スノカト意思ヲ有シスハ之ヲ停虜トセントスルニ抵抗スル敵ノ戦闘員ノ戦闘カヲ挫クカ爲メニ之ヲ殺傷シスハ停虜トスルコトヲ得ヘスナリ、然レトモ既ニ負傷又ハ病疾ニ由リテ戦闘カヲ失ヘル者ハ之ヲ殺傷スルヲ得ス、又兵器ヲ捨テスハ自衛ノ手段ニテ降ヲ乞ヘル者ハ陸戦条規ニ三第一項(ハ)号)スハ停虜トセントスルニ抵抗セサル者ハ之ヲ殺傷スルヲ得スシテ助命ヲ与ヘサルヘカラス、又一般的ニ助命ヲ与ヘサルコトノ宣言ヲ爲スヲ得ス(ニ)第一項(ニ)号)、何シ助命ヲ与ヘサルノ宣言ヲ爲スコトノ禁止ハ敵ノ違法行爲ニ依ル復讐ノ場合及自軍ニ屬スル者ノ切迫セル生存上ノ危険アル緊急状態ノ場合ニ於テ例外トシテ之ヲ守

ラサレヲ得ヘキモノト辨スヘキナリ、上述ノ制限ハ害敵手段ニ依ル加害ヲ戦争上必要ナル範圍ニ止メ無益ナル殺傷ヲナサシメサルヲ趣意トシ慈恵心ニ基クテ所アルナリ、

敵ノ抵抗カヲ挫クノ戦争ノ軍事上ノ目的ヲ達スルニ必要ナラサルニ使ニ負傷者ノ苦痛ヲ増スヘキノ手段ハ主トシテ慈恵心ニ基キテ禁止セラル、故ニ海牙ノ陸戦条規ハ不必要ノ苦痛ヲ与フヘキ兵器・發射物其他ノ物類ヲ使用スルコトヲ禁ス(ニ)第一項(ホ)号)、一八六八年ノ聖彼得堡宣言ニ於テ已ニ戦闘カヲ失ヘル者ニ不必要ノ苦痛ヲ与ヘ若クハ之ヲシテ必然死ニ至ラシムヘキ兵器ノ使用ハ戦争ノ目的ノ範圍ヲ越エルトシ此理由ニ依リ四百ノグラム以下ノ重量ノ爆薬性ヲ有ヘル者又ハ可燃性ノ物質ヲ填チタル發射物ヲ明アルコトヲ締約國ノ間ニ禁セリ、又第一回平和會議ノ際ノ宣言ニ依リ外包破固ナル彈丸ニシテ其外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若クハ其外包ニ截刺ヲ施シタルモノ、如ク人体内ニ入り容易ニ閉鎖シ又ハ扁平トナルヘキ彈丸即チ所謂「ダムダム」彈ノ使用ヲ禁止シ此宣言ハ今尚ホ有效ナルカ其趣意トスル所ハ「ダムダム」彈カ無益ニ慘酷ナ

ル創傷ヲ与フルトナスニ出ツ、第一平和會議ニ於テ議決セル他ノ一宣言
ハ輕氣球ノ上ヨリスハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ發射物及爆
發物ヲ投下スルコトヲ五年間禁シ曰落敷等中期限尽キシカ第ニ平和會議
ノ際將來開ナルヘキ第三平和會議終リニ至ル迄ノ期間之ヲ禁止スルコト
トナレリ、此宣言モ一ハ戰爭ノ慘酷ヲ致スヲ避クルノ趣意ニ出テタリト
認ムヘシ、第一平和會議ノ議決セル三宣言ノ一ハ空軍ニシムヘキ瓦斯又
ハ有毒質ノ瓦斯ヲ撒布スルコトヲ唯一ノ目的トスル發射物ノ使用、禁止
ヲ定メ今尚ホ有效ナルモノナルカ此宣言ヲ定メタル趣意モ亦慈惠心ニ基
ク所アリト云フヲ得ヘキモ又幾分カ後述スヘキ俠勇ノ精神ニ干渉アリト
云ハサルヘカラス、

又俠勇ノ精神（起原ヲ中世ノ歐洲ニ有スル一種ノ武士道）ニ感キ交戦
者ノ間ニ或程度迄相互ヲ尊重スヘク至ニ集法的又ハ背信的ノ行為ヲ行フ
ヲ得スト爲スヨリ交戦國ノ行フ害敵手段ニ制限ヲ存スルニ至ル、海牙ノ
陸戰條規ハ毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ノ使用ヲ禁シ敵國又ハ敵軍ニ屬スル
者ヲ背信ノ行為ヲ以テ殺傷スルヲ禁シ又軍使旗、軍旗其他ノ軍用ノ標章

欠

欠

ヘカラスシテ總テ不従順ノ行爲アルトキハ停虜ニ對シテ必要ナル嚴重ノ手段ヲ施スコトヲ得（ハ第一項）、現今ニ於テハ停虜ノ將校タルモノニ逃走セサルノ誓約ヲテストキハ之ヲ國家ニ寄還セシムルコトアリ、

國家ハ將校以外ノ停虜ヲ勞務者トシテ使役スルコトヲ得レトモ之ニハ三種ノ条件ヲ要ス、（一）勞務カ階級及技能ニ態スヘキコト（二）適度ナル~~レ~~ベカラサルコト、（三）一切作戦動作ニ干渉ヲ有スヘカラサルコト等是ナリ（大第一項）、又停虜ノ請求ニ依リ公務所、私人又ハ自己、為ニ勞務スルヲ許可スルコトアルヘキナリ、（大第二項）、

停虜ノ勞務カ國家ノ為ニスルモノナルトキハ同一勞務ニ使役スル内國陸軍々人ニ適用スル現行定率ニ依リ支払ヲ為スヘク右定率ナキトキハ其勞務ニ對スル相当ノ割合ヲ以テ支払フヘシトス、而シテ勞務カ公務所又ハ私人ノ為ニスルモノナルトキハ陸軍官憲ト被識ノ上条件ヲ定ムヘシトス（大第三項）、

停虜ノ勞務ニ對スル報酬ハ先ツ其ノ境遇ノ艱苦ヲ軽減スルノ用ニ供シ其餘ハ（本國カ給養ノ費用ヲ払ハサルトキハ給養ノ費用ヲ扣除シテ被解放ノトキニ停虜ニ交付スルモノト

又(大第四項)

俘虜カ勞務ノ報酬ヲ得ルト否トニ干セス又戰國政府ハ其叔内ニ在ル
俘虜ヲ給養スルノ義務アリ(七第一項)、海牙條約ハ特別ノ規定ナ
トスハ俘虜ハ糧食、藥具及衣服ニ付テ之ヲ捕ヘタル政府ノ軍隊ト對
等ノ取扱ヲ受クヘシトシ(七第二項)俘虜將校ハ其抑留セララル、因
内一階級ノ將校カ度クルト内領ノ俸給ヲ受クヘシトス、但シ右俸給ハ
(戰中終了後)本國政府ヨリ償還スヘキモノトス(一七七)

俘虜ハ陸軍官憲ノ定メタル秩序及風紀ニ干スル規律ニ取從スヘキコ
トヲ唯一ノ條件トシテ其ノ宗教ノ遵行ニ付テ一切ノ自由ヲ与ヘラレ其
宗教上ノ私拜式ニ参加スルコトヲ得(一七八)、俘虜カ遺言ヲ為サント
スル場合ニハ之ヲ捕ヘタル國ノ軍人ト同一ノ條件ヲ以テ之ヲ領置シ又
ハ作成スヘキモノトス(一九九)

俘虜ニ宛テ又ハ俘虜ヨリ來スル信書、郵便為替、有價物件、及小包
郵便物ハ差出國名宛國及通過ニ於テ一切ノ郵便料金を免除セラル、モ
ノトス、又俘虜ニ宛テタル贈與品、救恤品ハ輸入税其他ノ諸税及國有

鉄道ノ運賃ヲ免除セラル(一六六)

俘虜其氏名及ヒ階級ニ付テ訊問ヲ受ケタルトモハ實ヲ以テ答フヘキモ
ノトス若シ實ヲ以テ答ヘサルトモハ内種ノ俘虜ニ与ヘラルヘキ利益ヲ減
殺セラル、コトアルヘキナリ(一九)

第四 俘虜ノ逃走

俘虜カ逃走ヲ企ツルトキハ逃走ヲ妨クルタメニ對シテ兵器ヲ使用シ
必要アレハ之ヲ銃殺スルヲ得

逃走シタル俘虜ニシテ未タ逃走ヲ遂ケサル前(即チ其軍ニ連スル前
又ハ之ヲ捕ヘタル軍ノ占領シタル地域ヲ齎ル、前)ニ再ヒ捕ヘラレタル
者ハ懲罰ニ付セラルヘキモノトス、然レトモ既ニ逃走ヲ遂ケタル後再ヒ
俘虜トナリタル者ハ前ノ逃走ニ對シテハ何等ノ罰ヲ受クルコトナシ(ハ
第二項第三項)

第五 俘虜ノ身分ノ終了

停虜ノ身分ノ終了ハ(第一)停虜ノ交換(第二)宣誓ニ依ル解放(第三)宣誓ニ依ラサル解放(第四)味方ノ救護(第五)逃走(第六)停虜ヲ捕ヘタル軍ト共ニ中立領域ニ入ルコト(第七)戦争ノ終了等ニヨリテ生ス、今日ニ於テハ横断ニ依ル解放ハ海戦ニ於テ商船ノ船隻ヲ横断証書ニ依リ解放スルヲ認ムル國ヲ除キテハ行ハル、コトナキナリ、

(第一) 停虜ノ交換ハ旧時多ク行ハレタルモ近時ノ戦争ニハ行ハル、コト稀ナリ、時ニ戦争中再ヒ兵器ヲ操ラシメサルヲ約シテ交換スルコトアリ、交換ハ通常彼此同級者間ニ行ハル、異級者ノ交換ニ付片夜一人ト兵士幾人ト相当スルヤ等ノ回數ヲ生スルモ是レ各場合ニ相互ノ交渉ニ依リテ之ヲ決定スヘキ所ナリ、

(第二) 宣誓ニ依ル解放トハ普通停虜力戦争中再ヒ兵器ヲ操ラサルコトヲ宣誓シテ解放セラル、ヲ云フ、宣誓ハ唇面ニテ行ヒ停虜之ニ署名セサルヘカラス、交戦國政府ハ宣誓解放ヲ求ムル停虜ノ請願ニ対シ必スシモ之ニ応スルノ義務ナシ、又停虜モ宣誓解放ノ受諾ヲ強制セラル、コトナシ(陸戦条規一一)、然レトモ停虜ノ本國法カ之ヲ許

ストモハ停虜ハ宣誓ノ上解放セラル、コトアルヘキナリ、宣誓解放ノ場合ニハ停虜ハ本國政府及之ヲ捕ヘタル國ノ政府ニ対シテ一身ノ名譽ヲ賭シテ其誓約ヲ嚴密ニ履行スルノ義務ヲ有ス、停虜ノ本國政府モ之ニ対シ宣誓ニ違反スル勤務ヲ余シスハ之ニ服センコトノ申出ヲ受諾スヘカラサルモノトス(一〇)、宣誓解放ヲ受ケタル停虜ニシテ其名譽ヲ賭シテ誓約ヲ為セシ政府スハ其政府ノ同盟國ニ対シテ兵器ヲ操リ再ヒ捕ヘラレタル者ハ停虜ノ取扱ヲ与ヘサルヲ得ヘク且之ヲ裁判ニ附シ嚴罰ニ処スレヲ得、普通死刑ニ処スルモノトス、宣誓ニ依ル解放ハ普通將校ニノミ許スモ本國法カ之ヲ許ストモハ兵士ニ付テモヲ許スヲ得、

(第三) 宣誓ニヨラサル解放ハ極メテ稀ニ行ハル、所ニシテ停虜ヲ捕ヘタル軍カ救護ニ迫ラレ急ニ返却スルトモ又ハ攻圍ヲ受ケ糧食ノ缺乏アルトモ等ニ於テ之ヲ行フコトアリ得ヘキナリ、

(第四) 逃走ニ付シテハ既ニ前ニ述ヘタリ(本章停虜ノ逃走ノ節參照)

(第五) 停虜ヲ捕ヘタル軍ト共ニ中立領域ニ入リテ停虜ノ身分ノ終了ス

スルコトニテハ第一編ニ於テ中立地域ノ庇護ニ付テ述フルニ当
リ之ヲ説クヘキナリ

(第六) 戦争ノ終了ニ依ル停戦ノ身分ノ終了ニテハ戦争カ講和条約ノ
締結ニ依リテ終了スル場合ニ於テハ理論上講和条約カ締結ナルト
同時ニ停戦ノ身分終了ス、然レトモ停戦タリシ者ハ直ニ解放サルヘ
キニアラスシテ本国ニ帰還セシムルノ位置ヲトル向ハ依然軍ノ規律
ノ下ニ立タシムルヲ得、故ニ海牙ノ陸戦条規ニ於ルヘク返ニ之ヲ本
國ニ帰還セシムヘキヲ定ムルノミ(ニク) 戦争ノ終了カ一方ノ交戦
國ノ征服的併合ニ依ル場合ニ於テハ理論上ニ於テ併合ニ依リ國際法
上ノ停戦ノ資格ハ消滅ス、實際上併合後モ尚ホ停戦ヲ留置シ置クヲ
要スルコトアルモ交戦國ノ兼認ノ行ハレサル場合ニ於ケル普通ノ
内乱ノ場合ト等シク最早國際法上ノ停戦ノ規則ヲ適用スヘキニテラ
ス

戦争開始ノ時ヨリ各交戦國ハ停戦情報ヲ設置セサルヘカラス、交戦
者ヲ其領域内ニ收容スル中立國ニ此句ヲ設置スルコトヲ要ス、情報局ハ

停戦ニテスル一切ノ向合ニ答フルノ任務ヲ負シ停戦ノ留置移動、宣誓解
放、交換、逃走、入院、死亡ニテスル事項其他各停戦ニテスル諸々票ヲ作
成頒發スル為ニ必要ナル通報ヲ各該官憲ヨリ受ケテ之ヲ銘々票ニ記入
ス、銘々票ニハ番号、氏名、年令、本籍、階級、所属部隊、負傷及捕獲
位置、負傷及死亡ノ日所及場所其他一切ノ備考事項ヲ記載スヘキモノト
ス而シテ銘々票ハ平和克復ノ後之ヲ他方交戦國ノ政府ニ交付スヘキナリ
情報局ハ又宣誓解放セラレ、交換セラレ、逃走シ又ハ病院若クハ捕帯所
ニ於テ死亡シタル停戦ノ遺留シ並ニ戰場ニ於テ発見セラレタル一切ノ自
用品、有價物、信符等ヲ収集シテ之ヲ其干係者ニ送還スルノ任務ヲ有ス
(一四)、情報局ハ郵便料金ノ免除ヲ享ク(一大第一項)、海牙ノ陸戦
条規ハ停戦救恤協会ノ行動ヲ認メ此種ノ慈善行為ノ媒介者タル目的ヲ以
テ組織セラレタル協会カ自國ノ法律ニ從ヒ正式ニ組織セラレタルトモハ
其人道的事業ヲ有效ニ遂行スル為メ軍事上ノ必要及行政上ノ規則ニ拘限
セサル範圍内ニ於テ交戦者ヨリ(自己及其正当ノ責任アル代表者ノタメ
ニ)一切ノ便宜ヲ与ヘラルヘク該協会ノ代表者ハ停戦收容所及送還停戦

途中沐浴所ニ於テ救恤品ヲ分與スルコトヲ許サルヘシトス但シ之カ爲
ニハ代表者カ各自陸軍官憲ヨリ免許狀ノ交付ヲ受ク且該官憲ノ定メタル
秩序及軍紀ニ干スル一物ノ規律ニ服スヘク且各面ヲ以テ約スルヲ要ス
(一五)

第三章 陸戰ニ於ケル傷者病者ノ救護 及軍隊衛生上ノ機關

第一 概説

昔時ノ戰争ニ於テ戰場ニ墮レル敵國ノ傷者病者ヲ虐待シ屍體ニ辱ヲ
加ヘ其財物ヲ掠奪スルコト屢行ハレシカ十七世紀以來傷者ニ干シテ狂々
乘約ヲ結ビテ相互的ニ救護ノ傷者ヲ救護スルヲ約スルコトアリタリ、然レ
トモ一般ノ國際法規トシテハ十九世紀ノ後半ニ至ルマテ專ニ傷者ノ救護

虐待ヲ禁止コラレタルニ過キス、然ルニ一八六四年ニ至リ赤十字條約即
チ戰地軍隊ニ屬スル傷者及病者ノ救護改善ニ干スルジニネゾテ條約成レ
リ、此條約ハ十ヶ條ヨリ成リ一八九〇年ニ至リ三十三ヶ條ヨリ成ル
新赤十字條約成レリ、新赤十字條約ハ傷者及病者ノ取扱、死者ノ保護、
軍隊衛生上ノ移動機干及固定營藥物、衛生人員救護人員ノ特權、衛生上
ノ移動機干及固定營藥物並ニ救恤協會ニ屬スル材料、搬送機干、赤十字
ノ特殊記章並用及違反ノ懲罰等ニ干シテ規定ヲ設ケ、

第一 傷者及病者ノ救護

各戰地戰場ノ占領者ハ傷者ヲ搜索シ救護シ療養及虐待ニ對シ傷者及死者ヲ
保護スルノ措置ヲトルヘク(赤十字條約三第一項)軍人又ハ公務上軍隊
ニ屬スル其他ノ人員ニシテ負傷シ又ハ疾病ニ罹リシ者ハ国籍ノ如何ヲ向
ハス之ヲ異國内ニ收容シタル交戰者ニ於テ尊重看護スヘクモノトス、但
病者及傷者ヲ敵ニ遺棄スルノ已ムヲ得サルニ至リタル交戰者ハ軍事上ノ
状況ノ許ス限リ其看護ヲ幫助セシメンカ爲メ衛生評員及衛生材料ノ一部

ヲ病者及傷者ト夫ニ遺留スヘシト爲ス(四上衆約一) 國ヨリ交戦者一不
 ノ傷者又ハ病者ニシテ他ノ交戦國ノ叔内ニ陥リタル者ハ上述スル所ニ依
 リ看護ヲ享クルノ外停虜ニキスル西際公法ノ一般規則ヲ適用セラル、モ
 ノトス(第一項) 尊重看護ヲ享クル莫ヨリシテ傷者病者カ一級ノ停
 虜ヨリモ寛大ノ待遇ヲ受クヘキハ言ヲ俟タス又交戦者ハ停虜タル傷者病
 者ノ利益トナルヘキ事項ヲ相互ニ核定スルノ自由ヲ有シ殊ニ(イ) 戦前
 後戦場ニ遺棄セラレタル傷者ヲ互ニ引渡スコト(ロ) 交戦者ハ停虜トシ
 テ抑留シ置ケラザル場合又ハ病者ヲ輸送ニ堪エルニ至リタル後又ハ
 公治後英公國ニ送還スルコト又ハ(ハ) 戦争終了スルマテ中立國ニ留置
 スル条件ヲ以テ戦國ノ傷者ヲ中立國ニ引渡スコト等ノ事項ニ付ニ決定ヲ
 爲スノ权限ヲ有ス(ニ第二項)

各交戦者ハ停虜シタル傷者又ハ病者ノ人名簿ヲ成ルルヘク速ニ其本國官
 憲スハ所属陸軍官憲ニ交付スヘク(四第一項) 各交戦者ハ互ニ其叔内ニ
 在ル傷者及病者ノ番置移動並ニ入院及死亡ニ付スルコトヲ知照スヘキナ
 リ(四第二項)

陸軍官憲ハ住民ノ慈惠心ニ訴ヘ之ニ志シタル者ニハ特別ノ保護及一定
 ノ特典ヲ与ヘ其番置ノ下ニ兩軍ノ傷者病者ヲ收容看護セシムルコトヲ得
 ヘシ(五)

第三 衛生機干

衛生上ノ移動機干及固定營造物ハ管敵行為ノ爲ニ使用セラレサル限リ
 ハ西交戦國之ヲ尊重スヘキモノトス(六七) 故ニ予備病院若クハ野戦病
 院ハ戦間ニ干係シ戦間負ニ蔽障ヲ與ヘ兵器彈藥ヲ隠匿シ衛生汽車ヲ兵士
 輸送ニ用フル如ク敵ヲ害スル行為ニ干係セルトスハ尊重保護ヲ享クル
 限リニアラス、但シ陸軍衛生上ノ移動機干又ハ固定營造物ハ(一) 移動
 機干又ハ固定營造物ノ人員ヲ兵器ヲ自巳又ハ傷者病者ノ防衛ノ爲ニ使用
 スルノ事實(二) 武装看護人ノ在リサルニ當リ正式ノ命令(守衛ノ任務
 ニ付スル相當官庁ヨリノ筆記命令)ヲ携帶スル歩哨又ハ衛兵ヲシテ移動
 機干又ハ固定營造物ヲ守衛セシムルノ事實(三) 傷者ヨリ取上ケラレタ
 ルモ未タ所轄部署(最前部隊若クハ野戦兵器廠等)ニ引渡サレサル兵器

及藥筒方移動機干スハ固定管造物内ニ發見セラレタルノ事實ニ依リ尊重
保護ヲ享クルノ資格ヲ失フコトナシトス（八）

第四 衛生機干所屬人員

傷者及病者ノ收容、運送、治療ニ衛生上ノ移動機關及固定管造物ノ
事務（庶務、經理、運搬、炊養ヲ含ム）ニ專ラ從事スル人員及軍隊所屬
ノ救護者ハ如何ナル場合ニ於テモ尊重保護セララルヘク敵ノ威力内ニ陷レ
ルトモハ俘虜トシテ取扱ハル、コトナカルヘシトス（九第一項）武装着
録人ナラトモハ正式ノ命令ヲ受ケフル守衛人員（歩哨スハ衛兵）モ亦然リ
トス（同第二項）

本國政府ニ適法ニ認可シテ予メ付キ交戦國ニ通知セル篤志救恤協会（
例ハ我國、日本赤十字社）ノ人員ニシテ陸軍衛生上ノ移動機關及固定管
造物ニ使用セラレ陸軍ノ法律規則ニ服従スル者即チ陸軍ノ保護的衛生組
織ニ加ハレル者モ同様ノ取扱ヒヲ受ケルモノトス（一〇第一項）
中立國ニ於テ認可セラレタル協会ハ予メ其國政府ノ承認ヲ經ケル工当

該交戦國ニ補助ヲ与ヘシムルコトヲ得ス、斯クノ如ク救恤ヲ兼認シタル
交戦國ハ其ノ使用ニ先タチ之レヲ敵國ニ通告スヘシトス（一一）

上述ノ諸人員ハ敵ノ威力内ニ陷リタル後モ其指揮ノ下ニ在リテ野戦ニ各
自ノ職務ヲ行フヘキモノトス、而シテ是等ノ人員ノ補助力既ニ必要ナキ
ニ至リシトモハ軍事上ノ必要ト相容ル、時期及通路ニ從ヒ之ヲ所屬軍隊
又ハ本國ニ送還スヘキナリ、是等ノ人員ハ各向ノ私有一屬スル救護、醫
具、武器及馬匹ヲ持テ去ルヲ得ヘシ（一二）
敵國ハ篤志救恤協会ノ人員ヲ除ケル上述ノ人員カ其威力内ニ在ル時其國
軍隊ノ同一階級ノ者ニ給与スルト同様ノ給養及軍給ヲ受ケ夫給スヘキモノ
トス（一三）

第五 衛生機干ノ材料

陸軍衛生上ノ移動機干ハ敵ノ威力内ニ陷ルトモトモ其ノ輸送方法護送
人員ノ如何ヲ向ハス所屬材料ヲ保有スヘク材料中ニハ護具ヲモ包含ス
從テ原則トシテ其材料ヲ押収セラレ、コト、ナシ但所轄ノ陸軍官憲ハ傷

一四〇
俘虜
依依

一四二
者及病者ノ看護ノ為メニ該材料ヲ使用スル权限ヲ有ス、此場合ニ於テ之
ヲ後ニ至リ還付スヘキモノトス、而シテ材料ノ使用ニ必要ナキニ至リテ
ルトモ軍事上ノ必要ト相容ル、時期及通路ニ從ヒ之ヲ所屬軍隊又ハ其本
國ニ送還スヘキモノトス且成ルヘク衛生人員ト同時ニ還付スヘキモノト
ス(一四)

陸軍ノ衛生上ノ固定營造物ノ建物及材料ハ敵軍ノ法規ニ從フ故ニ敵ノ
叔内ニ陥ルトモハ其建物ハ敵軍ノ為メ管理セラレハ海牙ノ陸戰條約(五三)
材料ハ敵軍ニ於テ押收没収シ得ルニ至ル(五三)、然レトモ傷者及病者ニ
必要ナル前ハ重大ナル軍事上ノ必要アルニテラサルハ其用途ヲ他ニ變ス
ルヲ得ス、作戦上之ヲ他ノ目的ニ供スル重大ナル必要アルトモハ先以病
院内ノ傷者病者ヲ適當ノ場所ニ移シテ其安全ヲ謀リタル後ニ没収知分ス
ヘキモノトス(一五)

赤十字條約ニ定メタル條件ニ從テ陸軍ノ衛生勤務ヲ補助スル救恤協会
ノ材料ハ移動機干ニ用ヒラル、モノハ勿論固定營造物ニ用ヒラル、モノ
トモ私利私欲トシテ取扱ヒ如何ナル場合ニモ戦利品トシテ獲得セラル

ルコトナシトス、但シ既知法規ニ依リ右陸軍力之ヲ徵収スルコトアリト
ス(一六)

第六 後送機關

後送機干ハ原則トシテ衛生上ノ移動機關トシテ取扱ハル(一七)第一項
ハ、然ルニ後送機干ニ于テ特ニ注意スヘキ點多アリ、
一、後送機干
二、後送機干
三、後送機干
四、後送機干
五、後送機干
六、後送機干
七、後送機干
八、後送機干
九、後送機干
十、後送機干
十一、後送機干
十二、後送機干
十三、後送機干
十四、後送機干
十五、後送機干
十六、後送機干
十七、後送機干
十八、後送機干
十九、後送機干
二十、後送機干
二十一、後送機干
二十二、後送機干
二十三、後送機干
二十四、後送機干
二十五、後送機干
二十六、後送機干
二十七、後送機干
二十八、後送機干
二十九、後送機干
三十、後送機干
三十一、後送機干
三十二、後送機干
三十三、後送機干
三十四、後送機干
三十五、後送機干
三十六、後送機干
三十七、後送機干
三十八、後送機干
三十九、後送機干
四十、後送機干
四十一、後送機干
四十二、後送機干
四十三、後送機干
四十四、後送機干
四十五、後送機干
四十六、後送機干
四十七、後送機干
四十八、後送機干
四十九、後送機干
五十、後送機干
五十一、後送機干
五十二、後送機干
五十三、後送機干
五十四、後送機干
五十五、後送機干
五十六、後送機干
五十七、後送機干
五十八、後送機干
五十九、後送機干
六十、後送機干
六十一、後送機干
六十二、後送機干
六十三、後送機干
六十四、後送機干
六十五、後送機干
六十六、後送機干
六十七、後送機干
六十八、後送機干
六十九、後送機干
七十、後送機干
七十一、後送機干
七十二、後送機干
七十三、後送機干
七十四、後送機干
七十五、後送機干
七十六、後送機干
七十七、後送機干
七十八、後送機干
七十九、後送機干
八十、後送機干
八十一、後送機干
八十二、後送機干
八十三、後送機干
八十四、後送機干
八十五、後送機干
八十六、後送機干
八十七、後送機干
八十八、後送機干
八十九、後送機干
九十、後送機干
九十一、後送機干
九十二、後送機干
九十三、後送機干
九十四、後送機干
九十五、後送機干
九十六、後送機干
九十七、後送機干
九十八、後送機干
九十九、後送機干
一百、後送機干

專屬セサル軍隊ノ車輛ハ後送機干ノ使用ニ供セラル、場合ニ於テモ移動機干ニ屬スルモノトシテ取扱ハレシテ機馬ト共ニ戰利品トシテ獲得シ得ヘシ、(4) 鐵條ニ依リ収用セラル、各種ノ輸送物件モ一般ノ軍隊ニハ規則ニ依リテ移動機干ニ屬スルモノトシテ取扱ハレテ特別ノ保護ヲ享ケルコトナシ、後送ノ為メニ収用セラル、鐵道材料及船隻モ衛生勤務ニ專屬セルニテ限リハ移動機干ニ屬スルモノトシテ取扱ハル、コトナシ、(5) 後送機干ニ從屬アル普通人民モ同條法ノ一般ノ規則ニ從ヒテ取扱ハル(以上一七)

後送機干ニテスル赤十字條約ノ規定(一七)ハ攻圍地ヨリ傷者病者ヲ送リ出スコトニ依リテ長ク防禦ヲ維持スルノ利益ヲ被攻圍者ニ与フルコトヲ許サ、ルモノト解被セナルヘカラス、

第七 赤十字ノ認章

軍隊ノ衛生勤務上、特別認章トシテ白地ニ赤十字ノ認章ヲ用テ、此認章及赤十字又ハシニネガフ十字ナル稱号ハ平時ト戰時トヲ問ハス赤十字條

約ノ保護ヲ享ケル衛生上ノ移動機干、固定營造物、人員及材料ヲ保護シ又ハ標榜スル為メニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス(一八)、赤十字ノ認章旗ハ赤十字條約ニ依リ保護セラルヘシ衛生上ノ移動機干及固定營造物カ陸軍官憲ノ認章ヲ受ケタル上ニ於テ始メテ之ヲ掲揚スルコトヲ得ルモノトス、赤十字旗ヲ掲グルト共ニ自國ノ旗ヲ立ツヘシモノトス、但移動機干ニシテ敵ノ板内ニ陥リタルトモ其敵國ノ板内ニ在ル間本國ノ旗ヲモ敵國ノ旗ヲモ掲揚セシテ赤十字旗ノミヲ掲揚スヘシモノトス(一九)、赤十字ノ認章ハ所轄陸軍官憲ノ認章ニ依リ衛生勤務ニ干スル旗、臂章及一切ノ材料ニ表記セラルヘシモノトス(一九)

赤十字條約ノ保護ヲ受ケル人員(正式ノ命令ヲ有スル第九條第二項所定ノ守衛人員(八條ニ号參照)ヲ除ク)ハ所轄陸軍官憲ヨリ交付シ且其印章ヲ捺シタル白地赤十字ノ臂章ヲ左腕ニ装着スヘク(右腕ニ装着セシタルヲ要ス)軍服ヲ着セル者(例ハ救恤協會ニ屬スル者等)ハ此臂章ノ外ニ所轄陸軍官憲ノ交付スル認章認章明肩ヲ携フヘシトス(二〇)

今日ニ於テハ敵ノ兵士ト至モ死者ハ已ニ敵ニアラスト為サレ西交戦國
 ヲ互ニ對手國ノ兵士ノ死屍ヲ尊重シ探奪及虐待ニ対シテヲ保護スヘク綿
 密ニ之ヲ検査シテ其生死ヲ確メ其被服及携帶品ニ付テ出来得ル限り其何
 人タルヤヲ確メテ檢査ノ屍体ヲ火葬又ハ土葬ニ付スヘクナリ(一三)
 各交戦者ハ死者ニ付テ桑見シタル軍服ノ認識票又ハ身分ヲ証明スヘク
 記号ヲ成ルヘク速ニ其官憲又ハ所属陸軍官憲ニ交付スヘシトナス(一四第
 一項)・敵國ノ死者カ有ル兵器、馬匹及軍用器、如キハ戦利品トシテ
 没収スヘキモ其携フル所ノ金銀、空石、雜品ノ如キハ之ヲ利害ヲ保者ニ
 還付セサルヘカラス、ジエネゾフ条約ハ戦場ニ於テ桑見セラレ或ハ衛生
 上ノ固定官造物及移動機干内ニテ死亡シタル傷者又ハ病者ノ遺體ニ保ル
 一切ノ私用品、有價物、各狀等ヲ其所属官憲ヲシテ利害ヲ保者ニ返送セ
 シムル為メ集収スヘシト為シ(一四第二項)・海牙ノ陸戰條規ハ停屠情報
 石カ之ヲ集収シテ網原者ニ返送スル任務ヲ有スヘシトス(一四一)

第四章 陸戰ニ於ケル突撃攻圍及砲撃

第一概説

突撃トハ戰場ニ在ル敵兵又ハ城塞若クハ都市、村落、住宅又ハ建物ニ
 對シテ敵兵ニ對シテ行ハル、兵力ノ突進的攻撃ヲ謂フ、攻圍トハ兵力ニ依
 リテ敵地ヲ圍ミ内外ノ交通ヲ絶ツモノニシテ敵ノ糧食ノ供給ヲ絶テ之ヲ
 降伏セシムル為ニ行フコトナリ、砲撃ニ依リて攻取センカ為ニ之ヲ行フコ
 トナリ、砲撃トハ敵ノ軍隊艦隊又ハ敵ノ拠レル城塞、都市、村落、住宅
 又ハ建物ニ對シテ砲彈ヲ發射スルコトナリ、攻圍ニハ砲撃又ハ突撃ヲ併
 フコトアレトモ必スシモ然ラス、攻圍カ単ニ敵ノ糧食ノ供給ヲ絶テ敵
 ヲ降ラシムル目的ヲ以テ行ハル、コトナリ得ヘケレハナリ、突撃ハ砲撃
 ニ併ハル、コトナリ、又併ハレサルコトナリ、突撃、攻圍及砲撃ハ皆適
 法ナル戰術手段ナリ、砲撃及突撃ハ野戰ノ隊行ハレルトモ他ノ戰術手

敵ト同様ノ條件ノ下ニ行ハルヘキモノニシテ特ニ之ヲ説クヲ要セス、野
戰以外ニ於テ如何ナル場合ニ攻圍砲撃及突撃ヲ許スヘキマカ向敷トナル
ノミ、

第二 攻 圍

攻圍ハ防守セラレサル場所ニ対シテ之ヲ行フ能ハサルコトハ毫モ疑ヲ
容レサル所ナリ、攻圍ニ干シテ攻撃及防禦ノ害敵手段ニテスル一戦ノ規
則(例ハ海牙ノ陸戰条規ノ第二十三條ノ規定)カ適用アルコト言フ俟ス、
又攻圍カ砲撃ニ伴ハル、場合ニ干シテ海牙ノ陸戰条規ハ宗教、技藝、学
術及慈善ノ用ニ供セラル、建物、工廠上ノ紀念建造物、病院並ニ病者及
傷者ノ收容所カ内時ニ軍事上ノ目的ニ使用セラレサル限り之ヲシテ成ル
ヘク損害ヲ免レシムル爲メ必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘキヲ定ム(一七)
攻圍ノ際攻圍軍ハ攻圍地域内ニ在ル老幼、婦女、傷病者ノ攻圍地域ヲ
去ルヲ許スコトアルモ必スシモ之ヲ許スノ義務ナシ、是等ノ人民ニ對ス
ル压迫ニ依リテ攻圍ヲ受クル都市ノ敵軍カ降伏スルコトアルヘク且攻圍

地ヨリ是等ノ人民ノ退去ヲ許スハ攻圍ヲ受クル軍ノ糧食ノ供給上ニ利益
ヲ與ヘ攻圍ノ目的ヲ達スルモノナルヲ以テ命令是等ノ人民ニ對シテ停戦
ナリト云モ今日ニ於テハ是等ノ人民ノ攻圍地域ヲ去ルヲ許サスシテ可ナ
リトス、自ラ攻圍ヲ脱シテ攻圍地域外ニ退去セントシヌハ攻圍ヲ受クル
軍ヨリ退去ヲ強制サレタル上ニ種々ノ人民ハ攻圍軍之ヲ攻圍地域内ニ
追ヒ込ムコトヲ得、中立國人ノ攻圍ノ行ハレントスル地域内ニ在ルモノ
ハ攻圍ニ先キヌハ攻圍ノ初期ニ於テ退去ヲ許スコトアルモ此機會ニ退去
セサルトスハ攻圍地域内ノ他ノ平和的人民ト公認ニ取扱ハル、

攻圍地域内ニ在ル中立國ノ外交官ハ其攻圍地域外ニ退去セントスルニ
當リ攻圍軍カ之レヲ妨グルヲ得サルコト普ク普クメラル、攻圍地域内ニ在
ル中立國ノ外交官カ攻圍軍ノ檢閲ヲ經スシテ本國政府ト通信ヲ爲ス
コトヲ要求シ得ヘキモ否マニテシテ議論アルモ今日ニ於テ交戰國カ交戰
ノ必要上攻圍地域内ニ在ル第三國外交使節ノ本國トノ交通ニ其ノ必要トス
ル相當ノ制限ヲ加フルヲ認メサルヲ得サルカ如シ、

第三 突撃

突撃ニ付シテ攻撃及防禦ノ害敵手段ニ付スル一般ノ規則カ適用アリ、
突撃ハ防守セサル都市、村落、住宅又ハ建物ニ対シテ之ヲ加フルヲ得ス
突撃ハ砲撃ト異リテ之ヲ始ムルニ先テ地方官憲ニ通告ヲ為スヲ要セス、
突撃ヲ以テ攻取シタル場合ニ於テモ今日ニ於テハ都市其他ノ地域ハ之ヲ
掠奪ニ委ヌルコトヲ得ス（陸戦条規第ニハ）

第四 砲撃

防守セサル都市、村落、住宅又ハ建物ハ如何ナル手段ニ依ルモ之レヲ
砲撃スルコトヲ得ス（陸戦条規ニ五）、所謂防守セサル都市トハ必スシ
モ城塞ヲ圍ラシ又ハ其近傍ノ砲台ニ依リテ掩護セラル、モノナルヲ要セ
ス軍隊カ之ニ拠ルトモハ防守セラレタル都市トナルナリ又城塞ヲ圍ラシ
又ハ其近傍ノ砲台ニ依リ掩護セラル、都市ハ防守セラレタルモノト推定
スヘク抵抗ヲナサ、ルノ態度カ明白ナラサル以上ハ砲撃ヲ加フルヲ得、

防守セサル都市、村落等ヲ砲撃スルヲ得サルヲ認ムルニ至レルハ交戦法
規上ノ一大進歩ナリトス、

海軍ノ陸戦條規ハ攻撃軍隊ノ指揮官ハ強襲ノ場合ヲ除クノ外砲撃ヲ始
ムルニ先テ其旨土地ノ官憲ニ通告スルヲ為メ施シ得ヘキ一切ノ手段ヲ尽ス
ヘキモノトスト定ム（ニ六）、指揮官カ通告ヲ為スタメ施シ得ヘキ一切
ノ手段ヲ尽スヘキヲ定メタルモ絶対的ノ規定ニ付テスシテ特別ノ事情下
リテ通告ヲナス能ハサルトモ又ハ戦事ノ必要上直ニ砲撃ヲ為スヲ要スル
トモハ通告ヲナサシテ砲撃ヲナシ得ヘキモノト解セサルヘカラス、通
告ノ目的ハ砲撃ノ加ヘラレトスル地域内ニ在ル私人ヲシテ其身体及貴重
トスル私有財産ヲ保護スルヲ得セシムルニ在リ

海軍条約ハ次圖及砲撃ニ際シ宗教、技藝、學術及慈善ノ用ニ供セラル
ル建物、丁史上ノ記念建造物、病院並ニ病者及傷者ノ收容所ハ何時ニ
時上ノ目的ニ使用セラレサル限リ之レヲシテ成ルヘク損害ヲ免レシムル
タメ必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘキモノトス（ニ七第一項）而シテ之ニ
対シ被圍者ハ千メ攻圍者ニ通告セル層易々特別ノ徽章ヲ以テ上述ノ建物

又ハ收容所ヲ表示スヘキモノトス(二七第ニ項)
都市ノ砲撃ニ際シ單ニ四圍ノ城塞若ハ附近ノ砲台ニ砲撃ヲ限ルノ必要
ナク上述ノ特別ノ保護ヲ受クル建物、建造物、收容所ノ外ハ都市ノ公私
ノ建物ヲ砲撃ニ依リ破壊毀損シ得ルナリ、

第五章 陸戦ニ於ケル奇計

第一 奇計ト陸戦條規

戦争ニ於ケル奇計トハ敵ヲシテ誤謬ニ陥ラシメ戰鬪上ノ利益ヲ白ムル
カタメ行フ所ノ策略ヲリトス、海軍ノ陸戦條規ハ奇計カ違法ナルヲ定ム
(二四)、然レトモ是レ原則ヲ定メタルモノニシテ或奇計ニシテ他ノ特
別ノ規定ニ依リ不法ト認メラレタルモノハ上述ノ原則的規定ノ如何ニ拘
ラス特別ノ規定ニヨリテ不法トナルハ言フ俟タズ、例ハ背信ノ行為ヲ以

テスル人ノ殺傷(二三(七)号)又ハ軍械、國旗其ノ他ノ軍用ノ標章、旗
ノ刺眼反ジエ水ガ了泰的ノ裝設標章ノ並用(二三(八)号)等ニ干シテハ
特別ノ規定アリ、

第二 奇計及背信ノ行為

軍用ナル奇計ハ又ヲ背信ノ行為ヲ含ム奇計トモ別メナルハカラス、甚
テノ陸戦條規ハ奇計ノ原則トシテ違反ナルヲ認メタルモ背信ノ行為ヲ以
テ後傷ヲナスニトフ察シタリ(二三(七)号)背信ノ行為トハ或戦者カ
條ニ明示的ニ戦中ノ行為ニ干シテ約定タル所ニ故意ニ違反スル場合
又ハ敵ノ旗ヲ起ニ使用セサルコトヲ或約定ノ條件トシテ戰時國書表上認
メラル、事項ヲ欺ラ欺ク事ニ用ラル場合等一茶ア存スルモノニシテ斯ノ
如キ背信ノ行為ハ現今ノ戦ヤ一茶ア又或水陸軍カ存スル戰士道約條法ニ
背キ戦中ノ被害ヲ過大ニスレノ弊ヲ惹起スヘキモノナルヲメテ國際法ニ
之ヲ用ヒテ人ヲ殺傷スルヲ禁止スルモノナリ、例ハ休戰條約ヲ違ヒ若ハ

戦國停止ヲモナカラズ不意打スルタメ急ニ改行及テ始メ又ハ退却
 ノ機全ク於メ或ハ兵隊ノ制ルヲ得テ改行及テ始メ又ハ退却ヲ以テ降伏
 砲的ヲ指ヒ若ハ降参ノ公圖ヲ志シ又ハ依款ノ意思ナクシテ休戦及テ揚テ
 テ以テ改行及テ十次以上ノ利益ヲ占メ又ハ赤十字會條約ノ保護スル場合一並
 ラサルニ改行ニ赤十字會條約ノ記号ヲ掲ケテ改行上ノ利益ヲ得ルカ如キハ
 背信ノ行及テ改行及テ又ハ十ニト明白ナリ、然レトモ確ニ軍使ナレテ計ト
 背信ノ行及テ改行及テ又ハ十ニト明白ナリ、然レトモ確ニ軍使ナレテ計ト

第三、奇計ト國旗、軍用標章及款ノ制取ノ使用

國旗、軍用標章、款ノ制取ノ使用ニテハ突如ニ徐シテ現ニ砲火ヲ
 及エレニ對シ白セノ正曲ノ國旗、軍用標章、制取ニアフサルモノ、使用
 フルニテ得サルニト一報ニ認メラルル其狀中敵味方ノ判別ヲ得サルヘ
 カラスト急スニ由ル然レトモ許多ノ害者ハ實戦ノ場ニ於テ又ハ突如カ
 レル敵ハ款ニ接近シ又ハ款ニテ免ル、カ處ニテ略トシテ他ノ國旗キテ使

用スルヲ得ヘント急ス、海牙ノ條約及テ他ノ條約ニ於テ軍使及テ
 款ノ制取ヲ續ニ使用スルヲ禁スルニテ(二三(八)号)擯ナル使用ニア
 サレハ之ヲ使用シ得ヘク擯ナル使用ト然ラサル使用トノ區別ノ標準ニテ
 テハ或ハ條約ノ公地ヲ存スルナリ、許多ノ害者ハ自レノモノニアラズ
 國使若シハ軍用標章ハ款ノ制取ノ突如同前條約又ハ終了後ノ使用ハ擯ナ
 ル使用ニアラスレテ禁止セラレト急ス、然レトモ國旗、軍用標章、款
 ノ制取ヲ款ニ對スル奇計ニテイテ使用スルハ條約及テ他ノ條約ニテ不
 スルノ論者少カラス、

第四、奇計ト赤十字會條約ノ記号及軍使款ノ使用

赤十字會條約(ジュネヰア條約)ノ條約及テ他ノ條約ニ於テ軍使及テ
 八十條及テ他ノ條約ニ於テ軍使及テ他ノ條約ニ於テ軍使及テ他ノ條約
 ナレハ之ヲ使用シ得スルニテ(赤十字會條約第廿九條)其以外ノ場合ニテ用
 フレハ背信ノ行及テナリ條約及テ他ノ條約ニ於テ軍使及テ他ノ條約

（本章戦時戒厳ノ節參照）间谍並ニ敵國ニ對スル戰時戒厳ヲ犯ス者ハ故
國オ之ヲ捕フルトキハ之ヲ嚴罰スルコトヲ得レリ、

第二、间谍

海軍ノ戒厳ニ關スル

- (1)、一方ノ交戦者ニ通報スルノ意ヲ以テ
- (2)、他ノ一方ノ交戦者ノ作戦地帯内ニ入テ
- (3)、取寄ニ行動スルハ虚偽ノ口實ノ下ニ行動シテ
- (4)、情報ヲ蒐集スルハ蒐集セントスレバ若シアラサルハ之ヲ间谍ト認ムル
コトヲ得スト也（ニ九條一項）
- 戰時國境上所謂间谍ト認ムルニハ（一）（二）（三）及（四）ノ四条件
ニ（一）ノ条件ヲ具備スルヲ要ストス但上述ノ四条件ヲ要フレハ軍人ト
ルト軍人トラサルトテ同ハス軍人中建設タルト兵卒タルトヲ論セス敵國
ノ國籍ヲ有スルトヤ且國ノ國籍ヲ有スルトヲ別タス長官ノ命令ニ依ルト

自己ノ意思ニ基クトテ向ハスレバ敵國國境上ノ间谍トシテハナリ、
海軍ノ戒厳ニ關スルハ上述ノ间谍ノ条件ヲ要ハサル或場合ヲ說明セテ
ナリ也、

- (1)、或種ノ軍人ニシテ情報ヲ蒐集センイタメ敵軍ノ作戦地帯内ニ進入
シタル者ハ之ヲ间谍ト認ムル也
- (2)、軍人タルトモトテ向ハスレバ敵軍ニ對シタル通信ヲ收受スル
ノ任務ヲ公然執行スル者モ亦之ヲ间谍ト認ムル也
- (3)、通信ヲ代達スルルル及應テ軍人ハ地方ノ各町間ノ聯絡ヲ通スル者モ
輕重ヲテ差違セラレタル者不同トス（ニ九條一項）且上述ノ四
条件ノ任務ヲ公然執行スル者モ亦之ヲ间谍ト認ムル也
- (4)、陸軍ノ戒厳ニ關スルハ同様に要スルコトナル也
- (5)、航空飛行機ニ依リテ敵國ノ偵察スル者ハ间谍トシテ
得ヤレモ若シ虚偽ノ口實ヲ用フレトハ间谍トナルニ至ル
- (6)、敵軍ニ對テ情報ヲ用フレトハ间谍トシテ認ムル也

海スヲ居ントセザレバヤヤ戦負ノモノアリト外侮ヲ防ル、一由カ一ハ陸
 軍ニ行動シ又ハ虚偽ノ口実ノ下ニ行動シテ軍情ヲ探知スルモノハ必ず
 早ニ取リア危殆ナルヲ以テ之ヲ嚴禁スルノ必要アリト由リ改定ノ内務ノ
 捕ヲルトヤハ幾般ノ如ク不忠不孝ト思惟セラル、嚴刑ニ処スルヲ降トスレ
 海軍ノ操給金規ハ現行中捕ヘラレタル刑罰ハ裁刑ニ至ルニテアサレハ之
 ヲ罰スルニトテ行ス(三〇)ト云ス又レ現行中ノ同業ナリトノ嫌疑アル
 者ヲ極々裁罰ヲ終スシテ捕ヘタル部隊ニ於テ嚴禁ヲ行ヒ時ニ改定ノ有ク
 然スノ虞ナレヲ以テナリト海軍ノ陸軍金規ハス一以テ所屬軍ニ復歸シタル
 處ニ至リ後ノ如クニ捕ヘラレタル同業ハ將辱トシテ取扱ハルヘテ故ノ同
 業行爲一対シテハ何者ノ責ヲ負フコトナントス(三一)

第三、戰時戒嚴

普通所謂戒嚴ノ一因ノ軍人又ハ普通ノ人其本國ニ於テ行フモ
 ノナレバ國際法上所謂戰時戒嚴ノ條ハ侵入サレヌハ止限サレタル土地ニ在

在シヌハ一昧無二本レシ戒國人又ハ十五國人又ハ十五國人、領土ニ存在シ又ハ時時ニ在リ
 スルモ成業セル敵ノ軍人ヲ包含スルノ行爲ナレバ得ヘテ捕ナリト

戰時戒嚴ニ依テ戰時軍律ヲ違フニ當リ銃ケル所アリタリ海軍ノ陸
 軍兵船ニ明文ナキモ慣習國際法上戰時戒嚴ノ條ニ依テ銃ケラル、ニト明白ナレ
 戰時戒嚴ヲ犯ス者ハ軍人タルトモトニ捕テス現行中捕ヘラレタル者トモト
 フ以テス後日之ヲ先罰スルヲ得一方ノ文戰目ハ敵國人ノ其本國ニ於テ敵
 逆ヲ利用スルニトテ禁セラル、ニトナシ或ハ敵ノ城塞ヲ探知シテ露シテ敵
 兵ニシメ、敵ノ軍人ヲ誘ヒテ敵隊ニシメ、敵ノ將校ニ贈賄シテ敵大ナル情
 報ヲ得、敵國人ヲ誘フテ敵制ヲ用ヒスレバ其ノ本國軍隊ニ背反セシムル等
 ハ國際法上モ禁セラル、ト爲スノ説アルモ現行ノ國際法上一カテハ禁セ
 ラレタリトスヲ得ヌ、

第七章 敵國領土ノ占領

占領トハ又戰國ノ一方ノ軍隊カ他方ノ陸地上ノ領地ニ侵入シテ中興上
 故國ノ故カク排除シ該地方ヲ自己ノ故カノ下ニ置クヲ云フ
 古ニ於テハ又戰者カ故地ヲ占領スルトキハ恰モ之ヲ自國ノ領土ノ如ク
 取扱ヒ戰争中ニ之ヲ他國ニ割譲シ又該領地ノ住民ヲ驅リテ其ノ本國ニ移
 スル戰争ニ於テ故地ヲ行ヘシメタルニトアリシモノキ古ノ戰争ノ最中ニ
 於テ戰時占領ノ之ヲ征服ト云フ然レドモ戰時占領ノ本質ニ於
 テ比シテ戰後ノ結果ノ完カニ認メラル、ニ至リテハ戰時占領ノ本質ナリトス海牙
 ノ平和會議ノ陸戰公規ニ於テ占領ニ于テ詳細ノ規定カ定メラル、ニ至
 レリ

戰時ニ於テ占領ハ占領地ニ於テ被占領國ノ本國ヲ行フノ權利ヲ停止
 セシムルモノニテラスシテ占領ノ行ハル、尙被占領國ノ本國ノ行動ヲ中
 断セシメスルニ趣キサルニト云フ被占領國カ占領ノ中興ニ依リテ其故カヲ

占領地ニ行フニトテ得レニ至ルモノナルニトハ昔ク然ラレ、所ナリ故レ
 ニ占領者ノ故カノ性質ニ于テ占領ハ事實ニ於テ外ナラスンテ占領者ノ故カハ
 事實上ノ故カナリトシ法律上ニ於テ占領者ト在テトノ千餘ハ占領者ト云ル
 所ナリトスルノ説カスク行ハレ被占領者ノ故カカ全滅被占領國ノ本國ヲ
 排除シテ彼リ占領地ニ行ハレ、ト爲ス曰被占領者ノ故カハ今日ノ國際慣例ノ實際
 ニ合セサルニト明白ナルニ曰被占領ノ正當性ニ於テタルニ至テ占領者ノ故カハ
 事實上ノ故カニ至ラズト云フ被占領者ノ正當性ヲ失セリト云フヘン被占領國ヨリ被
 占領地トモ國際法カ其説ハレ被占領ナル事實ノ成立スル條件並ニ此事實ニ基
 ク國際法上ノ結果ヲ定メ然レドモ占領者カ一國ノ範圍ノ外カ行ヒ得ヘキニト
 フルナルヲ以テ占領ナレ事實ハ國際法上ノ一ノ觀念トナリ占領者カ住民ニ
 對シテ行フテ認メラル、故カハ被占領地ノ故カトナルニ至レナリ國際法上ニ
 於テ占領者ト在テトノ千餘カ占領地ニ於テ同シト云フ故カト云フテ誤レリ
 ト云ハサルヘカラス占領者カ占領地ニ於テ行フ故カハ單純ナル事實上ノ故
 カニテラスシテ國際法ニ依リテ有故ノ條件及行動ノ範圍ヲ定メラルヘ
 夫ノ條件ノ下ニ一定ノ範圍内ニ於テ有故ト認メラル、被占領地ノ故カナリト

ノ賞アリト雖ハヘカヲナレ知人ノ行廻ノ為ニ必成上其地ノ遠近罰ヲ科スル
 コトヲ得ストノ罰限更ナリ(五〇)罰罰ノキニ於テ占領軍ハ或ハ若行廻ノ
 手前ノ處ニ戦軍上必要ナル受刑地宛望ラ占領地内ノ一定ノ人ニ取フル事アリ
 米國及英國ノ冠解ニヨリヘ海牙ノ陸戦条約第二十三條(子)可ノ本手當
 第四ノ人及ノ裁判及訴求ノ消滅、停止スル裁判上ノ不受理ヲ宣言スルコトヲ
 禁止スルノ規定ハ特ニ故地ノ占領軍ノ取方ノ制限スリトス此冠解ニ對シテ
 大陸諸國ノ文書アルコトハ免ニ之レヲ述ヘタリ
 占領軍ノ占領地ニ於ケル住民ノ身體及財產並ニ公有財產ノ取扱ニ於テ
 規定ハ別ニ之ヲ述フルヲ以テ茲ニ省略ス

第四、占領地ニ於ケル敵國ノ官公吏及裁判官

占領軍ハ領土竹屬國ノ官吏及公吏ノ職務スル者ヲ逮捕セシムルヲ得レ
 占領中ニテ其職務ヲ行ハシムルコトニ趣キ得ルニ限リ早平上ノ必要
 ナレニテアサレハ殺害シテ取テ職令ヲ執ラシムルヲ得ス、或ハ職令ニト

テ職令スル者更ニ公吏ニハ職令ニテハレ職令ノ宣達ヲ為サシムルヲ得通説ニ
 依リハ領土及テ有スル國ノ官吏ニ對シテ占領者ノ名ニ於テ職務ヲ執ルコト
 ヲ許サズレ故ハストン同地ニ其國ノ名ニ於テ職務ヲ執ルヲ得ルト雖
 亦余ハ占領軍方支店上ノ取方ヲ行フモノアリトハ敵國ノ官吏ヲ其職令トシ
 テ利用スルヲ得ルモノト爲スヲ以テ占領地カノ名ニ依リ職務ヲ執ラシメ得
 ルトス、

領土竹屬國ノ法令セル普通裁判所ノ裁判官ニ占領軍カ一時之ヲ逮捕セ
 シハレコトヲ得但之ヲ逮捕セシムル以上ノ他ハ之ニ代ヘテハ時時ニ裁判官
 ヲ任命スル所ナカレハヨラス領土竹屬國ノ任命セル裁判官カ占領軍ノ取方
 ノ下ニ在リテ其職務ヲ執ルコトヲ得スルトハ英國ノ法律ニ依リ其地ニテ
 尊重スルハナリ普通裁判所ニ於テ適用スルハ十長中及司事ニテスル法律ハ派
 別トシテ領土竹屬國ノ法律タリトス(四三參照)但早平上ノ目的又ハ公吏
 ノ職務及財産ノ維持ノ為ニ必要ナル範圍内ニ於テ一時其職務又ハ早平上ノ
 干スル法律ノ規定ヲ停止スルハ受取スルニトテ爾又職務ニ干渉アルカ又ハ早
 平上ノ安全ニ干渉アル在民ノ犯罪(戰時及逆叛他ノ嫌疑重罪ヲ含ム)及占領

レトヲ得ヘキナリ(二五)号(ト)号(ト)

故國ノ國有不動産トモテ海手ノ陸取本規ニ依リハ宗教、慈善、教育、技藝、學術ノ用ニ供セラルタル建物ハ私有財産ト同様に取扱ハルヘキモノト爲サレ(五九第一項)

故國ノ公有財産ト爲メ故國ノ市町村有ノ敷地ナレトキハ私有財産ト同様に取扱ハル(五六第一項)

故國ノ有ノ不動産(牧場)ノ必要ナルトキハ國有ナレトモ町村有ナレトモ同ハスル宗教、慈善、教育、技藝、學術ノ用ニ供セラルトモトナリ同ハス傷兵、病兵、老弱者、文藝ノ奨励等事ニ用テハ便宜ニ得ヘキナリ但し故國ノ公要上モムヲ得サル純然ノ公要ナルニテアラザレハ何等ヲモテテ中使用ヲ爲スヲ得又、宗教、慈善、教育、技藝及學術ノ用ニ供セラル、建築物、万歳上ノ紀念建造物、技藝及學術上ノ製作品ヲ故意ニ押收、破壊スルハ賦税スルニトハ爲ラザレ以テ之ヲ犯ス者ハ誅追セラルヘキモノトス(五六第一項)

故國ニ在ル公有ノ不動産

故ノ國有ノ不動産ハ之ヲ二種ニ分テ直接又ハ間接ノ課税上ノ用途ニ充テラレ得ヘキ國有不動産ハ之ヲ押收以テ以テ將其以外ノ國有不動産ハ之ヲ押收差クハ其收スルヲ得又海手ノ陸取本規ハ一地方ヲ止限シタル限ハ國有ノ所有ニ屬スル紀念建造物及有価証券貯蔵倉庫、輸送材料、在庫品及雜物其他總テ作務物件ニ供スルニトヲ得ヘキ國有不動産ノ外ニテ押收スルニトヲ得ストス(五三)國有不動産中一於テモ、宗教、慈善、教育、技藝、學術ノ用ニ供セラルタル建築物ニ屬スルモノハ取有財産ト同様に取扱セラルヘキモノトナリ(五六第一項)技藝及學術上ノ製作品ヲ故意ニ押收破壊スルハ賦税スルニトハ爲ラザレ以テ之ヲ犯ス者ハ誅追セラルヘキモノトス(五六第一項)公有不動産中間有一層セハレテ市町村有ノ有ニ屬スルモノハ私有財産ト同様に取扱ハルヘキモノトス(五六)

第四、賦税ニ供スル故ノ不動産

賦税ニ供スル故ノ不動産ニ于テハ特別ノ回數次ノ規定ヲ設ケザルヲ得ス

トキハ却テ困難ナルト雨トナリ古領界ノ利己心ニ基キ此處陸ナシ慣例ハ
新ク設取サレタリ其時支那論トシテハ大數國方公有產業ノミナラハ公有取
産ヲモテ没收スルノ権利ヲ有スト欲セラレタルニ拘ラス交際國ハ増ノ如ク又
別ヲ發行スルニトナラズ一代ヘテ限入ルル地方ノ人天ニ浮ラテ没收スル
余ヲ對スニモレリ安ニ取收スルハ其當初ニ於テハ掠奪ノ秩序地方者ト
看做スニアラナレハ掠奪ノ代價トシテ没收セルモノト看做スフ所
ハナナリ然レトモ當ノ一給テハ其數國ハ坐落セル物件ニ付シテ現金ヲ支
ハサレハ別論取收及坐落ニ對シテ没收証ヲ出サフルコトアカリナリ然
ルニ十元在純一入りテ没收シテ遊多ク取收金ハ坐落ラテスヲ遊タルモノ取
收ノ坐落セルヲ知ラズシテ遊多ク取收金ハ坐落ラテスヲ遊タルモノ取
金又ハ坐落ニ對シテ没收証ヲ出シテ遊多ク取收金ハ坐落ラテスヲ遊タル
現金ヲ以テ支取ラズシテ遊多ク取收金ハ坐落ラテスヲ遊タルモノ取
收ニ於テ支取金及坐落ハ坐落家トシテ没收地ニ於テ之ヲ行フモノニシテ
官カ取立金ニ對シテハ没收証ヲ出シテ遊多ク取收金ハ坐落ラテスヲ遊タル
現金ニハ領收証ヲ出シテ遊多ク取收金ハ坐落ラテスヲ遊タルモノ取

債ヲ得ルノ便ニ依テリ然レトモ取立金及坐落ノ類ニ干シテハ別取ラズメ
ル、ニトナカリシナリ然レニ海牙ノ條約ニ依テ没收金ニ於テ坐落一因ニテ之カ没
ラ取ルノ遊ヲ取入ルハ市町村ニ身ノル取立金及坐落ノ類ニ干シテハ別取
没取ノ没收ニ干シテ没收地ニ於テ没收金及坐落ノ類ニ干シテハ別取
金其面目ヲ改メ没取地ニ於テ没收金及坐落ノ類ニ干シテハ別取

第五、取立金

海牙ノ條約ニ依テ取立金ニ干シテハ(一)早ノ斷定ハ古領地行政上ノ
斷定ニ依ルルニ依ルルニ依リテ之ヲ早ムルヲ得ルトシ、
(二)、總指揮官ノ命令ニ依リ其責任ヲ以テスルニテラサレハ坐收スルニ
トテ得ストシ、
(三)、ハ領地ハク其土地ニ於ケル現行ノ租稅賦課ニ干スル規則ニ依リテ坐
收スハナクモトシ、

予、一切ノ兵士金ニテシテハ銅貨者ニ似水証ヲ与テハントス（海牙ノ陸
戦規則五一）

ハ兵ニテシテハ連軍ノ實アリト認ムヘカヲサシ似人ノ行態ノ為メ金銭
上其他ノ運送物ヲ科スルヲ得ヌ（五〇）故ニ都市ノ一部ノ人ノ欲以有處
ノ為メ都市金銀一考ニテ刑罰トシテ兵士金ヲ科スルヲ得ヌ

第四、 假令

海牙ノ陸戦規則ハ現西軍及俄軍ニテシテ

(一)、七領軍ノ醫隊ノ志ニムルニテアサレハ之ヲ要求ムルヲ得ヌトシ

(二)、七領地方ニテケル指揮官ノ命令ニ依リ又ハ許可ヲ得ルニテアサレハ

之ヲ要求シ得ヌトシ、

(三)、七領及敵軍ハ其地方ノ資力ニ對シテサレハカラストシ

(四)、人夫ヲシテ其本國ノ戦況ニ依リシレ依敵部隊一私ハル義公ヲ賣ハシ
メナル世賣ノモノタルヲ得ヌトス、

(五)、坐倉ニ依ル現西ノ供給ニテシテハ依ルヘク所金ニテ支給フヘク被ラ
サレハ領水番ヲ与ヘテ之ヲ証明スヘクナリ且之ニ對スレ領領ノ支取ヘ
成レハク連一發行スヘクモノトス（五二）

兵士ノ宿金ヲ令スルニトハ坐倉ノ一棟ト看做スヲ得ヘクナリ兵士ノ
宿金ノ場合ニハハ定ノ貸放敷ノ兵士ニ對スル場合ノ場所、家賃及食物ヲ
供給セシメ得ニ或ハ區區ニ對スル既國ハ秣藁ヲモ供給セシムルモノナ
リ物出ニ對スル坐倉一千ニ對シテ之レニ半用セラルヘクナリ

第十一章

陸上ニテケル敵ノ財産
ノ破壊

第一、破壊

昔時ノ戦争ニ於テハ侵入軍隊ハ其其供用スヘク破壊ヲ得サレ敵ノ公有若

ハ不測ノ敗塵ヲ屹チ又ハ破壊セリ其ノ後戰爭ニ干スル慣行強トナルニ
 及ヒテモ凶本交戦國ハ固ク去上敵ノ頭蓋ヲ破壊スルノ故利ヲ保者スト專
 帷セリタリ然レトモ災餘ニ於テ特別ノ理由ナクシテ破壊ヲ行フコト善
 ナルニ至リ今日ニ於テハ上述ノ如ク水利ハ必ず不供用ニヨリテ有賦セ
 ンノト認ムルヲ得ハキニ至レリ存牙ノ陸軍余規ハ戰事上方已ムヲ得サル
 爲心ノ外敵ノ敗塵ヲ破壊シスハ採収スルコトヲ得スト規定ス(ニニ五(ト))
 等) 似次等又ハ防禦ノ趣メ頭蓋ヲ破壊取損ハレハ戰中ノ必要上方已ムヲ
 得サレモノ一ニテ過去ナリト云ハサルヘカテ又過去ノ砲撃ニヨル諸軍ノ
 敗塵ノ破壊モ過去ト云ハサルヘカラス戦時ノ餘地場ニ於テ破壊取損ヲ行
 ヒ得ルノミナラス又戰國準備ノ趣メ又ハ水面ノ準備ノ趣メ又ハ陸軍
 進軍ノ趣メ、ルヘカテ又進軍、退軍、輸送又ハ復原ノ趣メ又ハテ得ス
 正テ行フ諸軍ノ破壊取損モ又過去ナリトス故ノ要緊ヲ占取セルトナハ之
 ヲ破壊スルヲ得ハフ故ノ要緊製造所ヲ占領スルトナハ少クシテ之等諸軍ノ破
 壊スルヲ得ヘシ又敵ノ對敵兵器ヲ占有セル軍隊ハ其兵士及千二隊スルノ
 處ヲ得トナハ之ヲ破壊スルコトヲ得得テ過去ナル破壊一対テテ賠償ヲ處
 スノ要緊ナトコト要緊ニ於テ認メラレ

井二、一般の破壊

一般の破壊ノ定義即チ敵ノ敗塵ヲ二建物、構造物、樹木、水道、井、倉庫
 已、破壊等ノ一般の破壊、取損、既取ヘシヲ行フヲ得ハキニ至ヤノ
 問題ナリ存牙ノ陸軍余規ハ戰事ノ必要上方已ムヲ得サル外敵ノ敗塵ヲ破
 壊シ又ハ採収スルコトヲ得セリ(ニニ五(ト)号)ト云モ戰事ノ必要上方已
 ムヲ得サレトナハ一般の破壊ヲ行ヒ得ハキヲ認メサルヲ得ス但一般の破
 壊ヲ許スハ十戰事ノ必要上方已ムヲ得サレトナハ、オラス例ハ既ニ占領
 セル地方ニ於テハ許天敵軍ノ場合ハ既ニ普通ノ戰國ヲ破壊スルノ力